

目 次（2024年度教養科目）

基礎ゼミナールⅠ [通年]教育経営学科	1
基礎ゼミナールⅠ [通年]競技スポーツ科学科	2
キャリアディベロップメント [通年]	4
基礎ゼミナールⅡ [通年]こども発達学科	6
表現活動による人間力養成Ⅱ	8
ゼミナールⅠ(基礎)	9
ゼミナールⅠ(基礎)	10
ゼミナールⅡ(応用)	12
表現活動による人間力養成Ⅲ	13
表現活動による人間力養成Ⅳ	14
ボランティア活動Ⅰ	15
ボランティア活動Ⅱ	17
卒業研究 [FE]	19
非認知能力育成Ⅰ [3組]	20
フレッシュマンセミナー [通年]	22
基礎ゼミナールⅠ [通年]こども発達学科	23
基礎ゼミナールⅠ [通年]健康科学科	24
基礎ゼミナールⅠ [通年]体育学科	25
基礎ゼミナールⅠ [通年]現代経営学科	26
非認知能力育成Ⅰ [2組]	27
コンピュータリテラシーⅠ [5組用]	29
コンピュータリテラシーⅠ [6組用]	31
コンピュータリテラシーⅠ [8組用]	33
英会話 [BC日本人 1組用]	35
英会話 [BC日本人 2組用]	36
英会話 [BC日本人 3組用] + BC再履修者	37
非認知能力育成Ⅰ [5組]	38
コンピュータリテラシーⅠ [1組用]	40
コンピュータリテラシーⅠ [2組用]	42
コンピュータリテラシーⅠ [3組用]	44
英会話 [BC留学生用]	46
体育実技 [FE2431組用]	47
体育実技 [FE2432組用]	48
哲学	49
表現活動による人間力養成Ⅰ	50
英会話 [FC1組用] + FC再履修者	51
体育実技 [BC留学生用]	52
体育実技 [FC用]	53
体育実技 [健康科学科用A]	54
コンピュータリテラシーⅠ [13組用]	55
コンピュータリテラシーⅠ [14組用]	57
コンピュータリテラシーⅠ [16組用]	59
TOEICⅠ	61
非認知能力育成Ⅰ [7組]	62
非認知能力育成Ⅰ [8組]	64
非認知能力育成Ⅰ [再履修者用]	66
コンピュータリテラシーⅠ [9組用]	67
TOEICⅢ	69
コンピュータリテラシーⅠ [11組用]	70
体育実技 [BC2433組用]	72
体育実技 [健康科学科用B]	73
英会話 [FE1組用][不開講]	74
英会話 [FE2組用]	75

目 次（2024年度教養科目）

英会話 [FE3組用]	76
英会話 [FE4組用] + FE再履修者	77
心理学	78
コンピュータリテラシーⅠ [BC留学生用]	79
体育実技 [BC2431組用]	81
体育実技 [BC2432組用]	82
体育実技 [FE2433組用]	83
英会話 [PP1組用]	84
英会話 [PP2組用]	85
英会話 [PP3組用]	86
英会話 [PP4組用]	87
英会話 [PP5組用] + PP再履修者	88
体育理論	89
英会話 [PH1組用]	90
英会話 [PH2組用] + PH再履修者	91
倫理学（宗教を含む）	92
コンピュータリテラシーⅡ [FE2421組用]	93
非認知能力育成Ⅱ [スタジオ]	94
コンピュータリテラシーⅡ [FE2422組用]	95
コンピュータリテラシーⅡ [PP2451組用]	96
コンピュータリテラシーⅡ [PP2452組用]	97
TOEICⅡ	98
コンピュータリテラシーⅡ [PS2432組用]	99
コンピュータリテラシーⅡ [PP2454組用]	100
コンピュータリテラシーⅡ [PP2455組用]	101
TOEICⅣ	102
コンピュータリテラシーⅡ [FC用]	103
日本国憲法 [A]	104
非認知能力育成Ⅱ [ディスカッション]	105
非認知能力育成Ⅱ [プレゼン]	106
コンピュータリテラシーⅡ [IPUNZ留学組用]	107
英会話 [PS1組用]	108
英会話 [PS2組]	109
英語Ⅰ 全学科（上級者対象）	110
英語Ⅰ 全学科（初級者対象）	111
コンピュータリテラシーⅡ [BC留学生用]	112
人権と教育 [A]	113
ビジネスコーチング	114
IPUジェネリックスキルズⅠ（非認知能力）[再履修者]	115
英語Ⅲ	116
キャリアディベロップメント [通年]留学生クラス	117
基礎ゼミナールⅡ [通年]健康科学科	118
基礎ゼミナールⅡ [通年]体育学科	119
基礎ゼミナールⅡ [通年]現代経営学科	120
基礎ゼミナールⅡ [通年]現代経営学科（留学生）	121
英語Ⅱ 全学科（上級者対象）	122
英語Ⅱ 全学科（中級者対象）	123
数学基礎Ⅰ [A]	124
人権と教育 [B]	125
人権と教育 [C]	126
数学基礎Ⅰ [B]	127
IPUジェネリックスキルズⅡ（アカデミック）[再履修]	128
IPUジェネリックスキルズⅢ（シチズンシップ）	129
英語Ⅳ	130
多文化共生のための異文化理解	131
コンピュータリテラシーⅢ	132
数学基礎Ⅱ	133
キャリアデザインⅠ [企業]	134

目 次（2024年度教養科目）

キャリアデザインⅠ [教職]	136
キャリアデザインⅠ [公務員]	137
キャリアデザインⅠ [幼保]	138
ゼミナールⅠ (基礎)	139
食育論	140
統計学	141
キャリアデザインⅠ [健康科学科用]	142
ゼミナールⅠ (基礎)	143
キャリアデザインⅠ [BC留学生用]	145
食育論	146
生命科学基礎	147
キャリアデザインⅡ [企業]	148
キャリアデザインⅡ [教職]	150
キャリアデザインⅡ [公務員]	152
キャリアデザインⅡ [幼保]	153
地理・地政学	154
キャリアデザインⅡ [健康科学科用]	155
キャリアデザインⅡ [BC留学生用]	156
コミュニケーションの心理学	157
近現代史	158
コンピュータリテラシーⅣ	159
キャリアサポート [企業]	160
キャリアサポート [教職]	161
キャリアサポート [公務員]	162
キャリアサポート [幼保]	163
キャリアサポート [健康科学科用]	164
キャリアサポート [BC留学生用]	165
コーチング基礎	166
ボランティア活動	167

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]教育経営学科			担当者名	畠中 要輔／濱嶋 幸司／竹下 厚志／伊藤 仁 美／鈴木 悠介				
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや相手や周囲の話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得及び定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	コミュニケーション	本授業の内容・メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	レポート力	FS講義を振り返り、レポートの書き方を学ぶ
3	図書館利用	図書館利用について、ビブリオバトル原稿作成
4	ビブリオバトル	ビブリオバトル原稿作成、個人面談
5	授業見学（小学校）	小学校での授業を見学する
6	学科での学び、認知能力、非認知能力	学科長講話
7	グループワーク	認知能力、非認知能力について考える
8	振り返り	前期を振り返る
9	スピーチコンテスト	スピーチコンテスト説明、原稿作成
10	スクールフェス	スクールフェス準備
11	教育社会学	教育社会学について学ぶ
12	振り返り	社会教育学についての振り返り、発表
13	キャリア	2年生に向けて、先輩の話を聞く
14	聴講	命の授業を聴講する
15	振り返り	1年間で振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]競技スポーツ科学科			担当者名	江波戸 智希/前田 誠一/宮本 彩/山本 清人/小村 淳/原田 悠平/桂 秀樹/品田 直宏				
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。主な課題管理はグーグルクラスルームを利用して行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	大学を知る①	本授業の内容・方法の理解、大学施設の確認
2	コミュニケーション	チームビルディング
3	自己を知る①	チームビルディングおよび個別面談①
4	自己を知る②	チームビルディングおよび個別面談②
5	ビブリオバトル①	原稿づくり
6	ビブリオバトル②	ビブリオバトルクラス予選
7	前期まとめ	前期振り返り
8	後期の目標設定	後期の目標設定および履修登録の確認
9	スピーチコンテスト①	スピーチ原稿づくり
10	スピーチコンテスト②	スピーチコンテストクラス予選
11	自己を知る③	チームビルディングおよび個別面談③
12	自己を知る④	チームビルディングおよび個別面談④
13	スポーツ科学を知る①	実践現場の教員による講話①
14	スポーツ科学を知る②	実践現場の教員による講話②
15	まとめ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		

| 30 | | |

科目コード	13200				区分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメント [通年]				担当者名	木戸 和彦/後藤 由佳/坂本 康輔/倉田 知秋/高橋 章二/小玉 京士朗			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	2年生におけるキャリアにおける学びのデザインキャリア形成に向けた自己分析①	・初年次部長講話・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・建学の精神について講話を聴いて深める。
3	プレゼンスキルアップ講座	・ゲストを招いて「プレゼンテーション講座」を実施する。
4	プレゼンコンテスト予選	・各会場に分かれてプレゼンコンテストを実施する。・自身のキャリアについて考えたプレゼンテーションを行う。
5	学長講話	・学長講話「キャリアについて」
6	プレゼンコンテスト代表者予選	・プレゼンコンテスト代表者予選を実施する。・自身のキャリアについて考えたプレゼンテーションを行う。
7	キャリア形成に向けた自己分析②	・自身のキャリアについて考える。
8	基礎学力試験	・基礎学力の定着度を図る。
9	キャリア①	・キャリアについてのガイダンス
10	キャリア②	・在学生を迎えて就活への道筋に関する講話
11	キャリア③	・卒業生を迎えて就活への道筋に関する講話
12	キャリア④	・三志会から就活への道筋に関する講話
13	キャリア⑤	・外部講師を迎えて就活への道筋に関する講話
14	キャリア形成に向けた自己分析③	・自身のキャリアについて考える。
15	基礎学力試験②	・1年間の総まとめ
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		

24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

科目コード	14101				区分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]こども発達学科				担当者名	後藤 由佳／小崎 遼介			
配当年次	2年	配当学期	通年(隔週)	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」について自分なりに考えを持ち、行動できる②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身につける③大学における学び：学部・学科における学びの基礎的な力を身につける④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身につける

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等を含む)(70%)、最終レポート(10%)、グループワーク等の活動における関心・意欲・態度(20%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1年間の学習に見通しを持つ	1年次の学びを振り返り、2年次の目標を設定する。
2	ディプロマポリシーと社会的意義	「次世代教育学」とは何かを考える
3	自己分析①	これまでの経験から、自身の強みや弱みについて考察する
4	自己分析②	長期的な見通しを持ちながら職業観や人生観について考える
5	プレゼンテーション①	効果的なプレゼンテーションの在り方について学ぶ
6	プレゼンテーション②	プレゼンテーションを実施し、評価とアドバイスを得る。
7	プレゼンテーション③	他者からの評価をもとにプレゼンテーションの内容を再考する。
8	半期の振り返りと評価	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見通しを立てる。
9	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取組み(体育祭準備)
10	後期の目標設定	前期を振り返り、後期の目標再設定を行い発表、意見交換を行う。
11	学科教育①	前期の自己分析をもとに「キャリア」について考える。
12	学科教育②	学科で取得する資格・免許とキャリアの関連について学ぶ。
13	学科教育③	専門教育への道筋、研究とは何かについて考える。
14	学科教育④	3年生に向けて自己課題の整理
15	1年間の振り返りと評価	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		

25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	11405				区分	教養科目			
授業科目名	表現活動による人間力養成Ⅱ				担当者名	大橋 節子／塚本 千晴／渡邊 亮			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

表現活動による人間力養成Ⅰで学習した歌・ダンス・インプロヴィゼーションなどの表現活動、及びレジリエンスの知識を応用し、岡山聾学校にて表現活動の実践指導を行う。指導に必要な手話や聴覚障害への指導上の配慮や工夫についても学習する。

<授業の到達目標>

歌・ダンス・インプロヴィゼーションなど多様な表現技法を応用し、指導上の配慮や工夫について考えながら実践指導を行う。

<授業の方法>

このクラスでは、授業に出席することを前提とし、授業内／外での活動が主となる。10月からは岡山聾学校での保健体育におけるダンス指導を行う。また、アクティブラーニングの一環として、指導上の配慮や工夫に関するディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション（発表）の機会を数多く設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習、予習：授業での学びを振り返り、指導に必要な演目の振付、指導計画を立てる。※1時間程度

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習（手話、指導上の配慮や工夫）30%、指導計画、模擬指導20%、実践指導及びグループへの貢献20%、期末レポート 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	手話、聴覚障害について（1）	手話クラス、聴覚障害について学習する
3	手話、聴覚障害について（2）	指導上の配慮や工夫について学習する
4	指導計画（1）	指導演目を習う、役割、指導計画決め
5	指導計画（2）	模擬指導の準備を行う
6	模擬指導（1）	模擬指導を実施し、指導改善を図る
7	模擬指導（2）	模擬指導を実施し、指導改善を図る
8	実践指導（1）	岡山聾学校での実践指導
9	実践指導（2）	指導の振り返り、次回の指導準備
10	実践指導（3）	岡山聾学校での実践指導
11	実践指導（4）	指導の振り返り、次回の指導準備
12	実践指導（5）	岡山聾学校での実践指導
13	実践指導（6）	指導の振り返り、次回の指導準備
14	成果発表会	岡山聾学校での実践指導、成果発表会
15	学習のまとめ	実践指導の振り返り
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55007				区分	教養			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	鈞 悠介			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義, 演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

研究は手続きが重要である。本ゼミでは、(1)望ましい論文のあり方、(2)卒論・ゼミ論や他の論文でこれまで行えてきたこと、(3)自らの問題関心の3つを軸として、4年次での研究に踏み出す見通しを立てることを目的とする。

<授業の到達目標>

・良い論文の条件を学ぶ。論文が取りうる構成や研究アプローチのいくつかを学ぶ・いくつかの論文について評価する経験を積む・他者の発表について建設的批判を加える知的態度を養う

<授業の方法>

いくつかの論文を取り上げディスカッションを行う。取り上げる論文の領域や分量、ゼミの進度等は受講者のレディネスによって柔軟に変更を加える。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習よりも復習に時間を割くこと。内容は各回の講義で指定する。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

最終課題(ゼミ論文のリサーチステートメント)30%, 各回のゼミのリフレクション60%, 受講態度10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	グラウンドルール作りとゼミの見直し	話し合いのルールを決める。ゼミの目標を共有する。
2	文献を探す	論文や書籍の検索方法, 卒論やゼミ論, 学術論文に触れる
3	良い論文の条件(1)	論文が満たすべき条件を学ぶ
4	良い論文の条件(2)	論文を評価してみる
5	論文を読む方法(1)	論文の構造を学ぶ(1)
6	論文を読む方法(2)	論文の構造を学ぶ(2)
7	論文を読む方法(3)	論文の構造を学ぶ(3)
8	本を読む方法(1)	論文以外の書籍の読解の基礎を学ぶ
9	本を読む方法(2)	論文以外の書籍の読解の基礎を学ぶ
10	アカデミックライティング(1)	論文の書き方の基礎を学ぶ(1)
11	アカデミックライティング(2)	論文の書き方の基礎を学ぶ(2)
12	問題の所在を特定する(1)	問題意識を話し合う, 派生させる, 絞り込む。
13	問題の所在を特定する(2)	先行研究を探し, 分類する。
14	リサーチクエスチョン	研究上の問いを設定する
15	前期のまとめ	ゼミの振り返り, および後期のスケジュールと目標を共有する。
16	研究方法について(1)	いくつかの研究アプローチと導くことのできる結論の方向性を学ぶ
17	研究方法について(2)	研究倫理について学ぶ
18	研究結果について(1)	それぞれの研究アプローチにおいて記述される内容を学ぶ(1)
19	研究結果について(2)	研究の問いと研究結果の対応関係を考える
20	考察について(1)	結論と考察を区別する
21	考察について(2)	考察に加える記述の種類を学ぶ
22	結論(まとめ)について(1)	結論として記述されるものの種類について学ぶ
23	結論(まとめ)について(2)	結論からさかのぼって考える
24	研究のサイズを考える(1)	実現可能な卒業論文・ゼミ論文の規模感を話し合う
25	研究のサイズを考える(2)	実現可能な卒業論文・ゼミ論文の規模感を話し合う
26	リサーチステートメントを作る(1)	自分の研究を説明する短かい文章を作る
27	リサーチステートメントを作る(2)	自分の研究を説明する短かい文章を作る
28	リサーチステートメントを作る(3)	自分の研究を説明する短かい文章を作る
29	後期のまとめ	後期の学習内容を振り返る
30	1年のまとめ	1年間の学びを振り返り, 次年度の計画を考える

科目コード	55007				区分	教養			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナール I (基礎) では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。 2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度求める。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ゼミナール I (基礎) の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10

29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

科目コード	55008				区 分	教養			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠ（応用）では、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。 2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	11408				区分	教養科目			
授業科目名	表現活動による人間力養成Ⅲ				担当者名	大橋 節子／塚本 千晴／渡邊 亮			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

表現活動による人間力養成ⅠⅡで学習した表現活動やその知識、実践指導の経験を生かし、学外の学校現場にて発展的な実践指導を行う授業である。表現教育の実践者として、参加者の非認知能力獲得を促していく立場となる。

<授業の到達目標>

歌・ダンス・インプロヴィゼーションなど多様な表現技法を応用し、指導目的を達成するための指導計画や指導上の工夫を組み込んだ発展的な実践指導を行う。参加者の非認知能力獲得を促す指導計画について、考察する。

<授業の方法>

このクラスでは、授業に出席することを前提とし、授業内／外での活動が主となる。学習の成果として、学外の学校現場において実践指導を行う。また、アクティブラーニングの一環として、指導上の配慮や工夫に関するディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション（発表）の機会を数多く設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習、予習：授業での学びを振り返り、指導に必要な演目の振付、指導計画を立てる。※1時間程度

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習30%、指導計画、模擬指導20%、実践指導及びグループへの貢献20%、期末レポート 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	事前学習(1)	実践指導先の学校や児童・生徒に関する事前学習
3	事前学習(2)	指導演目の学習
4	指導計画(1)	指導役割、指導計画を作成する
5	指導計画(2)	模擬指導の準備を行う
6	模擬指導	模擬指導を実施し、指導改善を図る
7	実践指導(1)	実践指導
8	実践指導(2)	実践指導
9	実践指導(3)	実践指導
10	実践指導(4)	実践指導
11	実践指導(5)	実践指導
12	実践指導(6)	実践指導
13	実践指導(7)	実践指導
14	実践指導(8)	実践指導
15	学習のまとめ	実践指導の振り返り
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	11409				区 分	教養科目			
授業科目名	表現活動による人間力養成Ⅳ				担当者名	大橋 節子／塚本 千晴／渡邊 亮			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

表現活動による人間力養成ⅠⅡⅢで学習した表現活動やその知識、実践指導の経験を生かし、学外の学校現場における実践指導を運営していく授業である。表現教育の実践者として、参加者の非認知能力獲得を促していく立場となる。

<授業の到達目標>

歌・ダンス・インプロヴィゼーションなど多様な表現技法を応用し、指導目的を達成するための指導計画や指導上の工夫を組み込んだ発展的な実践指導を運営する。参加者の非認知能力獲得を促す指導計画について、考察する。

<授業の方法>

このクラスでは、授業に出席することを前提とし、授業内／外での活動が主となる。学習の成果として、学外の学校現場において実践指導を行う。また、アクティブラーニングの一環として、指導上の配慮や工夫に関するディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション（発表）の機会を数多く設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習、予習：授業での学びを振り返り、指導に必要な演目の振付、指導計画を立てる。※1時間程度

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習30%、指導計画、模擬指導20%、実践指導及びグループへの貢献20%、期末レポート 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	事前学習(1)	実践指導先の学校や児童・生徒に関する事前学習
3	事前学習(2)	指導演目の学習
4	指導計画(1)	指導役割、指導計画を作成する
5	指導計画(2)	模擬指導の準備を行う
6	模擬指導	模擬指導を実施し、指導改善を図る
7	実践指導(1)	実践指導
8	実践指導(2)	実践指導
9	実践指導(3)	実践指導
10	実践指導(4)	実践指導
11	実践指導(5)	実践指導
12	実践指導(6)	実践指導
13	実践指導(7)	実践指導
14	実践指導(8)	実践指導
15	学習のまとめ	実践指導の振り返り
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	14201				区分	教養科目			
授業科目名	ボランティア活動 I				担当者名	小川 正人			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、ボランティア活動に対する関心が高まっており、その分野は福祉、教育、まちづくり、文化・芸術、スポーツ、環境、災害、国際協力など多岐・多様に渡っている。これからの社会を考えると、一人ひとりが地域における課題を察知・認識し、課題解決に向け主体的に行動・活動することが求められる。本授業では、「ボランティアやボランティア活動とは何か」を理解し、実際の活動を通じて、地域社会が直面する課題を考えていく。

<授業の到達目標>

ボランティア活動をおこなう地域、施設、団体などの沿革・事業を理解するとともに、社会貢献としてのボランティア活動の意義を体得する。

<授業の方法>

講義に加えてディスカッションやグループワークを通して「ボランティアとは何か」「ボランティア活動に必要なマナーは何か」を学習する。自分が選んだ地域・施設・団体において最低20時間のボランティア活動を体験する。事前指導、事後指導（レポート作成）、そして最後にボランティア活動の成果報告会をおこなう。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学修：事前指導，事後学修：事後指導（レポート作成）、報告会などの諸活動に参加する事とする。それぞれの活動に関しては各1時間程度の準備をしてほしい。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ガイダンス/オリエンテーション参加10%、ボランティア活動レポート70%、ボランティア活動発表20% ボランティア活動レポートおよび活動発表（動画）はClassroomを活用する。ボランティア活動期間中はユニパにおいて学生・教員間および学生間の情報交換をおこなう。

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ボランティアとは何か
2	ボランティアマナーについて	ボランティア活動を始めるにあたっての注意点およびマナー
3	ボランティア事前指導（1）	どのようなボランティア活動をしたいか考える
4	ボランティア事前指導（2）	ボランティア活動先を探す（1）
5	ボランティア事前指導（3）	ボランティア活動先を探す（2）
6	ボランティア活動（1）	地域・施設・団体でのボランティア活動（1）
7	ボランティア活動（2）	地域・施設・団体でのボランティア活動（2）
8	ボランティア活動（3）	地域・施設・団体でのボランティア活動（3）
9	ボランティア活動（4）	地域・施設・団体でのボランティア活動（4）
10	ボランティア活動（5）	地域・施設・団体でのボランティア活動（5）
11	ボランティア活動（6）	地域・施設・団体でのボランティア活動（6）
12	ボランティア活動（7）	地域・施設・団体でのボランティア活動（7）
13	ボランティア事後指導（1）	レポート・発表指導（1）
14	ボランティア事後指導（2）	レポート・発表指導（2）
15	ボランティア活動発表（動画作成）	ボランティア活動を通して学んだこと、感じたこと、変わったことについて
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		

28		
29		
30		

科目コード	14202				区分	教養科目			
授業科目名	ボランティア活動Ⅱ				担当者名	小川 正人			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、ボランティア活動に対する関心が高まっており、その分野は福祉、教育、まちづくり、文化・芸術、スポーツ、環境、災害、国際協力など多岐・多様に渡っている。これからの社会を考えると、一人ひとりが地域における課題を察知・認識し、課題解決に向け主体的に行動・活動することが求められる。本授業では、「ボランティアやボランティア活動とは何か」を理解し、実際の活動を通じて、地域社会が直面する課題を考えていく。受講者は既に「ボランティア活動Ⅰ」を受講した者とするが、「ボランティア活動Ⅰ」との同時受講も認める。その際は、ボランティア時間が合計40時間（各20時間）となることを理解してほしい。

<授業の到達目標>

ボランティア活動をおこなう地域、施設、団体などの沿革・事業を理解するとともに、社会貢献としてのボランティア活動の意義を体得する。

<授業の方法>

講義に加えてディスカッションやグループワークを通して「ボランティアとは何か」「ボランティア活動に必要なマナーは何か」を学習する。自分が選んだ地域・施設・団体において最低20時間のボランティア活動を体験する。事前指導、事後指導（レポート作成）、そして最後にボランティア活動の成果報告会をおこなう。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学修：事前指導，事後学修：事後指導（レポート作成）、報告会などの諸活動に参加する事とする。それぞれの活動に関しては各1時間程度の準備をしてほしい。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ガイダンス/オリエンテーション参加10%、ボランティア活動レポート70%、ボランティア活動発表20%。ボランティア活動レポートおよび活動発表（動画）はClassroomを活用する。ボランティア活動期間中はユニパにおいて学生・教員間および学生間の情報交換をおこなう。

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ボランティアとは何か
2	ボランティアマナーについて	ボランティア活動を始めるにあたっての注意点およびマナー
3	ボランティア事前指導（1）	どのようなボランティア活動をしたいか考える
4	ボランティア事前指導（2）	ボランティア活動先を探す（1）
5	ボランティア事前指導（3）	ボランティア活動先を探す（2）
6	ボランティア活動（1）	地域・施設・団体でのボランティア活動（1）
7	ボランティア活動（2）	地域・施設・団体でのボランティア活動（2）
8	ボランティア活動（3）	地域・施設・団体でのボランティア活動（3）
9	ボランティア活動（4）	地域・施設・団体でのボランティア活動（4）
10	ボランティア活動（5）	地域・施設・団体でのボランティア活動（5）
11	ボランティア活動（6）	地域・施設・団体でのボランティア活動（6）
12	ボランティア活動（7）	地域・施設・団体でのボランティア活動（7）
13	ボランティア事後指導（1）	レポート・発表指導（1）
14	ボランティア事後指導（2）	レポート・発表指導（2）
15	ボランティア活動発表（動画作成）	ボランティア活動を通して学んだこと、感じたこと、変わったことについて
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		

27	
28	
29	
30	

科目コード	55000				区 分	教養			
授業 科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演 習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠ（応用）では、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。 2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	14208				区分	教養			
授業科目名	非認知能力育成 I [3組]				担当者名	中原 朋生			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

本授業は、非認知能力（五訓）の向上のためにチーム学習を展開し①IPUの特徴を発信するとともに、②現代の諸課題に関する議論学習を展開する。

<授業の到達目標>

①学生は非認知能力（五訓）の到達度を自己評価できる。②学生はIPUの魅力を自分自身の言葉で説明できる。③学生は現代の諸課題に関する議論ができる。④学生はチーム活動における自分の役割を果たすことができる。

<授業の方法>

本授業は非認知能力育成専用学舎ディスカバリーを全面的に活用し、「チームビルディング→発見→探究→提案」の4つのプロセスを1つのプロジェクト学習として授業を展開する。本授業では「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」と「現代の諸課題に関する議論」の2つのプロジェクト学習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①非認知能力の基礎事項を学んでおく。②環太平洋大学の基礎事項を学んでおく。③現代の諸課題に関する基礎事項を学んでおく。④上記に加えて各授業でチームで取り組む準備学習を指示する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

googleクラスルームを使用し課題配付・フィードバックを行う。・事前アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・中間アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・事後アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・振り返りレポート①：チーム作りと環太平洋大学を知る（1回から4回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート②：環太平洋大学PRプレゼン（5回から8回）までのレポート（20点）・振り返りレポート③：現代の諸課題の発見（9回から10回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート④：現代の諸課題の解決に向けた提案（12回から14回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート⑤：非認知能力育成 I（1回から15回）全体の振り返り（20点）

<教科書>

教科書は使用せず適宜資料を配付する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・本授業の目的と内容に関するオリエンテーション・IPU環太平洋大学の歴史・学科構成・理念・五訓の概要
2	五訓ルーブリックを活用した自己紹介(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・五訓ルーブリックを活用した自己評価(紙媒体)・五訓ルーブリックを活用した自己紹介(他者評価も踏まえて客観化)・五訓ルーブリックを活用した自己評価の修正(Googleフォーム)
3	発見①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学の特徴」の発見・教育理念・学部学科の特徴・初年次教育、キャリア教育、部活動
4	発見②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・環太平洋大学キャンパスの魅力発見・例)非認知能力育成専用学舎「ディスカバリー」の魅力発見・チーム毎にディスカバリーを探索する・各教室で学んでみたいことを考える。・地域の方にディスカバリーを紹介しよう。
5	探究①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」の企画・PRポイント、特徴の探究・プレゼンテーションのイメージ作り
6	探究②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン作成・プレゼンテーションスライド作成(1名1枚必ず作成)・プレゼンテーションの役割分担(1名1枚必ずプレゼン)・リハーサル
7	提案①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会前半・プレゼン大会の概要とプレゼンのポイント・プレゼンテーション発表会(前半10グループ)
8	提案②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会後半・プレゼンテーション発表会(後半10グループ)・プレゼン大会の振り返りと講評
9	発見①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題のトピックスを探そう(個人・大学・地域レベル)
10	発見②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題のトピックスを探そう(日本・国際社会レベル)
11	探究①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題を深く議論しよう(個人・大学・地域レベル)
12	探究②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題を深く議論しよう(日本・国際社会レベル)

13	提案①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸課題を解決するための提案をしよう(個人・大学・地域レベル)
14	提案②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸課題を解決するための提案をしよう(日本・国際社会レベル)
15	・五訓ルーブリックを活用した自己成長の紹介	・五訓ルーブリックを活用した自己評価(紙媒体)・五訓ルーブリックを活用した自己紹介(他者評価も踏まえて客観化)・五訓ルーブリックを活用した自己評価の修正(Googleフォーム)
16		

科目コード	13100				区分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]				担当者名	浅田 栄里子/仙波 慎平/三垣 雅美/藤井 健太郎/坂本 賢広/江波戸 智希/畠中 要輔 /酒井 健太郎			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①読解力や傾聴力、書く力を身に付ける。②スピーチする力を身に付ける。③学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける。④大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話） 2. グループワーク 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間瀬 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等） 副学長講話	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	自己理解①	現時点の社会人基礎力を把握する
3	建学の精神①学長講話	大学の教育方針・伝える力について考える
4	ビブリオバトル予選①	ビブリオバトルを予選を行う
5	ビブリオバトル予選②	ビブリオバトルを予選を行う
6	建学の精神②副学長講話	基礎学力の必要性について考える
7	自己理解②	社会人基礎力の変化について考える
8	前期まとめ（基礎学力試験）	大学生活について考える①
9	スピーチスキルアップ講座	スピーチ力を向上させる
10	スピーチコンテスト予選①	スピーチコンテスト予選を行う
11	スピーチコンテスト予選②	スピーチコンテストの予選を行う
12	建学の精神③学長講話	非認知能力について考える
13	スピーチコンテスト代表者予選	各組の代表者スピーチを聞き評価を行う
14	自己理解③	1年間の振り返りと2年生に向けた課題設定を行う
15	2年生に向けて（文章力検定）	大学生活を振り返る②1年間の振り返りを行う、かつ、文章力検定の実施
16		

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]こども発達学科			担当者名	酒井 健太郎／宮原 舞				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学習と連動するかたちで、「自分の意見を伝えること」「話を聞くこと」「内容をまとめる（書く）こと」ができるようになるための基礎的スキルを身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣を確立することができる②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身につける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学習について、グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）復習：授業内で行ったことの見直し（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	自己紹介・履修について
2	大学生活（1）	大学生活について考える①
3	ビブリオバトル（1）	ビブリオバトル原稿作成・個別面談
4	ビブリオバトル（2）	原稿ブラッシュアップ・個別面談①
5	ビブリオバトル（3）	原稿ブラッシュアップ・個別面談②
6	My Favorite Book コンテスト	My Favorite Book コンテストに向けての準備
7	大学生活（2）	大学生活について考える②・前期振り返り
8	大学生活（3）	1年後期の目標設定
9	スピーチコンテスト（1）	1分間スピーチ 原稿作成
10	スピーチコンテスト（2）	原稿ブラッシュアップ・個別面談①
11	スピーチコンテスト（2）	原稿ブラッシュアップ・個別面談②
12	大学生活（4）	大学生活について考える③
13	大学生活（5）	2年生に向けて①
14	大学生活（6）	2年生に向けて②
15	大学生活（7）	1年生の振り返り（2年生に向けて目標設定）
16		

科目コード	14100				区分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I [通年]健康科学科				担当者名	坂本 賢広/河野 儀久/簀戸 崇史			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。また、自身が目指す進路の社会的情勢を把握し、今求められる人材について把握する。そして社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、相手に伝える能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとりグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即した内容の予習、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題評価 90%、授業態度10%、

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本学における取得可能な資格と進路の関わり
2	学びと将来の進路 1	目標とする資格や免許、希望進路について調査
3	学びと将来の進路 2	医療従事とは（柔道整復師業務と人の身体の仕組み）
4	学びと将来の進路 3	柔道整復師の業界を知る①
5	学びと将来の進路 4	健康・医療・スポーツと柔道整復師 1（柔道整復師業務と外傷について）
6	学びと将来の進路 5	健康・医療・スポーツと柔道整復師 2（柔道整復師業務と外傷について）
7	大学生活の振り返り 1	半期の振り返りと後期にむけての目標設定
8	学びと将来の進路 6	目標とする資格・免許、進路希望、学科での学びについて各種現場での活動例（接骨院、医療機関、救護活動、トレーナー活動）とは
9	学びと将来の進路 7	相手に思いを伝えるスピーチとは？
10	学びと将来の進路 8	柔道整復師の業界を知る②
11	学びと将来の進路 9	健康・医療・スポーツと柔道整復師 3（柔道整復師業務と応急処置について）
12	学びと将来の進路10	健康・医療・スポーツと柔道整復師 4（柔道整復師業務と外傷・障害予防について（テーピングとは））
13	学びと将来の進路11	健康・医療・スポーツと柔道整復師 5（柔道整復師業務と外傷・障害予防について（ストレッチとは））
14	学びと将来の進路12	健康・医療・スポーツと柔道整復師 6（まとめ）
15	1年間の振り返りを行うとともに、次年度の目標設定	1年間の振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。
16		

科目コード	14100				区分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]体育学科				担当者名	仙波 慎平/清田 美紀/白石 翔/梶谷 亮 輔/浦 佑大/國友 亮佑/十河 直太/坂手 雅斗/大井 理緒			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	ニュースポーツ体験
3	自己を知る②	ニュースポーツ体験②
4	自己を知る③	メンター体験談
5	プレゼン①	ビブリオバトルの原稿作り
6	プレゼン①	ビブリオバトル発表
7	コミュニティの形成	他クラスとの交流
8	大学を知る②	後期の目標設定および履修登録の確認
9	プレゼン②	スピーチコンテストの原稿作り
10	プレゼン②	スピーチコンテストクラス予選
11		
12		
13	進路について	進路について実情を調べる
14	進路について	調べた内容をプレゼン発表する
15	まとめ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。
16		

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]現代経営学科			担当者名	三垣 雅美/Jason Witthaus/歌代 哲也/高 鷲 翔/降屋 丞				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指します。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、課題への取組み50%、発表等の説得力および独自性20%

<教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・キャンパスマップ・ハザードマップ（防災）作成①	本授業の内容・方法の理解、大学施設の確認
2	・キャンパス・ハザードマップ（防災）作成・発表・大学内の部署・施設の役割について知る	大学で学ぶために各部署の働きを知る
3	・学科で学ぶことを考える①	所属学科での学びについて自分の意見を発表する
4	・学科で学ぶことを考える②	所属学科での学びについてまとめる
5	・図書館活用する	図書館を活用しビブリオバトルの書籍を探す
6	・ビブリオバトル（クラス予選）	選定した書籍をもとにスピーチする
7	・夏季休暇中のリスクやトラブルの適切な対応方法を考える	大学1年生の夏季休暇について考える
8	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
9	・スピーチ内容を考える	話す内容を考える
10	・プレ・スピーチとブラッシュアップ	1分間スピーチを行う
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	・代表スピーカーのPR動画を作成	クラス代表者のアピール動画を作成する
13	・スピーチ改善・原稿ブラッシュアップ 「代表学生を踏まえ、課題の抽出と改善案を検討」	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。
16		

科目コード	14208				区分	教養			
授業科目名	非認知能力育成 I [2組]				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

本授業は、非認知能力（五訓）の向上のためにチーム学習を展開し①IPUの特徴を発信するとともに、②現代の諸課題に関する議論学習を展開する。

<授業の到達目標>

①学生は非認知能力（五訓）の到達度を自己評価できる。②学生はIPUの魅力を自分自身の言葉で説明できる。③学生は現代の諸課題に関する議論ができる。④学生はチーム活動における自分の役割を果たすことができる。

<授業の方法>

本授業は非認知能力育成専用学舎ディスカバリーを全面的に活用し、「チームビルディング→発見→探究→提案」の4つのプロセスを1つのプロジェクト学習として授業を展開する。本授業では「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」と「現代の諸課題に関する議論」の2つのプロジェクト学習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①非認知能力の基礎事項を学んでおく。②環太平洋大学の基礎事項を学んでおく。③現代の諸課題に関する基礎事項を学んでおく。④上記に加えて各授業でチームで取り組む準備学習を指示する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

googleクラスルームを使用し課題配付・フィードバックを行う。・事前アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・中間アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・事後アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・振り返りレポート①：チーム作りと環太平洋大学を知る（1回から4回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート②：環太平洋大学PRプレゼン（5回から8回）までのレポート（20点）・振り返りレポート③：現代の諸課題の発見（9回から10回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート④：現代の諸課題の解決に向けた提案（12回から14回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート⑤：非認知能力育成 I（1回から15回）全体の振り返り（20点）

<教科書>

教科書は使用せず適宜資料を配付する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・本授業の目的と内容に関するオリエンテーション・IPU環太平洋大学の歴史・学科構成・理念・五訓の概要
2	五訓ルーブリックを活用した自己紹介(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・五訓ルーブリックを活用した自己評価(紙媒体)・五訓ルーブリックを活用した自己紹介(他者評価も踏まえて客観化)・五訓ルーブリックを活用した自己評価の修正(Googleフォーム)
3	発見①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学の特徴」の発見・教育理念・学部学科の特徴・初年次教育、キャリア教育、部活動
4	発見②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・環太平洋大学キャンパスの魅力発見・例)非認知能力育成専用学舎「ディスカバリー」の魅力発見・チーム毎にディスカバリーを探検する・各教室で学んでみたいことを考える。・地域の方にディスカバリーを紹介しよう。
5	探究①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」の企画・PRポイント、特徴の探究・プレゼンテーションのイメージ作り
6	探究②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン作成・プレゼンテーションスライド作成(1名1枚必ず作成)・プレゼンテーションの役割分担(1名1枚必ずプレゼン)・リハーサル
7	提案①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会前半・プレゼン大会の概要とプレゼンのポイント・プレゼンテーション発表会(前半10グループ)
8	提案②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会後半・プレゼンテーション発表会(後半10グループ)・プレゼン大会の振り返りと講評
9	発見①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題のトピックスを探そう(個人・大学・地域レベル)
10	発見②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題のトピックスを探そう(日本・国際社会レベル)
11	探究①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題を深く議論しよう(個人・大学・地域レベル)
12	探究②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題を深く議論しよう(日本・国際社会レベル)

13	提案①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸課題を解決するための提案をしよう(個人・大学・地域レベル)
14	提案②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸課題を解決するための提案をしよう(日本・国際社会レベル)
15	・五訓ルーブリックを活用した自己成長の紹介	・五訓ルーブリックを活用した自己評価(紙媒体)・五訓ルーブリックを活用した自己紹介(他者評価も踏まえて客観化)・五訓ルーブリックを活用した自己評価の修正(Googleフォーム)
16		

科目コード	10204				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [5組用]				担当者名	本庄 慶樹			
相当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、大学生として必要・十分なコンピュータースキル・情報リテラシーを習得することを目標とする。また、Web情報検索からのキュレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）図形描画と画像の挿入	スクリーンショット、図形挿入と描画ツール、画像処理、アクセシビリティを考える
6	Wordビジネス文書（3）スマートアート	スマートアートを基に文章のまとめ、アウトラインを考える
7	Wordレポート（1）表組	文字を表にする、表組を使って体裁を整える
8	Wordレポート（2）スタイルとデザイン	スタイルやテンプレートの意義を考える
9	Wordレポート（3）レポート作成	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション

15	料制作	プレゼンテーション資料や配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16	PowerPoint総合課題	

科目コード	10204				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [6組用]				担当者名	木戸 和彦			
相当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、大学生として必要・十分なコンピュータースキル・情報リテラシーを習得することを目標とする。また、Web情報検索からのキュレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション

15	料制作	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16	PowerPoint総合課題	

科目コード	10204				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [8組用]				担当者名	仙波 慎平			
相当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータースキル・情報リテラシーを習得することを目標とする。また、Web情報検索からのキュレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必修である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りていないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10101				区分	教養科目			
授業科目名	英会話 [BC日本人1組用]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話 [BC日本人2組用]			担当者名	SACKO Salif				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話 [BC日本人3組用]+BC再履修者			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	14208				区分	教養			
授業科目名	非認知能力育成 I [5組]				担当者名	小川 正人			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

本授業は、非認知能力（五訓）の向上のためにチーム学習を展開し①IPUの特徴を発信するとともに、②現代の諸課題に関する議論学習を展開する。

<授業の到達目標>

①学生は非認知能力（五訓）の到達度を自己評価できる。②学生はIPUの魅力を自分自身の言葉で説明できる。③学生は現代の諸課題に関する議論ができる。④学生はチーム活動における自分の役割を果たすことができる。

<授業の方法>

本授業は非認知能力育成専用学舎ディスカバリーを全面的に活用し、「チームビルディング→発見→探究→提案」の4つのプロセスを1つのプロジェクト学習として授業を展開する。本授業では「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」と「現代の諸課題に関する議論」の2つのプロジェクト学習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①非認知能力の基礎事項を学んでおく。②環太平洋大学の基礎事項を学んでおく。③現代の諸課題に関する基礎事項を学んでおく。④上記に加えて各授業でチームで取り組む準備学習を指示する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

googleクラスルームを使用し課題配付・フィードバックを行う。・事前アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・中間アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・事後アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・振り返りレポート①：チーム作りと環太平洋大学を知る（1回から4回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート②：環太平洋大学PRプレゼン（5回から8回）までのレポート（20点）・振り返りレポート③：現代の諸課題の発見（9回から10回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート④：現代の諸課題の解決に向けた提案（12回から14回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート⑤：非認知能力育成 I（1回から15回）全体の振り返り（20点）

<教科書>

教科書は使用せず適宜資料を配付する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・本授業の目的と内容に関するオリエンテーション・IPU環太平洋大学の歴史・学科構成・理念・五訓の概要
2	五訓ルーブリックを活用した自己紹介(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・五訓ルーブリックを活用した自己評価(紙媒体)・五訓ルーブリックを活用した自己紹介(他者評価も踏まえて客観化)・五訓ルーブリックを活用した自己評価の修正(Googleフォーム)
3	発見①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学の特徴」の発見・教育理念・学部学科の特徴・初年次教育、キャリア教育、部活動
4	発見②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・環太平洋大学キャンパスの魅力発見・例)非認知能力育成専用学舎「ディスカバリー」の魅力発見・チーム毎にディスカバリーを探索する・各教室で学んでみたいことを考える。・地域の方にディスカバリーを紹介しよう。
5	探究①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」の企画・PRポイント、特徴の探究・プレゼンテーションのイメージ作り
6	探究②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン作成・プレゼンテーションスライド作成(1名1枚必ず作成)・プレゼンテーションの役割分担(1名1枚必ずプレゼン)・リハーサル
7	提案①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会前半・プレゼン大会の概要とプレゼンのポイント・プレゼンテーション発表会(前半10グループ)
8	提案②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会後半・プレゼンテーション発表会(後半10グループ)・プレゼン大会の振り返りと講評
9	発見①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題のトピックスを探そう(個人・大学・地域レベル)
10	発見②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題のトピックスを探そう(日本・国際社会レベル)
11	探究①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題を深く議論しよう(個人・大学・地域レベル)
12	探究②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題を深く議論しよう(日本・国際社会レベル)

13	提案①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸課題を解決するための提案をしよう(個人・大学・地域レベル)
14	提案②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸課題を解決するための提案をしよう(日本・国際社会レベル)
15	・五訓ルーブリックを活用した自己成長の紹介	・五訓ルーブリックを活用した自己評価(紙媒体)・五訓ルーブリックを活用した自己紹介(他者評価も踏まえて客観化)・五訓ルーブリックを活用した自己評価の修正(Googleフォーム)
16		

科目コード	10204				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [1組用]				担当者名	本庄 慶樹			
相当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、大学生として必要・十分なコンピュータースキル・情報リテラシーを習得することを目標とする。また、Web情報検索からのキュレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）図形描画と画像の挿入	スクリーンショット、図形挿入と描画ツール、画像処理、アクセスビリティを考える
6	Wordビジネス文書（3）スマートアート	スマートアートを基に文章のまとめ、アウトラインを考える
7	Wordレポート（1）表組	文字を表にする、表組を使って体裁を整える
8	Wordレポート（2）スタイルとデザイン	スタイルやテンプレートの意義を考える
9	Wordレポート（3）レポート作成	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション

15	料制作	プレゼンテーション資料や配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16	PowerPoint総合課題	

科目コード	10204				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [2組用]				担当者名	木戸 和彦			
相当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、大学生として必要・十分なコンピュータースキル・情報リテラシーを習得することを目標とする。また、Web情報検索からのキュレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション

15	料制作	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16	PowerPoint総合課題	

科目コード	10204				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [3組用]				担当者名	田中 耕作			
相当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータースキル・情報リテラシーを習得することを目標とする。また、Web情報検索からのキュレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必修である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10101				区分	教養科目			
授業科目名	英会話 [BC留学生用]				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技 [FE2431組用]			担当者名	伊藤 三千雄				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニング、器械運動、アダプテッドスポーツを実践するだけでなく客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動	この後の授業でも適宜実施、トップガン見学など
3	球技(ゴール型、ネット型、ベースボール型)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
4	球技(ゴール型、ネット型、ベースボール型)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
5	球技(ゴール型、ネット型、ベースボール型)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
6	球技(ゴール型、ネット型、ベースボール型)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
7	器械運動	マット運動、跳び箱など
8	器械運動	マット運動、跳び箱など
9	器械運動	マット運動、跳び箱など
10	器械運動	マット運動、跳び箱など
11	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技 [FE2432組用]			担当者名	田中 耕作				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニング、器械運動、アダプテッドスポーツを実践するだけでなく客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動	この後の授業でも適宜実施、トップガン見学など
3	球技(ゴール型、ネット型、ベースボール型)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
4	球技(ゴール型、ネット型、ベースボール型)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
5	球技(ゴール型、ネット型、ベースボール型)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
6	球技(ゴール型、ネット型、ベースボール型)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
7	器械運動	マット運動、跳び箱など
8	器械運動	マット運動、跳び箱など
9	器械運動	マット運動、跳び箱など
10	器械運動	マット運動、跳び箱など
11	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	アダプテッドスポーツ	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	11102			区分	教養				
授業科目名	哲学			担当者名	酒井 健太郎				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

著名な哲学者2人の言葉を借りれば、哲学とは「驚き」から始まり、それを遂行した結果として「世界の新しいイメージ」を獲得できるものである。それを哲学的な営みと自覚していなかったとしても、われわれは日常において不可思議なことに驚き、それについて探究することで自身の思考が刷新されるという経験をしたことがあるだろう。この授業は、学問としての哲学という枠組みのもとで、そのような経験を洗練させていくものである。その際には、過去の哲学者たちの探究成果を適切な仕方でも借り、厳密な論理に基づいて自身の主張を提示する必要がある。

<授業の到達目標>

①哲学においてどのようなことが問題となっているかを理解する。②過去の哲学者たちがそれらの問題にどのように応答したかを説明できる。③①と②に基づき、哲学的問題についての自身の見解を適切に論証しようとする態度を持つことができる。

<授業の方法>

講義を中心に行う。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：その授業回で扱うトピックについて調べ自分なりの考えを持っておく。(1時間) 復習：授業内で提示された参考文献を熟読することで当該トピックについての理解を深める。(1時間)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内評価30%、期末試験70%

<教科書>

<参考書>

ステイブン・ロー (2013年8月) 考える力をつける哲学問題集 筑摩書房
 麻生博之、城戸淳 編 (2006年5月) 哲学の問題群—もういちど考えてみること ナカニシヤ出版
 ナイジェル・ウォーバートン (2010年7月) 哲学の基礎 講談社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	哲学とは何か?	イントロダクション
2	昨日の私と今日の私は同じか?	心身問題と人の同一性
3	すべてのことはあらかじめ決まっているのか?	自由意志、決定論、偶然性
4	今この世界と異なる世界は存在するのか?	様相と可能世界
5	時は流れるのか?	時間論
6	人とロボットはどこで異なるのか?	意識
7	他人の心を知ることはできるのだろうか?	懐疑論と他我問題
8	その考えはなぜ正しいのか?	知識
9	普遍的なものは(どこに)存在するのか?	普遍論争と個物の存在論
10	なぜそれが芸術なのか?	芸術の定義と美的判断
11	部分が先?全体が先?	部分と全体
12	言葉の意味はどう決まる?	言語の意味
13	本当のこととは何か?	真理論
14	われわれは何のために生きているのだろうか?	人生の意味
15	「それって何の役に立つんですか?」	哲学の「有用性」
16		

科目コード	11404				区 分	教養科目			
授業科目名	表現活動による人間力養成 I				担当者名	大橋 節子／塚本 千晴／渡邊 亮／四宮 貴久			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

歌・ダンス・インプロヴィゼーションなどの表現活動を活動の主軸とし、レジリエンスを培いながら自己表現方法を開発していく授業である。歌やダンスを通して、声の表現技法や異なる身体表現法・プレゼンテーションスタイルに挑戦していくことで、ユニークに自身を表現する方法を探求していく。

<授業の到達目標>

音楽・歌・ダンス・インプロヴィゼーションなど多様な表現技法に触れる中で、自己理解を深め自分らしく表現することが出来る基礎を築く。また、表現活動によって培うことのできる非認知能力についての知識を獲得する。

<授業の方法>

このクラスでは、授業に出席することを前提とし、授業内での活動が主となる。各回のテーマに沿って、理論と実技を並行して行う。また、アクティブラーニングの一環として、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション（発表）の機会を数多く設け、学期末には期末レポートと併せて成果発表のショーを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：授業での学びを振り返り、自身の学習過程を課題にまとめる。また、必要に応じて振り付けや歌詞の復習を行う。※1時間程度

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

グループワークへの貢献40%、クラスルーム課題30%、期末レポート 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	アイスブレイク	アイスブレイク、プレゼンテーション課題
3	身体表現、音楽表現（1）	ダンスを通じた身体表現、プレゼンテーション準備
4	身体表現、音楽表現（2）	インプロヴィゼーション（即興演劇）を通じた自己表現、プレゼンテーション発表
5	表現教育の効果や意義（1）	レジリエンスや自尊感情といった非認知能力と、表現教育の関係について学習する
6	身体表現、音楽表現（3）	手話を通じた身体表現、合唱を通じた音楽表現
7	表現教育の効果や意義（2）	レジリエンスや自尊感情といった非認知能力と、表現教育の関係について考察する
8	グループ創作（1）	グループ創作に向けてテーマ設定を行い、使用楽曲等について検討する
9	グループ創作（2）	グループ創作に取り組む
10	グループ創作（3）	グループ創作演目の修正、改善を行う
11	成果発表リハ、準備（1）	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表の準備を行う
12	成果発表リハ、準備（2）	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表の準備を行う
13	成果発表リハ、準備（3）	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表の準備を行う
14	成果発表会	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表を行う
15	学習のまとめ	グループワークやレポート課題を通して、学習の成果を言語化する
16		

科目コード	10101				区分	教養科目			
授業科目名	英会話 [FC1組用]+FC再履修者				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、2つのプレゼンテーション 40%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10105				区分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [BC留学生用]				担当者名	白石 翔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。(30分) 復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。(30分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	体づくり運動	体ほぐしの運動、体づくりの運動
3	体づくり運動②	多様な動きをつくる運動遊び、多様な動きをつくる運動、多様な動きを高める運動
4	身体活動①	スプリント・瞬間的な力の発揮
5	身体活動②	間欠的、持久力の活動
6	身体操作	コーディネーショントレーニング、ストレッチ
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ(バスケットボールなど)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ(バスケットボールなど)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ(バドミントンなど)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ(バドミントンなど)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション(ドッジビー、ユニホック)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ(ポッチャ)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10105				区分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [FC用]				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。(30分) 復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。(30分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	体づくり運動	体ほぐしの運動、体づくりの運動
3	体づくり運動②	多様な動きをつくる運動遊び、多様な動きをつくる運動、多様な動きを高める運動
4	身体活動①	スプリント・瞬間的な力の発揮
5	身体活動②	間欠的、持久力の活動
6	身体操作	コーディネーショントレーニング、ストレッチ
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ(バスケットボールなど)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ(バスケットボールなど)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ(バドミントンなど)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ(バドミントンなど)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション(ドッジビー、ユニホック)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ(ポッチャ)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10105				区分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [健康科学科用A]				担当者名	浦 佑大			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。(30分) 復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。(30分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	体づくり運動	体ほぐしの運動、体づくりの運動
3	体づくり運動②	多様な動きをつくる運動遊び、多様な動きをつくる運動、多様な動きを高める運動
4	身体活動①	スプリント・瞬間的な力の発揮
5	身体活動②	間欠的、持久力の活動
6	身体操作	コーディネーショントレーニング、ストレッチ
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ(バスケットボールなど)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ(バスケットボールなど)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ(バドミントンなど)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ(バドミントンなど)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション(ドッジビー、ユニホック)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ(ポッチャ)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10204				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [13組用]				担当者名	本庄 慶樹			
相当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、大学生として必要・十分なコンピュータースキル・情報リテラシーを習得することを目標とする。また、Web情報検索からのキュレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）図形描画と画像の挿入	スクリーンショット、図形挿入と描画ツール、画像処理、アクセスビリティを考える
6	Wordビジネス文書（3）スマートアート	スマートアートを基に文章のまとめ、アウトラインを考える
7	Wordレポート（1）表組	文字を表にする、表組を使って体裁を整える
8	Wordレポート（2）スタイルとデザイン	スタイルやテンプレートの意義を考える
9	Wordレポート（3）レポート作成	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション

15	料制作	プレゼンテーション資料や配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16	PowerPoint総合課題	

科目コード	10204				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [14組用]				担当者名	木戸 和彦			
相当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、大学生として必要・十分なコンピュータースキル・情報リテラシーを習得することを目標とする。また、Web情報検索からのキュレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション

15	料制作	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16	PowerPoint総合課題	

科目コード	10204				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [16組用]				担当者名	早田 剛			
相当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータースキル・情報リテラシーを習得することを目標とする。また、Web情報検索からのキュレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必修である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りていないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10501			区 分	教養科目				
授業科目名	TOEIC I			担当者名	中川 定江				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEIC対策を通じて、英語の基礎力を身につける。TOEIC L&Rは大きく分けて、リスニング・文法・リーディングからなる。社会人の英語力の証明としてTOEICでの高得点が重視されてきている。このような現状を踏まえ、少しでもTOEICで高得点を取っておくことは有利となる。本講義では毎回の実践演習を通じてTOEICでの得点力の向上、ならびに英語の基礎力の拡充を目指す。※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

<授業の到達目標>

TOEIC で400程度のスコアを取得できることを目標とする。

<授業の方法>

教室での演習と解説、そして小テストを繰り返す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各授業の復習と英文スクリプトの音読をすること。毎日30分コツコツと学習することが語学上達のカギです。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席と授業参加（30%）、授業内での小テスト（30%）、学習到達度テスト（40%）※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンスとオリエンテーション (TOEICとはどんな試験か)	・TOEICの構成・英語の学習法・これまでどのように英語に向き合ってきたか
2	リスニングの基本 (1)	・英語と日本語の違い・音の変化と強勢・発音と音節
3	リスニングの基本 (2)	・英文の抑揚・さまざまな数字の聞き取り・重要情報の特定
4	リスニング基本演習と品詞	・短文の英語を聞いて答える問題の解法や着眼点・品詞とはなにか
5	名詞と代名詞 (1)	・名詞と代名詞のはたらき・代名詞の特定 (何を指すか) ・it
6	名詞と代名詞 (2)	・基礎事項の再確認・実践演習
7	動詞 (1)	・be動詞と一般動詞・動詞の活用・述語動詞は多機能
8	動詞 (2)	・基本事項の再確認・実践演習
9	形容詞と副詞 (1)	・形容詞と副詞・級変化・重要な形容詞
10	形容詞と副詞 (2)	・基本事項の再確認・実践演習
11	さまざまな文	・肯定文・疑問文・否定文・感嘆文・注意すべき否定語・疑問詞と疑問文
12	定期試験	学習到達度試験
13		
14		
15		
16		

科目コード	14208				区分	教養			
授業科目名	非認知能力育成 I [7組]				担当者名	小川 正人			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

本授業は、非認知能力（五訓）の向上のためにチーム学習を展開し①IPUの特徴を発信するとともに、②現代の諸課題に関する議論学習を展開する。

<授業の到達目標>

①学生は非認知能力（五訓）の到達度を自己評価できる。②学生はIPUの魅力を自分自身の言葉で説明できる。③学生は現代の諸課題に関する議論ができる。④学生はチーム活動における自分の役割を果たすことができる。

<授業の方法>

本授業は非認知能力育成専用学舎ディスカバリーを全面的に活用し、「チームビルディング→発見→探究→提案」の4つのプロセスを1つのプロジェクト学習として授業を展開する。本授業では「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」と「現代の諸課題に関する議論」の2つのプロジェクト学習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①非認知能力の基礎事項を学んでおく。②環太平洋大学の基礎事項を学んでおく。③現代の諸課題に関する基礎事項を学んでおく。④上記に加えて各授業でチームで取り組む準備学習を指示する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

googleクラスルームを使用し課題配付・フィードバックを行う。・事前アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・中間アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・事後アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・振り返りレポート①：チーム作りと環太平洋大学を知る（1回から4回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート②：環太平洋大学PRプレゼン（5回から8回）までのレポート（20点）・振り返りレポート③：現代の諸課題の発見（9回から10回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート④：現代の諸課題の解決に向けた提案（12回から14回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート⑤：非認知能力育成 I（1回から15回）全体の振り返り（20点）

<教科書>

教科書は使用せず適宜資料を配付する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・本授業の目的と内容に関するオリエンテーション・IPU環太平洋大学の歴史・学科構成・理念・五訓の概要
2	五訓ルーブリックを活用した自己紹介(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・五訓ルーブリックを活用した自己評価(紙媒体)・五訓ルーブリックを活用した自己紹介(他者評価も踏まえて客観化)・五訓ルーブリックを活用した自己評価の修正(Googleフォーム)
3	発見①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学の特徴」の発見・教育理念・学部学科の特徴・初年次教育、キャリア教育、部活動
4	発見②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・環太平洋大学キャンパスの魅力発見・例)非認知能力育成専用学舎「ディスカバリー」の魅力発見・チーム毎にディスカバリーを探検する・各教室で学んでみたいことを考える。・地域の方にディスカバリーを紹介しよう。
5	探究①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」の企画・PRポイント、特徴の探究・プレゼンテーションのイメージ作り
6	探究②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン作成・プレゼンテーションスライド作成(1名1枚必ず作成)・プレゼンテーションの役割分担(1名1枚必ずプレゼン)・リハーサル
7	提案①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会前半・プレゼン大会の概要とプレゼンのポイント・プレゼンテーション発表会(前半10グループ)
8	提案②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会後半・プレゼンテーション発表会(後半10グループ)・プレゼン大会の振り返りと講評
9	発見①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題のトピックスを探そう(個人・大学・地域レベル)
10	発見②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題のトピックスを探そう(日本・国際社会レベル)
11	探究①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題を深く議論しよう(個人・大学・地域レベル)
12	探究②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題を深く議論しよう(日本・国際社会レベル)

13	提案①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸課題を解決するための提案をしよう(個人・大学・地域レベル)
14	提案②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸課題を解決するための提案をしよう(日本・国際社会レベル)
15	・五訓ルーブリックを活用した自己成長の紹介	・五訓ルーブリックを活用した自己評価(紙媒体)・五訓ルーブリックを活用した自己紹介(他者評価も踏まえて客観化)・五訓ルーブリックを活用した自己評価の修正(Googleフォーム)
16		

科目コード	14208				区分	教養			
授業科目名	非認知能力育成 I [8組]				担当者名	浦 佑大			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

本授業は、非認知能力（五訓）の向上のためにチーム学習を展開し①IPUの特徴を発信するとともに、②現代の諸課題に関する議論学習を展開する。

<授業の到達目標>

①学生は非認知能力（五訓）の到達度を自己評価できる。②学生はIPUの魅力を自分自身の言葉で説明できる。③学生は現代の諸課題に関する議論ができる。④学生はチーム活動における自分の役割を果たすことができる。

<授業の方法>

本授業は非認知能力育成専用学舎ディスカバリーを全面的に活用し、「チームビルディング→発見→探究→提案」の4つのプロセスを1つのプロジェクト学習として授業を展開する。本授業では「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」と「現代の諸課題に関する議論」の2つのプロジェクト学習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①非認知能力の基礎事項を学んでおく。②環太平洋大学の基礎事項を学んでおく。③現代の諸課題に関する基礎事項を学んでおく。④上記に加えて各授業でチームで取り組む準備学習を指示する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

googleクラスルームを使用し課題配付・フィードバックを行う。・事前アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・中間アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・事後アセスメント：非認知能力（五訓）に関する事前調査（4件法+理由記述）・振り返りレポート①：チーム作りと環太平洋大学を知る（1回から4回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート②：環太平洋大学PRプレゼン（5回から8回）までのレポート（20点）・振り返りレポート③：チーム作りとKJ法による五訓の探究（9回から10回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート④：五訓プレゼン（12回から15回）の振り返りレポート（20点）・振り返りレポート⑤：非認知能力育成 I（1回から15回）全体の振り返り（20点）

<教科書>

教科書は使用せず適宜資料を配付する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・本授業の目的と内容に関するオリエンテーション・IPU環太平洋大学の歴史・学科構成・理念・五訓の概要
2	五訓ルーブリックを活用した自己紹介(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・五訓ルーブリックを活用した自己評価(紙媒体)・五訓ルーブリックを活用した自己紹介(他者評価も踏まえて客観化)・五訓ルーブリックを活用した自己評価の修正(Googleフォーム)
3	発見①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学の特徴」の発見・教育理念・学部学科の特徴・初年次教育、キャリア教育、部活動
4	発見②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・環太平洋大学キャンパスの魅力発見・例)非認知能力育成専用学舎「ディスカバリー」の魅力発見・チーム毎にディスカバリーを探検する・各教室で学んでみたいことを考える。・地域の方にディスカバリーを紹介しよう。
5	探究①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」の企画・PRポイント、特徴の探究・プレゼンテーションのイメージ作り
6	探究②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン作成・プレゼンテーションスライド作成(1名1枚必ず作成)・プレゼンテーションの役割分担(1名1枚必ずプレゼン)・リハーサル
7	提案①(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会前半・プレゼン大会の概要とプレゼンのポイント・プレゼンテーション発表会(前半10グループ)
8	提案②(奇数組ラーニングラボ・偶数組プレゼンテーションラボ)	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会後半・プレゼンテーション発表会(後半10グループ)・プレゼン大会の振り返りと講評
9	発見①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題のトピックスを探そう(個人・大学・地域レベル)
10	発見②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題のトピックスを議論しよう(日本・国際社会レベル)
11	探究①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題を深く議論しよう(個人・大学・地域レベル)
12	探究②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸問題を深く議論しよう(日本・国際社会レベル)

13	提案①(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸課題を解決するための提案を議論しよう(個人・大学・地域レベル)
14	提案②(奇数組プレゼンテーションラボ・偶数組ラーニングラボ)	・現代の諸課題を解決するための提案を議論しよう(日本・国際社会レベル)
15	・五訓ルーブリックを活用した自己成長の紹介	・五訓ルーブリックを活用した自己評価(紙媒体)・五訓ルーブリックを活用した自己紹介(他者評価も踏まえて客観化)・五訓ルーブリックを活用した自己評価の修正(Googleフォーム)
16		

科目コード	14208				区分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成 I [再履修者用]				担当者名	小川 正人			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は非認知能力育成 I の再履修者クラスである。非認知能力の5つのリテラシーを学習する。

<授業の到達目標>

本授業は、非認知能力のリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。単元A「調べぬく力」では情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」では情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを統合して隠れた構造を捉え本質を見極める力）単元C「話し合う力」では課題発見力（さまざまな角度と広い視野から現象を捉え、背景に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力）単元D「伝える力」では構想力（さまざまな条件や制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その課程で想定されるリスクや対処方法を構想する力）単元E「発信する力」では構想力（さまざまな条件や制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その課程で想定されるリスクや対処方法を構想する力）また以上の5単元すべてに、非認知能力3Rs（R1: Respect 自己と他者を大切にしよう！, R2: Responsibility 応答力・責任・役割を果たそう！, R3: Resilience 折れない心・やめない心をつくろう！）が伏在しており、これら非認知能力に基づいた授業が行われる。したがって本授業終了後には、5つのスキルに加え3Rsも獲得していることになる。

<授業の方法>

原則として対面で授業をおこなう。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加40% 授業課題60%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的なスキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用
16		

科目コード	10204				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [9組用]				担当者名	十河 直太			
相当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータースキル・情報リテラシーを習得することを目標とする。また、Web情報検索からのキュレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必修である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10503				区分	教養科目			
授業科目名	TOEICⅢ				担当者名	中川 定江			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEIC対策を通じて、英語の基礎力を身につける。TOEIC L&Rは大きく分けて、リスニング・文法・リーディングからなる。社会人の英語力の証明としてTOEICでの高得点が重視されてきている。このような現状を踏まえ、少しでもTOEICで高得点を取っておくことは有利となる。本講義では毎回の実践演習を通じてTOEICでの得点力の向上、ならびに英語の基礎力の拡充を目指す。※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

<授業の到達目標>

TOEIC で650程度のスコアを取得できることを目標とする。

<授業の方法>

教室での演習と解説、そして小テストを繰り返す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各授業の復習と英文スクリプトの音読をすること。毎日少なくとも30分コツコツと学習することが語学上達のカギです。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席と授業参加（30％）、授業内での小テスト（30％）、学習到達度テスト（40％）※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンスとオリエンテーション	・TOEICの構成・英語の学習法・これまでどのように英語に向き合ってきたか
2	リスニングの基本	・英語と日本語の違い・音の変化と強勢・発音と音節
3	リスニング基本演習と品詞	・英文の抑揚・さまざまな数字の聞き取り・重要情報の特定・品詞と文の要素
4	名詞と代名詞	・名詞と代名詞のはたらき・代名詞の特定（何を指すか）・it
5	動詞	・be動詞と一般動詞・動詞の活用・多機能な述語動詞・予測
6	形容詞と副詞	・形容詞と副詞・級変化・重要な形容詞
7	さまざまな文	・肯定文・疑問文・否定文・感嘆文・注意すべき否定語・疑問詞と疑問文
8	準動詞	・不定詞・動名詞・分詞
9	比較	・省略・原級・比較級・最上級
10	前置詞と接続詞	・空所補充問題のアプローチ・コロケーション
11	関係代名詞	・thatとwhich・what・TOEICで狙われる関係詞
12	定期試験	学習到達度試験
13		
14		
15		
16		

科目コード	10204				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [11組用]				担当者名	佐々木 史之			
相当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータースキル・情報リテラシーを習得することを目標とする。また、Web情報検索からのキュレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必修である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りていないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える

14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16		

科目コード	10105				区分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [BC2433組用]				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。(30分) 復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。(30分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	体づくり運動	体ほぐしの運動、体づくりの運動
3	体づくり運動②	多様な動きをつくる運動遊び、多様な動きをつくる運動、多様な動きを高める運動
4	身体活動①	スプリント・瞬間的な力の発揮
5	身体活動②	間欠的、持久力の活動
6	身体操作	コーディネーショントレーニング、ストレッチ
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ(バスケットボールなど)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ(バスケットボールなど)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ(バドミントンなど)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ(バドミントンなど)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション(ドッジビー、ユニホック)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ(ポッチャ)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10105				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [健康科学科用B]				担当者名	浦 佑大			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。(30分) 復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。(30分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	体づくり運動	体ほぐしの運動、体づくりの運動
3	体づくり運動②	多様な動きをつくる運動遊び、多様な動きをつくる運動、多様な動きを高める運動
4	身体活動①	スプリント・瞬間的な力の発揮
5	身体活動②	間欠的、持久力の活動
6	身体操作	コーディネーショントレーニング、ストレッチ
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ(バスケットボールなど)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ(バスケットボールなど)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ(バドミントンなど)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ(バドミントンなど)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション(ドッジビー、ユニホック)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ(ポッチャ)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10101				区分	教養科目			
授業科目名	英会話 [FE1組用][不開講]				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区分	教養科目			
授業科目名	英会話 [FE2組用]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区分	教養科目			
授業科目名	英会話 [FE3組用]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区分	教養科目			
授業科目名	英会話 [FE4組用] + FE再履修者				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	11101			区分	教養科目				
授業科目名	心理学			担当者名	赤松 久美子				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

心理学の初学者を対象に、心理学の基礎的事項を講義する。この授業では、心理学の各分野で得られた知見を幅広く学ぶことを通して、心理学的なこころの理解ができるようになることを目標としている。心理学に関する内容として、感情、学習、記憶、思考、発達心理、臨床心理、社会心理、など幅広く学ぶ。

<授業の到達目標>

①心理学が扱うテーマについて説明できる。②いくつかの心理学的アプローチにより、性格や発達が心に与える影響について理解する。③自分や他者が心理的問題を抱えたときの対処方法について理解する。④環境やヒトが物の知覚、認知などに及ぼす影響について理解する。⑤日常生活の中で、心理学がどのように応用されるか説明することができる。

<授業の方法>

・事前に指定された教科書の範囲を読んでいることを前提として、教科書に基づいて講義を進める。・授業中や授業後にレポートを作成し提出することを、適宜復習課題として課す。・授業形態は、課題に対するディスカッションや、個別支援や集団支援の実際の場を想定したロールプレイ等を含み、その取り組み姿勢を評価対象とする。・レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・フォームなどを活用する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、重要語句の意味を一通り理解しておくこと。(1時間程度)・授業後はレポート課題に取り組むことで、授業内容の整理を行うこと。(1時間程度)・適宜小テストを実施するので、復習をしっかりとっておくこと。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(意欲・発言など)20% 課題レポート2回 60% 小テスト20%課題については、模範となるレポートを示し共有する。提出期限を過ぎた課題は原則受け付けない。毎回教科書を使用するので、購入が履修条件の一つとなる。

<教科書>

大浦賢治 編著(2022) 実践につながる 新しい教養の心理学 ミネルヴァ書房

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の目的・概要・進め方、成績評価方法について説明する。
2	脳とこころ	・脳とこころの関係を探る ・こころの仕組み、働きを知る
3	感情の心理学	・感情のメカニズム ・感情コンピテンス
4	学習と記憶	・学ぶとは? ・記憶とは?
5	思考	・意思決定 ・確率判断 ・推論
6	発達心理学より?	・幼児期から児童期にかけて
7	発達心理学より②	・青年期以降
8	障害者、障害児の心理	・障害について ・インクルージョン
9	パーソナリティ	・パーソナリティの分類, 測り方, 社会適応
10	家族心理学より	・家族ライフサイクル ・障害のある子どもと家族 ・児童虐待
11	社会心理学より	・対人関係の相互作用
12	臨床心理学より?	・交流分析 ・ストレスマネジメント
13	臨床心理学より②	・悩みを受け止める姿勢, 方法
14	ポジティブ心理学より?	・ウェルビーイングと幸福感 ・レジリエンス
15	ポジティブ心理学より②	・強み ・ポジティブ介入
16		

科目コード	10204				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [BC留学生用]				担当者名	本庄 慶樹			
相当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、デスクトップアプリケーション（MS Office）、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピューターの利活用を習得することを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシー I では、グラフィカルなドキュメント作成を重視し、Google Docs・Slides、MS Word・PowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、大学生として必要・十分なコンピュータースキル・情報リテラシーを習得することを目標とする。また、Web情報検索からのキュレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	LMSとクラウドの活用
2	クラウドとグループワーク環境	検索、ファイル共有とネットモラル
3	Eメールとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）図形描画と画像の挿入	スクリーンショット、図形挿入と描画ツール、画像処理、アクセシビリティを考える
6	Wordビジネス文書（3）スマートアート	スマートアートを基に文章のまとめ、アウトラインを考える
7	Wordレポート（1）表組	文字を表にする、表組を使って体裁を整える
8	Wordレポート（2）スタイルとデザイン	スタイルやテンプレートの意義を考える
9	Wordレポート（3）レポート作成	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション

15	料制作	プレゼンテーション資料や配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習
16	PowerPoint総合課題	

科目コード	10105				区分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [BC2431組用]				担当者名	平田 佳弘			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。(30分) 復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。(30分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列、縦隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用方法
9	実技：球技スポーツ(バスケットボールなど)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ(バスケットボールなど)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ(バドミントンなど)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ(バドミントンなど)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション(ドッジビー、ユニホック)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ(ポッチャ)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10105				区分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [BC2432組用]				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。(30分) 復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。(30分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	体づくり運動	体ほぐしの運動、体づくりの運動
3	体づくり運動②	多様な動きをつくる運動遊び、多様な動きをつくる運動、多様な動きを高める運動
4	身体活動①	スプリント・瞬間的な力の発揮
5	身体活動②	間欠的、持久力の活動
6	身体操作	コーディネーショントレーニング、ストレッチ
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ(バスケットボールなど)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ(バスケットボールなど)	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ(バドミントンなど)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ(バドミントンなど)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション(ドッジビー、ユニホック)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ(ポッチャ)	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通した自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技 [FE2433組用]			担当者名	佐々木 史之				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

<授業の方法>

グループ活動を中心とし運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動	集団行動、トップガン見学など
3	球技①	ゴール型、ネット型、ベースボール型
4	球技②	ゴール型、ネット型、ベースボール型
5	球技③	ゴール型、ネット型、ベースボール型
6	球技④	ゴール型、ネット型、ベースボール型
7	器械運動①	マット運動、跳び箱など
8	器械運動②	マット運動、跳び箱など
9	器械運動③	マット運動、跳び箱など
10	器械運動④	マット運動、跳び箱など
11	アダプテッドスポーツ①	ボッチャ、シッティングバレー、インディアカなど
12	アダプテッドスポーツ②	ボッチャ、シッティングバレー、インディアカなど
13	アダプテッドスポーツ③	ボッチャ、シッティングバレー、インディアカなど
14	アダプテッドスポーツ④	ボッチャ、シッティングバレー、インディアカなど
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る
16		

科目コード	10101				区分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PP1組用]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PP2組用]				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話 [PP3組用]			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PP4組用]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PP5組用] + PP再履修者				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10104			区分	教養科目				
授業科目名	体育理論			担当者名	片桐 夏海／梶谷 亮輔／保科 圭汰／浦 佑大				
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、体育の理論を学ぶことにより、健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践が必要であることを明らかにする。理論では、メンタルヘルス及び生活習慣病予防や心身相関について理解をし運動や健康の維持、増進のために必要な体力などに関する講義を行う。

<授業の到達目標>

体育の理論を学ぶことにより、自分自身の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践ができるようになることを目標とする。

<授業の方法>

本講義は、オンデマンド方式でグーグルクラスルームを用いて、必要に応じて資料を提示し体育理論の解説・講義を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

適宜紹介及び配布したテキストの熟読並びに理解を促す。授業には、各先生の専門学問についての内容を理解してから、授業に参加すること（1時間程度の予習）が求められる。さらには、当該授業から引き出された課題について、図書館およびインターネットなどから多くの専門的情報を収集する（2時間程度の復習）が求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（積極性・相互促進性等）を50%、レポート・小テストを50%で評価する。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	考えてみよう私たちと運動	自己の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的に運動を実践できることを学ぶ。
2	身につけよう運動	体育理論の実践と方法として様々な観点から身体に及ぼす効果について学習する。
3	学校における体育の役割	身体活動が児童の発達や望ましい社会生活に貢献しうる能力を持たせる重要な役割であることを学ぶ。
4	見つめよう心と体	学校教育における体育の実践と方法を学ぶ。心と体の相関関係、欲求やストレスの対処法を学び、体ほぐし運動を解明する。
5	運動と栄養	運動、栄養は栄養管理することを大前提として、パフォーマンスを上げる「運動と栄養の4つの基本」を学ぶ。
6	生活習慣病の種類とその予防	日本の三大死因である癌・脳卒中・心臓病の原因となる高血圧、高脂血症、糖尿病の要因について学び、食生活、運動不足、飲酒、喫煙の重要性および、その予防について学ぶ。
7	脳と身体のつながり	脳と身体の関係性について学び、頭を使えば身体もよくなり、身体を鍛えれば脳も発達していくことを学ぶ。
8	生涯スポーツの意義	今あらためてスポーツとは何なのか、なぜ人はスポーツを続けていくのか？私たちににとってスポーツとは？を学び、テストを実施する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	10101				区分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PH1組用]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話 [PH2組用] + PH再履修者			担当者名	SACKO Salif				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	11402				区 分	教養			
授業科目名	倫理学（宗教を含む）				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

違法ダウンロードや企業の不正、デザイナーベイビーについての賛否など、現代社会は様々な問題にあふれている。法律のみでは太刀打ちできないこれらの問題の内実を明確化し、解決策について議論するのが「応用倫理学」という学問である。本講義は、情報倫理、戦争倫理、ビジネス倫理、スポーツ倫理、生命倫理、そして環境倫理といった様々な観点から、応用倫理学全体を俯瞰することを目的とする。また、倫理的問題を考察するには、その背後にある宗教的議論を理解しておくことも必要不可欠である。いわゆる「無宗教」を標榜する現代の日本人の大多数がクリスマスやお盆を代表とする宗教的行事を過ごすことから明らかなように、われわれの生活には様々な宗教が深く織り込まれている。それゆえ、そのようなわれわれが現代社会の中で出会う倫理的問題にも、宗教的ファクターが伏在していることが予想される。したがって、本講義では宗教についての一定の知識も同時に獲得することも目指す。

<授業の到達目標>

①現実社会における様々な倫理的問題について理解し説明することができる。②自身で倫理的問題を発見し、それを解決しようという態度を持つことができる。

<授業の方法>

講義を中心に行う。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：その授業回で扱うトピックについて調べ自分なりの考えを持っておく。（1時間）復習：授業内で提示された参考文献を熟読することで当該トピックについての理解を深める。（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内評価30%、期末試験70%

<教科書>

<参考書>

児玉聡（2020年2月） 実践・倫理学——現代の問題を考えるために 勁草書房
品川哲彦（2020年7月） 倫理学入門——アリストテレスから生殖技術、AIまで 中央公論新社
伊勢田哲治（2008年11月） 動物からの倫理学入門 名古屋大学出版会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	導入	本講義全体の流れと「応用倫理学」という学問についての概説を行い、倫理学と宗教の関係について理解する。
2	情報倫理I	プライバシー概念とそれに関わる問題を理解する。
3	情報倫理II	知的所有権とそれに関わる問題を理解する。
4	戦争倫理I	戦争と平和の関係について考察する
5	戦争倫理II	「倫理的」な攻撃手段について考察する。
6	ビジネス倫理I	企業の社会的責任について考察する。
7	ビジネス倫理II	企業における雇用と差別の問題について考察する。
8	幕間	講義前半部の復習を行い、レポートの書き方を理解する。
9	スポーツ倫理I	スポーツマンシップについて考察する。
10	スポーツ倫理II	スポーツの定義について考察する。
11	生命倫理I	移植医療とそれに関わる問題を理解する。
12	生命倫理II	人工妊娠中絶および遺伝子診断とそれに関わる問題を理解する。
13	環境倫理I	世代間倫理とそれに関わる問題を理解する。
14	環境倫理II	理想的な食とそれに関わる問題を理解する。
15	総括	講義全体の復習を行い、「応用倫理学」という学問について再考する。
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ [FE2421組用]				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得すること数的・論理的思考を身につけることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学ぶことで、大学生として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。さらに、また、Web情報検索からのキューレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関数と数的処理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数 (CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID)
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出 (VLOOKUP, IFERROR)
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	14209				区 分	教養			
授業科目名	非認知能力育成Ⅱ [スタジオ]				担当者名	畠中 要輔			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

情報発信の時代に、モノの見方、表現力を育み、社会で必要とされる「他者理解」「自己表現」「やり抜く力」を映像制作を通して経験し、学びます。また発信する力には、同時に「聞く力」「伝える力」「調べ抜く力」など様々なスキルを磨くことができます。情報を素早くキャッチし、自らの表現力で発信する事ができる。これからのリーダーを育てます。

<授業の到達目標>

①本学の精神と理念を適切に理解し、他の学生を導くことができる。②自分達の番組をライブ放送という形式で発信できる。③チーム単位で番組を作り上げることができる。

<授業の方法>

アクティブラーニングの手法を用いながら、対話より創造し、チームビルディングを繰り返す。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定された事柄について調べ、自分なりの考えを持っておく(1時間) 復習：授業で行ったことをスマートフォンやタブレットを使用し確認を行う(1時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内評価70%、最終課題30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	導入	授業全体の流れを説明する。最初のチーム決め
2	番組制作A①	番組制作A「学生紹介動画」。番組がどのように作られているのかを学ぶ
3	番組制作A②	動画撮影、編集
4	番組制作A③	動画撮影、編集
5	番組発表	番組発表(チーム毎)、振り返り
6	番組制作B①	第2のチーム決め、番組内容「インタビュー」について
7	番組制作B②	動画撮影、編集
8	番組制作B③	動画撮影、編集
9	ライブ放送B①	IPUスタジオを知り、活用してみる
10	ライブ放送B②	IPUスタジオからのライブ放送
11	番組制作C①	3回目のチーム決め、番組制作C「高校生に向けた動画」について
12	番組制作C②	動画撮影、編集
13	番組制作C③	動画撮影、編集
14	ライブ放送C①	IPUスタジオからライブ放送
15	総括	全体の振り返り、スタジオの活用について
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ [FE2422組用]				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得すること数的・論理的思考を身につけることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学ぶことで、大学生として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。さらに、また、Web情報検索からのキューレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにはしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関数と数的処理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ [PP2451組用]				担当者名	田中 耕作			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得すること数的・論理的思考を身に着けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学ぶことで、大学生として必要・十分なPC・情報リテラシー・データサイエンスの基礎を習得することを第二の目標とする。さらに、また、Web情報検索からのキューレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピューターでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次回の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	基本操作と書式	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	四則計算と罫線	よく使う関数と罫線、表作成
3	関数と数的処理	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
4	条件とIF関数	IF, IFS, AND, OR
5	条件書式	条件付き書式、スパークライン入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	入力規制とシートの保護	オペレーション、ユーザビリティを考える
8	文字列関数	CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID
9	グラフ	データのビジュアル化、グラフ作成・描画
10	データベース（vlookup関数）	データベースの考え方の理解
11	データベース2（xlookup関数）	データ抽出（VLOOKUP, XLOOKUP, IFERROR）
12	ピボットテーブル	ピボットテーブルでのデータ集計（単純集計・クロス集計）
13	ピボットグラフ	データ集計とビジュアル化
14	テンプレート作成	データを扱う総合的な理解
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ [PP2452組用]				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得すること数的・論理的思考を身につけることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学ぶことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。さらに、また、Web情報検索からのキューレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きい授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関数と数的処理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10502				区 分	教養科目			
授業科目名	TOEIC II				担当者名	中川 定江			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEIC対策を通じて、英語の基礎力を身につける。TOEIC L&Rは大きく分けて、リスニング・文法・リーディングからなる。社会人の英語力の証明としてTOEICでの高得点が重視されてきている。このような現状を踏まえ、少しでもTOEICで高得点を取っておくことは有利となる。本講義では毎回の実践演習を通じてTOEICでの得点力の向上、ならびに英語の基礎力の拡充を目指す。※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

<授業の到達目標>

TOEIC で500程度のスコアを取得できることを目標とする。

<授業の方法>

教室での演習と解説、そして小テストを繰り返す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各授業の復習と英文スクリプトの音読をすること。毎日最低45分以上コツコツと学習することが語学上達のカギです。毎日15分間学習を3セットするイメージで学習に取り組みましょう。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席と授業参加（30%）、授業内での小テスト（30%）、学習到達度テスト（40%）※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストもしくは通常のTOEICの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	クラスガイダンスとオリエンテーション (TOEICの勉強法)	・TOEICの構成・英語の学習法 (Over 500)
2	リスニングの基本	・英語と日本語の違い・音の変化と強勢・発音と音節
3	準動詞 (1)	・不定詞・動名詞・実践演習
4	準動詞 (2)	・分詞・実践演習
5	比較 (1)	・原級・比較級・最上級
6	比較 (2)	・実践演習
7	前置詞と接続詞 (1)	・前置詞・群動詞・接続詞
8	前置詞と接続詞 (2)	・実践演習
9	関係代名詞 (1)	・関係代名詞とは
10	関係代名詞 (2)	・関係代名詞の処理の仕方
11	関係代名詞 (3)	・実践演習
12	総合演習(1)リーディング中心	TOEIC のPart 5 短文問題の演習
13	TOEIC実践演習 (2) リスニング中心	TOEIC のPart1&2の実践演習
14	TOEIC総合演習	リーディングとリスニングの最終演習
15	定期試験	これまでの最終試験
16		

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ [PS2432組用]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得すること数的・論理的思考を身に着けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学ぶことで、大学生として必要・十分なPC・情報リテラシー・データサイエンスの基礎を習得することを第二の目標とする。さらに、また、Web情報検索からのキューレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピューターでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD(ビデオ・オン・デマンド)を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次回の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	基本操作と書式	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	四則計算と罫線	よく使う関数と罫線、表作成
3	関数と数的処理	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
4	条件とIF関数	IF, IFS, AND, OR
5	条件書式	条件付き書式、スパークライン入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	入力規制とシートの保護	オペレーション、ユーザビリティを考える
8	文字列関数	CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID
9	グラフ	データのビジュアル化、グラフ作成・描画
10	データベース(vlookup関数)	データベースの考え方の理解
11	データベース2(xlookup関数)	データ抽出(VLOOKUP, XLOOKUP, IFERROR)
12	ピボットテーブル	ピボットテーブルでのデータ集計(単純集計・クロス集計)
13	ピボットグラフ	データ集計とビジュアル化
14	テンプレート作成	データを扱う総合的な理解
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業 科目名	コンピュータリテラシーⅡ [PP2454組用]				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得すること数的・論理的思考を身につけることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学ぶことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。さらに、また、Web情報検索からのキューレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピュータでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟での差が大きいいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

PCメディア編集部 パソコン&オンライン授業活用読本（2023年度版） 日経BP

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	表計算について	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数
3	データ処理（1）	関 数 と 数 的 的 処 理 (SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF)
4	データ処理（2）	条件付き書式、スパークライン
5	データ処理（3）	入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	論理的思考	論理関数
8	実務作業応用	文字列関数（CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID）
9	データのビジュアル化	グラフ作成・描画
10	テンプレート作成	テーブルとして書式設定
11	データベース操作（1）	データ抽出（VLOOKUP, IFERROR）
12	データベース操作（2）	入力規制、XLOOKUP
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ [PP2455組用]				担当者名	田中 耕作			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得すること数的・論理的思考を身に着けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学ぶことで、大学生として必要・十分なPC・情報リテラシー・データサイエンスの基礎を習得することを第二の目標とする。さらに、また、Web情報検索からのキューレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピューターでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD(ビデオ・オン・デマンド)を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次回の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	基本操作と書式	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	四則計算と罫線	よく使う関数と罫線、表作成
3	関数と数的処理	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
4	条件とIF関数	IF, IFS, AND, OR
5	条件書式	条件付き書式、スパークライン入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	入力規制とシートの保護	オペレーション、ユーザビリティを考える
8	文字列関数	CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID
9	グラフ	データのビジュアル化、グラフ作成・描画
10	データベース(vlookup関数)	データベースの考え方の理解
11	データベース2(xlookup関数)	データ抽出(VLOOKUP, XLOOKUP, IFERROR)
12	ピボットテーブル	ピボットテーブルでのデータ集計(単純集計・クロス集計)
13	ピボットグラフ	データ集計とビジュアル化
14	テンプレート作成	データを扱う総合的な理解
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10504				区 分	教養科目			
授業科目名	TOEICIV				担当者名	中川 定江			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEIC対策を通じて、英語の基礎力を身につける。TOEIC L&Rは大きく分けて、リスニング・文法・リーディングからなる。社会人の英語力の証明としてTOEICでの高得点が重視されてきている。このような現状を踏まえ、少しでもTOEICで高得点を取っておくことは有利となる。本講義では毎回の実践演習を通じてTOEICでの得点力の向上、ならびに英語力の拡充を目指す。※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストもしくは通常のTOEICの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

<授業の到達目標>

TOEIC で700以上のスコアを取得できることを目標とする。

<授業の方法>

教室での演習と解説、そして小テストを繰り返す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各授業の復習と英文スクリプトの音読をすること。毎日少なくとも30分コツコツと学習することが語学上達のカギです。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席と授業参加（30%）、授業内での小テスト（30%）、学習到達度テスト（40%）※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンスとオリエンテーション	・TOEICの構成および攻略法・英語の学習法
2	Part 1対策	写真描写問題の実践演習と解説
3	Part 2対策	応答問題の実践演習と解説
4	Part 3対策	会話問題の実践演習と解説
5	Part 4対策	説明文問題の実践演習と解説
6	Part 5対策	短文穴埋問題の実践演習と解説
7	Part 6対策①	長文穴埋問題の実践演習と解説
8	Part 6対策②	長文穴埋問題の実践演習と解説
9	Part 7対策①	1つの文書問題の実践演習と解説
10	Part 7対策②	複数文章読解問題の実践演習と対策
11	総合演習（1）リーディング中心	チャンクを意識した読み方の確認と演習。
12	総合演習（2）リーディング中心	複数文章読解の演習。
13	総合演習（3）リスニング中心	リスニングPart1&2の演習
14	総合演習（4）リスニング中心	Part3&4の実践演習
15	期末試験	学習到達度試験
16		

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ [FC用]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得すること数的・論理的思考を身に着けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学ぶことで、大学生として必要・十分なPC・情報リテラシー・データサイエンスの基礎を習得することを第二の目標とする。さらに、また、Web情報検索からのキューレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピューターでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピューターの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次回の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	基本操作と書式	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	四則計算と罫線	よく使う関数と罫線、表作成
3	関数と数的処理	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
4	条件とIF関数	IF, IFS, AND, OR
5	条件書式	条件付き書式、スパークライン入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	入力規制とシートの保護	オペレーション、ユーザビリティを考える
8	文字列関数	CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID
9	グラフ	データのビジュアル化、グラフ作成・描画
10	データベース（vlookup関数）	データベースの考え方の理解
11	データベース2（xlookup関数）	データ抽出（VLOOKUP, XLOOKUP, IFERROR）
12	ピボットテーブル	ピボットテーブルでのデータ集計（単純集計・クロス集計）
13	ピボットグラフ	データ集計とビジュアル化
14	テンプレート作成	データを扱う総合的な理解
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	13101				区 分	教養科目			
授業科目名	日本国憲法 [A]				担当者名	山本 満理子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、裁判例・通説を前提とした我が国の現行憲法（日本国憲法）の解釈論を中心について検討していく。また、学術的に重要な論点のみならず、各種公務員試験に臨むにあたって最低限必要となる日本国憲法に関する知識や、教員が備えるべき素養としての日本国憲法に関する知識にも配慮した講義を行う。

<授業の到達目標>

①授業で扱った主要なテーマについて、重要な憲法学的知識（基本概念、条文・判例・学説など）を論述することができる。②各種公務員試験等の本格的対策をするに際して学習を進めやすい素養を獲得している。

<授業の方法>

教科書のテーマに沿いつつ、授業計画に従って講義形式で進行する予定ですが、この限りではありません。毎回教科書の指定範囲をあらかじめ通読し、わからない法律用語等については事前に調べておいてください。また、小テストやアクションペーパーの提出を求めることがあります。履修者はクラスルームにアクセスでき、使用できる状態を整えてください。※教科書を指定しますが、他の基本書を持っている学生は相談してください。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回事前に指定された教科書の該当範囲を通読しておく（60分）復習：教科書の該当箇所を熟読し、レジュメを参照しノートをもとめておくこと（60分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（出席・授業への取り組み等）30%、課題レポート・小テスト30%、試験40%により成績評価を行う。

<教科書>

毛利透（2021年2月） 『グラフィック憲法入門 第2版』 新世社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義の進行方法や学習方法、評価方法について解説します。
2	日本国憲法とは	憲法の基礎知識と日本国憲法の歴史と構成について
3	国民主権と象徴天皇制	国民主権、象徴天皇制、皇位継承のルール、天皇の権限
4	平和主義	我が国の平和主義の歴史的沿革や意義
5	基本的人権 I	基本的人権の尊重
6	基本的人権 II	法の下での平等
7	基本的人権 III	精神的自由
8	基本的人権 IV	経済的自由
9	基本的人権 V	人身の自由
10	基本的人権 VI	社会権
11	基本的人権 VII	参政権・国務請求権
12	統治機構 I、II	国会、内閣
13	統治機構 III	裁判所
14	統治機構 IV	地方自治
15	憲法改正、全体総括	憲法改正についてとこれまでの授業内容の要点およびまとめ
16		

科目コード	14209				区 分	教養			
授業科目名	非認知能力育成Ⅱ [ディスカッション]				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

現代社会においてリーダーたりうる人は、説得やコンセンサスを得るという目的のもとで「議論」を行うスキルを身につけておかなければならない。本授業は、議論のための専用教室ディスカッションラボにて、適切な議論の方法を学ぶ。また、その議論が不可欠の要素として含む「質問」についても同時に学ぶことになる。※専用教室ディスカッションラボの収容可能人数および授業目的の関係上、履修人数に制限をかける可能性が高い。

<授業の到達目標>

①本学の精神と理念を適切に理解し、他の学生を導くことができる。②議論が質問と応答の繰り返しから構成されることを理解したうえで、それを通じて問題発見と解決ができる。③良い質問ができるよう、質問の障害となる事柄を正しく認識しそれを乗り越えることができる。

<授業の方法>

アクティブラーニングの手法を用いる。課題管理についてはGoogle Classroomを使用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定された事柄について調べ自分なりの考えを持っておく。（1時間）復習：授業で行ったことを文章等の別の手段で出力する。（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内評価70%、期末試験30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	導入	授業全体の流れを説明する。最初のチーム分け
2	質問(1)	チームビルディングのために、チーム内で互いに質問してみる
3	質問(2)	質問を効果的に行うために、羞恥心乗り越える
4	質問(3)	質問を効果的に行うために、知識不足乗り越える
5	質問(4)	第二のチーム分け
6	質問(5)	質問をより良いものとするために、敬意を持って質問に答える
7	質問(6)	質問をより良いものとするために、「広がる」応答を行う
8	幕間	授業前半部で学んだことを振り返る。第三のチーム分け
9	議論(1)	チームビルディングのために、チーム内で議論してみる
10	議論(2)	議論を効果的に行なうために、具体性の高い身近なテーマに挑む
11	議論(3)	議論を効果的に行なうために、抽象性の高い身近でないテーマに挑む
12	議論(4)	第四のチーム分け
13	議論(5)	より良い議論を創るために、自分たちで問題を発見する
14	議論(6)	より良い議論を創るために、自分たちで問題を解決する
15	総括	授業全体のまとめを行う
16		

科目コード	14209				区 分	教養			
授業科目名	非認知能力育成Ⅱ [プレゼン]				担当者名	畠中 要輔			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

社会に出て最も必要とされる力の1つが「プレゼンテーション力」。プレゼンテーションは贈り物。自分の事を、他人に伝える事でさえ上手く出来なかった経験はありませんか。相手に伝えたい、知ってもらいたいと思えば、わかりやすい説明が必要です。そのためには、何が必要なのか、それぞれ合ったプレゼンの方法があるはず。自分と向き合い、最高の贈り物を届けましょう。集団の中で意見を交わしながら、重要なポイントを整理し、表現力を持って伝える。現代のリーダーに必要なスキルを身につけます。

<授業の到達目標>

①本学の精神と理念を適切に理解し、他の学生を導く事ができる。②スピーチによる伝える力を身につけるためにプレゼンテーションラボを使いこなす③パワーポイントによる伝える力を身につける為に、プレゼンテーションラボを使い切る

<授業の方法>

プレゼンテーションラボを使用し、実践的なスピーチ、プレゼンテーションを経験していきます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定された事柄について調べておく（1時間）復習：授業で行った事を確認しておく（1時間）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内評価70%、最終課題30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	プレゼンテーションは贈り物	贈りたい気持ち、考え、視点を掴む
2	プレゼンテーション基本技能	スピーチ、パワーポイント、身振り
3	演習 1	自己紹介スピーチ①
4	演習 1	自己紹介スピーチ②
5	振り返り	自己紹介スピーチ振り返り、相互評価
6	良いプレゼンテーションとは	動画視聴
7	パワーポイント	パワーポイント作成について
8	演習 2	パワーポイントプレゼン①
9	演習 2	パワーポイントプレゼン②
10	振り返り	パワーポイントプレゼンの振り返り、相互評価
11	チームプレゼンの基本	問題意識、アイデア、強い提案の共有
12	チームプレゼンの準備	スライド、身振り、役割
13	演習 3	グループプレゼン①
14	演習 3	グループプレゼン②
15	振り返り	振り返り、相互評価
16		

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ [IPUNZ留学組用]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得すること数的・論理的思考を身に着けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学ぶことで、大学生として必要・十分なPC・情報リテラシー・データサイエンスの基礎を習得することを第二の目標とする。さらに、また、Web情報検索からのキューレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピューターでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピューターの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD(ビデオ・オン・デマンド)を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次回の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	基本操作と書式	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	四則計算と罫線	よく使う関数と罫線、表作成
3	関数と数的処理	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
4	条件とIF関数	IF, IFS, AND, OR
5	条件書式	条件付き書式、スパークライン入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	入力規制とシートの保護	オペレーション、ユーザビリティを考える
8	文字列関数	CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID
9	グラフ	データのビジュアル化、グラフ作成・描画
10	データベース(vlookup関数)	データベースの考え方の理解
11	データベース2(xlookup関数)	データ抽出(VLOOKUP, XLOOKUP, IFERROR)
12	ピボットテーブル	ピボットテーブルでのデータ集計(単純集計・クロス集計)
13	ピボットグラフ	データ集計とビジュアル化
14	テンプレート作成	データを扱う総合的な理解
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	10101				区分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PS1組用]				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10101				区分	教養科目			
授業科目名	英会話 [PS2組用]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10116				区分	教養科目			
授業科目名	英語 I 全学科 (上級者対象)				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

初級～中レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。身近な話題について標準的な話し方であれば、その要点が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等 (予習・復習) > ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法> ※課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 2 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting to know you	Talking about favorite places and colors; describing personalities; discussing and using icebreakers
3	Unit 2: Making a good impression	Talking about first impressions; role-playing meeting new people and phone conversations; giving and taking messages
4	Unit 3: Food and cooking	Discussing foods and cooking techniques; talking about restaurant meals; role-playing restaurant conversations
5	Unit 4: Weather	Talking about weather and seasons; describing extreme weather experiences; giving advice about extreme weather
6	Unit 5: Working for a living	Talking about job likes and dislikes; describing job experiences; talking about what's important in a job
7	Unit 6: Leisure time	Describing hobbies and interests; discussing chores; talking about typical activities; making weekend plans
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Sports and games	Talking about participation in sports; conducting interviews about sports; discussing and playing games
10	Unit 8: Transportation and travel	Discussing traffic and transportation problems; talking about different ways to travel; planning a trip
11	Unit 9: Vacation time	Talking about past vacations; describing perfect vacations; discussing tourist attractions
12	Unit 10: Inventions and gadgets	Describing gadgets and their uses; discussing product features; explaining a new invention
13	Unit 11: The environment	Talking about animals and plants; discussing environmental problems and solutions
14	Unit 12: News and current events	Talking about news stories and sources; telling a story; discussing a current-events survey
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10116				区分	教養科目			
授業科目名	英語 I 全学科 (初級者対象)				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

初級～中レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。身近な話題について標準的な話し方であれば、その要点が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等 (予習・復習) > ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法> ※課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 2 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting to know you	Talking about favorite places and colors; describing personalities; discussing and using icebreakers
3	Unit 2: Making a good impression	Talking about first impressions; role-playing meeting new people and phone conversations; giving and taking messages
4	Unit 3: Food and cooking	Discussing foods and cooking techniques; talking about restaurant meals; role-playing restaurant conversations
5	Unit 4: Weather	Talking about weather and seasons; describing extreme weather experiences; giving advice about extreme weather
6	Unit 5: Working for a living	Talking about job likes and dislikes; describing job experiences; talking about what's important in a job
7	Unit 6: Leisure time	Describing hobbies and interests; discussing chores; talking about typical activities; making weekend plans
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Sports and games	Talking about participation in sports; conducting interviews about sports; discussing and playing games
10	Unit 8: Transportation and travel	Discussing traffic and transportation problems; talking about different ways to travel; planning a trip
11	Unit 9: Vacation time	Talking about past vacations; describing perfect vacations; discussing tourist attractions
12	Unit 10: Inventions and gadgets	Describing gadgets and their uses; discussing product features; explaining a new invention
13	Unit 11: The environment	Talking about animals and plants; discussing environmental problems and solutions
14	Unit 12: News and current events	Talking about news stories and sources; telling a story; discussing a current-events survey
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10205				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ [BC留学生用]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得したコンピュータの利活用スキルをもとにさらに高度な操作スキルと、情報活用の応用能力を身につけることを目指す。表計算スプレッドシートの活用が中心となる。グラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につけるとともに数的・論理的思考について育む。またこれに並行して、PCメールやWeb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

本授業の延長線上には、「ITパスポート」に合格する程度の知識がある。本授業では、コンピューターやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得すること数的・論理的思考を身に着けることを第一の目標とする。機器操作には科学的理解も含まれる。またその成果物には、社会的理解が含まれる。特にコンピュータリテラシーⅡでは、MS Excelといった必須表計算アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うこと、Google Sheetsでの共有・共同作業を学ぶことで、大学生として必要・十分なPC・情報リテラシー・データサイエンスの基礎を習得することを第二の目標とする。さらに、また、Web情報検索からのキューレーションや共有、共同作業の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目標である。コンピューターでの情報処理能力を発揮し問題発見、解決のできる人材を養成する。

<授業の方法>

授業は各自が持参したパソコンを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その学んだ手法を活用し課題に臨む。問題を発見し解決する能力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必須とする。したがって事前課題の成果内容も成績評価に加味される。しかしこれは、特にコンピュータの機器操作において、大学入学以前の習熟度の差が大きいため授業までにその回に使用する操作技術を持って授業に臨むためのものと考えていただきたい。VOD（ビデオ・オン・デマンド）を視聴し、各自のパソコンで実際に操作を確認しながら事前課題に取り組む。事前課題にはおよそ60分程度の時間を要する設定をしているが、入学以前の習熟度により時間がかかる者もいると想定される。習熟が足りてないと感じる学生は、時間をかけてより広げての操作理解が必要であるし、理解不足の点をよく理解、整理して授業に臨む必要がある。復習は必ず次回の授業までに行い、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった点の整理が必要である。欠席してしまった授業の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業内課題を提出する必要がある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	基本操作と書式	MS Excel、Google Sheetsについて・入力、フィルと四則計算
2	四則計算と罫線	よく使う関数と罫線、表作成
3	関数と数的処理	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MAXIF, MIN, MINIF, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
4	条件とIF関数	IF, IFS, AND, OR
5	条件書式	条件付き書式、スパークライン入力規則、テンプレート作成
6	Excel中間課題	Excel関数確認試験
7	入力規制とシートの保護	オペレーション、ユーザビリティを考える
8	文字列関数	CONCAT, LEN, FIND, RIGHT, LEFT, MID
9	グラフ	データのビジュアル化、グラフ作成・描画
10	データベース（vlookup関数）	データベースの考え方の理解
11	データベース2（xlookup関数）	データ抽出（VLOOKUP, XLOOKUP, IFERROR）
12	ピボットテーブル	ピボットテーブルでのデータ集計（単純集計・クロス集計）
13	ピボットグラフ	データ集計とビジュアル化
14	テンプレート作成	データを扱う総合的な理解
15	Excel最終課題	Excel総合確認試験
16		

科目コード	11301				区分	教養			
授業科目名	人権と教育 [A]				担当者名	梶原 洋一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育現場はもとより、社会人として求められる人権感覚を養うことを目的とし、日本国憲法の人権保障に関する知識を身につけた上で、現に存在するさまざまな人権課題について具体的に学び、正しい判断と正しい行動ができる力を身につける。

<授業の到達目標>

①日本国憲法の人権保障に関する基本的知識を身につけ、②現代社会においてそれが具体的にどのような形で侵害されているのかについて知り、③それらを解決するためにどうすべきかについて考え、正しく判断し、正しく行動することができる。

<授業の方法>

講義形式で進行する。教科書は使用せず、毎回配付するレジュメに沿って進行する。使用するレジュメは、一部ワークシート形式になっており、授業後にはそれぞれの人権課題の要点についてまとめた資料となるので、それらを綴るファイルを用意されたい。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に基づき、個別の人権課題について事前に調べておくこと。（30分）授業後に、課題整理と定着を図るためにゲージル・クラスルームを使って小テストを実施することがある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験60%、受講態度（授業への取り組み姿勢、出席状況等）40%により、授業の到達目標①～③を測定する。

<教科書>

使用しない

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス、イントロダクション	人権とは
2	人権総論	日本国憲法と人権
3	人権と教育 各論 (1)	性の多様性と人権
4	人権と教育 各論 (2)	障がい児・者と人権
5	人権と教育 各論 (3)	ハンセン病の歴史と人権
6	人権と教育 各論 (4)	（「在日」）外国人の人権
7	人権と教育 各論 (5)	子どもの人権
8	人権と教育 各論 (6)	先住民族の歴史と人権
9	人権と教育 各論 (7)	女性の歴史と人権
10	人権と教育 各論 (8)	ネット社会と人権
11	人権と教育 各論 (9) - 1	部落問題の歴史と人権 (1) 部落問題ってなに？
12	人権と教育 各論 (9) - 2	部落問題の歴史と人権 (2) 全国水平社は何を目指したのか
13	人権と教育 各論 (9) - 3	部落問題の歴史と人権 (3) 渋染一揆の闘いから学ぶ
14	人権と教育 各論 (9) - 4	部落問題の歴史と人権 (4) 被差別民衆が築いた文化
15	まとめ	人権と教育の学びを自分自身に引き寄せて考える
16		

科目コード	11305				区分	教養			
授業科目名	ビジネスコーチング				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は社会人基礎能力の中から対人スキルについて着目し、コミュニケーション能力を伸ばすためにコーチングのスキルを学ぶ。特に傾聴力や質問力を高める。コーチング心理学やポジティブ心理学に基づいた理論を理解するだけでなく、ビジネスで活かせるコーチングスキルを体得する。スポーツコーチングとは異なる。

<授業の到達目標>

ピアコーチングをすることで自己分析や自己発見をし、他者理解も促進する。傾聴力や質問力が身に付く。

<授業の方法>

講義、ディスカッション、コーチング・デモンストレーションの観察、コーチング実践ワーク、グループ演習など。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

該当テーマについて事前にテキストを読み、授業での実践に向けて準備する。また復習として二人一組でコーチングを実施して、学んだスキルを更に深める。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度と意欲 60%、課題の提出20%、最終的なスキルの習得度合い20%。課題については、グーグルクラスルーム上で各自コメントを返し、スキルの習熟度については授業中に随時直接フィードバックをする。

<教科書>

CTIジャパン マンガでやさしくわかるコーチング 日本能率協会マネジメントセンター

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法を伝える。この授業の特徴を理解する。
2	コーチングとは	教育におけるコーチングの定義を理解する。
3	自己分析	他者を知る前に自分を知るために、パーソナリティ診断をする。
4	コーチングの基礎スキル①	傾聴、反映のスキルの効用を理解する。
5	コーチングの基礎スキル②	認知、励ましのスキルを理解し、体得する。
6	コーチングの基礎スキル③	比喩のスキル、俯瞰のスキルを学ぶ。
7	中間の振り返り	前半に習得したスキルをグループでさらに深める。
8	外部講師招へい	プロフェッショナル・コーチを招へいして、仕事としてのコーチングについて理解を深める。
9	コーチングを学問する	コーチングのアカデミックな側面や海外事情について知る。
10	コーチングの基礎スキルの統合	傾聴、反映、認知、励まし、比喩、俯瞰のスキルやGROWモデルを実習する。
11	ポジティブ心理学コーチング	ポジティブ心理学に基づいたコーチングについて理解を深める。
12	コーチングの基礎スキルをさらに深める	これまで演習したスキルや心構えを復習する。
13	コーチング技術の診断①	習得したスキルを診断、フィードバック
14	コーチング技術の診断②	習得したスキルを診断、フィードバック
15	まとめ	各自の成果発表と総括。
16		

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力) [再履修者用]			担当者名	小川 正人				
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業はIPUジェネリックスキルズ I (非認知能力) の再履修者クラスである。非認知能力の5つのリテラシーを学習する。

<授業の到達目標>

本授業は、非認知能力のリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。単元A「調べぬく力」では情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」では情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを統合して隠れた構造を捉え本質を見極める力）単元C「話し合う力」では課題発見力（さまざまな角度と広い視野から現象を捉え、背景に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力）単元D「伝える力」では構想力（さまざまな条件や制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その課程で想定されるリスクや対処方法を構想する力）単元E「発信する力」では構想力（さまざまな条件や制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その課程で想定されるリスクや対処方法を構想する力）また以上の5単元すべてに、非認知能力3Rs（R1: Respect 自己と他者を大切にしよう！, R2: Responsipility 応答力・責任・役割を果たそう！, R3: Resilience 折れない心・やめない心をつくろう！）が伏在しており、これら非認知能力に基づいた授業が行われる。したがって本授業終了後には、5つのスキルに加え3Rsも獲得していることになる。

<授業の方法>

原則として対面で授業をおこなう。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加40% 授業課題60%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用
16		

科目コード	10302				区分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅲ				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

Students will engage in speaking and writing at a more advanced level to improve communication and understanding of English. Students will refine basic skills and learn advanced skills for speaking and writing in English to advance their communication ability. Students will work to create and understand meaning in areas like literature, music, and media. Students are expected to interact at a high level with others and have multiple learning opportunities to express and comprehend language. Students are expected to complete one class of ENGLISH I, ENGLISH II, TOEIC I, TOEIC II OR have STUDIED ABROAD prior to taking this course.

<授業の到達目標>

The overall goal of this class is to give students opportunity to express themselves in both speaking and writing and achieve their own voice in their English communication.

<授業の方法>

Students will work on assignments both individually and in pairs and groups with the goal of communicating their own ideas and thoughts, while also understanding others. Student will use Google Classroom to turn in their assignments and expected to have a

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students will need to prepare outside of class for 1 hour or more so as to be able to effectively communicate their own ideas and thoughts in class. Students will also have student-choice in many areas and are expected to research and bring their topics into the classroom.

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Assignment 30%Classwork 30%Presentation 40%

<教科書>

NONE

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	Guidance	Class guidelines and introduction
2	Exploring and Solving Problems	Students will use English to find solutions to tasks and puzzles.
3	Music	Students will choose a musical artist/group and evaluate the meaning of a song.
4	Reaction English	Students will learn common English vocabulary for reaction videos and create their own.
5	Reaction English (Make/Present a Reaction Video)	Students make and present a reaction video.
6	Literature	Students will study themes and look for deeper meaning of English literature.
7	English Mid-term Presentation	Student choose a topic and create a Mid-term Presentation
8	Present Student English Mid-Term Presentation	Students present and discuss their Mid-Term Presentations
9	Essay Reading	Students read multiple English essays to build understanding of the format and essential language of essays.
10	Essay Writing	Students learn the skills to write an essay in English.
11	The Art of Conversation	Student focus on how to effectively communicate and strategies to have smooth and continued conversation in English.
12	English Dialogue	Student study meaning and practice English dialogue from student-chosen sources.
13	Final Project Preparation	Students choose a format and prepare a Final Project.
14	Final Project Presentation	Students present and discuss students' Final Projects.
15	Reflection	Student reflect on areas their English has improved and give their thoughts on their overall learning in the class.
16		

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント [通年]留学生クラス			担当者名	SACKO Salif				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	2年生におけるキャリアにおける学びのデザインキャリア形成に向けた自己分析①	・初年次部長講話・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・建学の精神について講話を聴いて深める。
3	プレゼンスキルアップ講座	・ゲストを招いて「プレゼンテーション講座」を実施する。
4	プレゼンコンテスト予選	・各会場に分かれてプレゼンコンテストを実施する。・自身のキャリアについて考えたプレゼンテーションを行う。
5	学長講話	・学長講話「キャリアについて」
6	プレゼンコンテスト代表者予選	・プレゼンコンテスト代表者予選を実施する。・自身のキャリアについて考えたプレゼンテーションを行う。
7	キャリア形成に向けた自己分析②	・自身のキャリアについて考える。
8	基礎学力試験	・基礎学力の定着度を図る。
9	キャリア①	・キャリアについてのガイダンス
10	キャリア②	・在学生を迎えて就活への道筋に関する講話
11	キャリア③	・卒業生を迎えて就活への道筋に関する講話
12	キャリア④	・三志会から就活への道筋に関する講話
13	キャリア⑤	・外部講師を迎えて就活への道筋に関する講話
14	キャリア形成に向けた自己分析③	・自身のキャリアについて考える。
15	基礎学力試験②	・1年間の総まとめ
16		

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]健康科学科			担当者名	小玉 京士朗/畑島 紀昭/武内 壘				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

多方面に活躍できる柔道整復師を知ってもらうために各教員が取り組んでいる内容を体験型授業で実施し、自身の将来の方向性を定めることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義（学科教員による講義、講話） 2. グループワーク、ディスカッション 3. 省察（質疑・まとめ・感想発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：総合医学学習では指定学習範囲内容、プレゼミナールでは担当教員の研究領域内容について事前学習、調査（60分程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30%・課題70%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	現状を考え、今年度の計画を立てる1年次の成績、今年度の履修登録確認資格取得予定確認（アンケート）
2	総合医学学習①	スポーツ医学検定（過去問題から見る傾向と対策）
3	総合医学学習②	スポーツ医学検定（スポーツの知識、スポーツ医学全般の知識）
4	総合医学学習③	スポーツ医学検定（身体の知識（解剖学））
5	総合医学学習④	スポーツ医学検定（スポーツの怪我、故障の知識）
6	総合医学学習⑥	スポーツ医学検定（ケーススタディ）
7	学びと将来の進路①	プレゼミナール①（基礎医学領域）
8	学びと将来の進路②	プレゼミナール②（接骨院勤務領域①）
9	学びと将来の進路③	プレゼミナール③（接骨院勤務領域②）
10	学びと将来の進路④	プレゼミナール④（スポーツトレーナー領域①）
11	学びと将来の進路⑤	プレゼミナール⑤（スポーツトレーナー領域②）
12	学びと将来の進路⑥	プレゼミナール⑥（整形外科勤務領域）
13	学びと将来の進路⑦	プレゼミナールの取り組みと自身の進路の方向性への検討①
14	学びと将来の進路⑧	プレゼミナールの取り組みと自身の進路の方向性への検討②
15	学びと将来の進路⑨	まとめ
16		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]体育学科				担当者名	坂本 康輔／柴山 慧／平田 佳弘／片桐 夏海 ／吉岡 利貢／中島 治彦／保科 圭汰／明石 啓太／伊藤 三千雄／坂元 智子／田中 耕作／ 佐々木 史之／眞鍋 芳江			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニティの形成	授業方法の確認・理解、チームビルディング
2	自分を知る	自分の強みを分析する
3	project型学習① 企画	チーム・組織づくり、テーマ決め
4	project型学習② 計画	課題分析・構築
5	project型学習③ 実行	成功シナリオの追求・実施
6	project型学習④ 終結	効果の確認、プレゼンテーション作成
7	講話	進路を実現させるとは
8	まとめ	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見通しを立てる
9	大学を知る	後期の目標設定および履修登録の確認
10	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取組み(体育祭準備)
11	学科教育①	研究領域を知り、ゼミナールを考える
12	学科教育②	探求学習
13	学科教育③	研究領域からゼミナールを決定する
14	学科教育④	研究領域からゼミナールを決定する
15	まとめ	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う
16		

科目コード	14101			区 分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]現代経営学科			担当者名	倉田 知秋/大池 淳一/清水 健太/豊里 健 /見村 一郎/田口 雅弘/横内 浩平				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、
「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	クラスづくり	自己紹介・履修確認
2	大学生活について考える①	個別面談・前期の目標設定
3	大学生活について考える②	個別面談・グループワーク
4	文書作成	レポートやビジネス文書の書き方
5	自己分析	プレゼン資料の作成
6	プレゼン	プレゼンコンテストクラス予選
7	前期の振り返り	活動を振り返り、半期のまとめをする後期の見通しを立てる
8	後期に向けて	前期の振り返りをもとに、後期の目標設定、コース選択
9	キャリアを考える	資格取得について
10	業種を調べる	企業活動を知る
11	専門教育について考える①	企業が成功する条件とは
12	専門教育について考える②	地域の課題解決を考える
13	ゼミとは	ゼミ紹介3年生以降について考える
14	専門を考える	ゼミ決定に向けた自己分析
15	1年間の振り返りと評価	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年生の目標設定
16		

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [通年]現代経営学科(留学生)			担当者名	SACKO Salif				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学のスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	クラスづくり	自己紹介・履修確認
2	大学生活について考える①	個別面談・前期の目標設定
3	大学生活について考える②	個別面談・グループワーク
4	文書作成	レポートやビジネス文書の書き方
5	社会科学を知る	コース選択を考える
6	キャリアを考える	資格取得について
7	自己分析	進路を考える
8	前期の振り返り	活動を振り返り、半期のまとめをする後期の見通しを立てる
9	後期に向けて	前期の振り返りをもとに、後期の目標設定
10	業種を調べる	企業活動を知る
11	専門教育について考える①	企業が成功する条件とは
12	専門教育について考える②	地域の課題解決を考える
13	ゼミとは	ゼミ紹介3年生以降について考える
14	専門を考える	ゼミ決定に向けた自己分析
15	1年間の振り返りと評価	2年次の自身の成長を客観的に評価し、3年生の目標設定
16		

科目コード	10203				区分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅱ 全学科（上級者対象）				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

中級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。仕事、学校、娯楽などで出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば要点が理解できる。さまざまな事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 3 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting acquainted	Greetings; describing successful conversations; solving problems; discussing attitudes toward problem solving
3	Unit 2: Expressing yourself	Role-playing giving advice; describing feelings; discussing meanings of gestures; reacting to and discussing accents
4	Unit 3: Crime and punishment	Discussing crimes; punishments, and attitudes toward crime; discussing crime movies; speculating about a possible crime
5	Unit 4: Surprises and superstitions	Discussing strange pictures; creating and telling stories; talking about superstitions
6	Unit 5: Education and leaning	Talking about kinds of classes; recalling the first day of school and more recent details; discussing study techniques
7	Unit 6: Fame and fortune	Talking about successful and famous people; discussing sayings about money; discussing the importance of money
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Around the world	Talking about languages and language problems; discussing behavior in various situations; discussing customs
10	Unit 8: Technology	Discussing everyday products; talking about inventions; explaining how to make things
11	Unit 9: Mind and body	Talking about healthy and unhealthy situations; giving advice; explaining exercises; discussing stress and how to reduce it.
12	Unit 10: Spending money	Describing impressions of ads; discussing company slogans and brands; talking about advertising and types of shoppers
13	Unit 11: The news	Telling stories; talking about news stories; reacting to headlines; role-playing an interview
14	Unit 12: Relationships	Describing qualities of friendship; talking about friendship; describing a perfect partner; talking about marriage
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10203			区分	教養科目				
授業科目名	英語Ⅱ 全学科（中級者対象）			担当者名	SACKO Salif				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

中級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。仕事、学校、娯楽などで出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば要点が理解できる。さまざまな事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 3 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting acquainted	Greetings; describing successful conversations; solving problems; discussing attitudes toward problem solving
3	Unit 2: Expressing yourself	Role-playing giving advice; describing feelings; discussing meanings of gestures; reacting to and discussing accents
4	Unit 3: Crime and punishment	Discussing crimes; punishments, and attitudes toward crime; discussing crime movies; speculating about a possible crime
5	Unit 4: Surprises and superstitions	Discussing strange pictures; creating and telling stories; talking about superstitions
6	Unit 5: Education and leaning	Talking about kinds of classes; recalling the first day of school and more recent details; discussing study techniques
7	Unit 6: Fame and fortune	Talking about successful and famous people; discussing sayings about money; discussing the importance of money
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Around the world	Talking about languages and language problems; discussing behavior in various situations; discussing customs
10	Unit 8: Technology	Discussing everyday products; talking about inventions; explaining how to make things
11	Unit 9: Mind and body	Talking about healthy and unhealthy situations; giving advice; explaining exercises; discussing stress and how to reduce it.
12	Unit 10: Spending money	Describing impressions of ads; discussing company slogans and brands; talking about advertising and types of shoppers
13	Unit 11: The news	Telling stories; talking about news stories; reacting to headlines; role-playing an interview
14	Unit 12: Relationships	Describing qualities of friendship; talking about friendship; describing a perfect partner; talking about marriage
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	12203			区分	教養科目				
授業科目名	数学基礎 I [A]			担当者名	木戸 和彦				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

数学の楽しみとは、すでに持っている知識から新たな知識を探求していくことにある。どんなにすごいことに気付いても、その基礎となる計算ができなければ意味がない。本講義は、数学の基本を理解し、必要に応じて使いこなせるようにすること、さらに数学を通して論理的思考力を身に付けていくことを目的とする。また、グループワークを通して、理解したことを説明する能力を身に付ける。

<授業の到達目標>

数学の「数と式」や「関数」の内容について幅広い知識を学ぶ。具体的には、3つ以上の数のGCDとCMの計算方法やその活用方法、1次関数、2次方程式、速さの問題（速さの基本、旅人算、通過算、流水算）、割合の問題（濃度、売買算）などを扱う。これらを通して、数学の基礎知識を深めることを到達目標とする。

<授業の方法>

1. (個人) 問題を解く。 2. 解説を行う。 3. グループで、理解を深める。 4. (個人) 確認テストを行う。グループワークでは、その後に行う確認テストで「全員満点」となるよう、理解を共有する。授業で扱った資料は、復習に使えるよう、classroomに掲載する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 当該時間の内容の復習(1時間)、2. 前回の確認テストの直し(0.5時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義内確認テスト 70%、期末試験 30%とする。確認テストの採点により、フィードバックを行う。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	整数(1)	ガイダンス、数学概論、連続する3つの数/2桁の整数
2	整数(2)	剰余
3	整数(3)	x^2+y^2 の値
4	整数(4)	最大公約数・最小公倍数
5	割合(1)	速さの基礎問題
6	割合(2)	速さの応用問題
7	割合(3)	濃度
8	関数(1)	一次関数
9	関数(2)	二次関数
10	関数(3)	関数の応用
11	時計算	時計算
12	日暦算	日暦算
13	仕事算	仕事算
14	まとめ	まとめ
15	総合演習	期末試験
16		

科目コード	11301				区分	教養			
授業科目名	人権と教育 [B]				担当者名	梶原 洋一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育現場はもとより、社会人として求められる人権感覚を養うことを目的とし、日本国憲法の人権保障に関する知識を身につけた上で、現に存在するさまざまな人権課題について具体的に学び、正しい判断と正しい行動ができる力を身につける。

<授業の到達目標>

①日本国憲法の人権保障に関する基本的知識を身につけ、②現代社会においてそれが具体的にどのような形で侵害されているのかについて知り、③それらを解決するためにどうすべきかについて考え、正しく判断し、正しく行動することができる。

<授業の方法>

講義形式で進行する。教科書は使用せず、毎回配付するレジュメに沿って進行する。使用するレジュメは、一部ワークシート形式になっており、授業後にはそれぞれの人権課題の要点についてまとめた資料となるので、それらを綴るファイルを用意されたい。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に基づき、個別の人権課題について事前に調べておくこと。（30分）授業後に、課題整理と定着を図るために「ゲル・クラスルーム」を使って小テストを実施することがある。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験60%、受講態度（授業への取り組み姿勢、出席状況等）40%により、授業の到達目標①～③を測定する。

<教科書>

使用しない

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス、イントロダクション	人権とは
2	人権総論	日本国憲法と人権
3	人権と教育 各論 (1)	性の多様性と人権
4	人権と教育 各論 (2)	障がい児・者と人権
5	人権と教育 各論 (3)	ハンセン病の歴史と人権
6	人権と教育 各論 (4)	（「在日」）外国人の人権
7	人権と教育 各論 (5)	子どもの人権
8	人権と教育 各論 (6)	先住民族の歴史と人権
9	人権と教育 各論 (7)	女性の歴史と人権
10	人権と教育 各論 (8)	ネット社会と人権
11	人権と教育 各論 (9) - 1	部落問題の歴史と人権 (1) 部落問題ってなに？
12	人権と教育 各論 (9) - 2	部落問題の歴史と人権 (2) 全国水平社は何を目指したのか
13	人権と教育 各論 (9) - 3	部落問題の歴史と人権 (3) 渋染一揆の闘いから学ぶ
14	人権と教育 各論 (9) - 4	部落問題の歴史と人権 (4) 被差別民衆が築いた文化
15	まとめ	人権と教育の学びを自分自身に引き寄せて考える
16		

科目コード	11301				区分	教養			
授業科目名	人権と教育 [C]				担当者名	梶原 洋一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育現場はもとより、社会人として求められる人権感覚を養うことを目的とし、日本国憲法の人権保障に関する知識を身につけた上で、現に存在するさまざまな人権課題について具体的に学び、正しい判断と正しい行動ができる力を身につける。

<授業の到達目標>

①日本国憲法の人権保障に関する基本的知識を身につけ、②現代社会においてそれが具体的にどのような形で侵害されているのかについて知り、③それらを解決するためにどうすべきかについて考え、正しく判断し、正しく行動することができる。

<授業の方法>

講義形式で進行する。教科書は使用せず、毎回配付するレジュメに沿って進行する。使用するレジュメは、一部ワークシート形式になっており、授業後にはそれぞれの人権課題の要点についてまとめた資料となるので、それらを綴るファイルを用意されたい。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に基づき、個別の人権課題について事前に調べておくこと。（30分）授業後に、課題整理と定着を図るために「ゲージル・クラスルーム」を使って小テストを実施することがある。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験60%、受講態度（授業への取り組み姿勢、出席状況等）40%により、授業の到達目標①～③を測定する。

<教科書>

使用しない

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス、イントロダクション	人権とは
2	人権総論	日本国憲法と人権
3	人権と教育 各論 (1)	性の多様性と人権
4	人権と教育 各論 (2)	障がい児・者と人権
5	人権と教育 各論 (3)	ハンセン病の歴史と人権
6	人権と教育 各論 (4)	（「在日」）外国人の人権
7	人権と教育 各論 (5)	子どもの人権
8	人権と教育 各論 (6)	先住民族の歴史と人権
9	人権と教育 各論 (7)	女性の歴史と人権
10	人権と教育 各論 (8)	ネット社会と人権
11	人権と教育 各論 (9) - 1	部落問題の歴史と人権 (1) 部落問題ってなに？
12	人権と教育 各論 (9) - 2	部落問題の歴史と人権 (2) 全国水平社は何を目指したのか
13	人権と教育 各論 (9) - 3	部落問題の歴史と人権 (3) 渋染一揆の闘いから学ぶ
14	人権と教育 各論 (9) - 4	部落問題の歴史と人権 (4) 被差別民衆が築いた文化
15	まとめ	人権と教育の学びを自分自身に引き寄せて考える
16		

科目コード	12203			区分	教養科目				
授業科目名	数学基礎 I [B]			担当者名	木戸 和彦				
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

数学の楽しみとは、すでに持っている知識から新たな知識を探求していくことにある。どんなにすごいことに気付いても、その基礎となる計算ができなければ意味がない。本講義は、数学の基本を理解し、必要に応じて使いこなせるようにすること、さらに数学を通して論理的思考力を身に付けていくことを目的とする。また、グループワークを通して、理解したことを説明する能力を身に付ける。

<授業の到達目標>

数学の「数と式」や「関数」の内容について幅広い知識を学ぶ。具体的には、3つ以上の数のGCDとCMの計算方法やその活用方法、1次関数、2次方程式、速さの問題（速さの基本、旅人算、通過算、流水算）、割合の問題（濃度、売買算）などを扱う。これらを通して、数学の基礎知識を深めることを到達目標とする。

<授業の方法>

1. (個人) 問題を解く。 2. 解説を行う。 3. グループで、理解を深める。 4. (個人) 確認テストを行う。グループワークでは、その後に行う確認テストで「全員満点」となるよう、理解を共有する。授業で扱った資料は、復習に使えるよう、classroomに掲載する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 当該時間の内容の復習(1時間)、2. 前回の確認テストの直し(0.5時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義内確認テスト 70%、期末試験 30%とする。確認テストの採点により、フィードバックを行う。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	整数(1)	ガイダンス、数学概論、連続する3つの数/2桁の整数
2	整数(2)	剰余
3	整数(3)	x^2+y^2 の値
4	整数(4)	最大公約数・最小公倍数
5	割合(1)	速さの基礎問題
6	割合(2)	速さの応用問題
7	割合(3)	濃度
8	関数(1)	一次関数
9	関数(2)	二次関数
10	関数(3)	関数の応用
11	時計算	時計算
12	日暦算	日暦算
13	仕事算	仕事算
14	まとめ	まとめ
15	総合演習	期末試験
16		

科目コード	14206			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック) [再履修者用]			担当者名	小川 正人				
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

IPUジェネリックスキルズⅡの再履修者のクラスである。教育・経済/経営など各分野で求められるアカデミックスキルを扱い、その基礎的知識および技能の習得を行う。文献や資料の読み方、レポートの書き方、グループワークの手法、プレゼンテーションの手法等についての理解を深めていく。これらを通して、専門研究の基礎となる部分を強化し、大学での学びに主体的に取り組む姿勢を身につける。教員のファシリテーションのもと、文章作成、PPT資料の作成、グループ学習も取り入れる。

<授業の到達目標>

・グループ活動に必要なスキルを学び、他者とコミュニケーションできる・文献や資料を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、まとめることができる・グループ学習を通して、意見の表出と集約をすることができる。

<授業の方法>

教員のファシリテーションにより、アクティブラーニングの要素を加えた授業(グループワーク・ディスカッション・プレゼン)授業を展開する。一方的に教員の話聞くのではなく、積極的な発言や報告が求められ、また課題の提出も求められる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習(1時間程度) 事後学習(1時間程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 20%、グループワークへの貢献・発表 40%、レポート 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義全体の説明・自己紹介・班分け等
2	ライティングの手法①	論文・レポート作成のルール
3	ライティングの手法①	論文レポートの構成
4	コミュニケーションの手法①	対話型のコミュニケーション
5	コミュニケーションの手法②	討論型のコミュニケーション
6	コミュニケーションの手法③	I Tツールを利用したコミュニケーション(1)
7	コミュニケーションの手法④	I Tツールを利用したコミュニケーション(2)
8	プレゼンテーションの手法①	P P Tを利用したプレゼンテーション(1)
9	プレゼンテーションの手法②	P P Tを利用したプレゼンテーション(2)
10	レポート作成①	レポート内容の構想(1)
11	レポートの作成②	レポート内容の構想(2)
12	レポートの作成③	中間発表
13	レポートの作成④	レポートの最終とりまとめ
14	レポートの作成⑤	レポートのプレゼンテーション発表
15	まとめ	授業の振り返り・まとめ。
16		

科目コード	14207				区分	教養科目			
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅢ(シチズンシップ)				担当者名	小川 正人			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

「シチズンシップ」は日本語では「市民」と訳される。従来「市民」とは、一定の政治共同体（典型的には国家）の正式な一員を意味したが、今日では国境を越えた「地球市民」や「世界市民」が語られる。また「市民社会」も、政治社会という「公的領域」を意味する場合と市場という「私的領域」を表す場合を含みつつ、やはり現在ではグローバルな次元で語られる。本授業では、「市民」「市民社会」が何を意味しうるのかを考え、現在そして未来における「地球市民」や「世界市民」あるいは「グローバル・シチズンシップ」の役割・活動について議論していく。その議論の中心となるのが、SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」である。2015年9月に国連で開かれたサミットで策定されたSDGsは、先進国と途上国が一丸となって地球が直面している課題（環境、経済、教育、社会等）の解決に向けた17の目標で構成されている。本授業ではSDGsの17の目標のうち、第3目標「すべての人に健康と福祉を」第12目標「つくる責任 つかう責任」第15目標「陸の豊かさを守ろう」に焦点をあて、農業をテーマに考えていく。

<授業の到達目標>

本授業では、いくつかの農業の問題を取り上げ、その背景知識であるみどりの食料システム戦略、有機農業について学んでいく。

<授業の方法>

対面授業だけでなく、ゲストによる講義や、農業の実地体験を含めて進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出する。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では農業や食の問題に関心を持ち、それらのニュースがどのように伝えられているのか注視して欲しい

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、授業内課題40%、最終課題20%課題提出期間は1週間とする。提出期限を過ぎた場合は採点の対象とならないので十分に気をつけてほしい。

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の説明、問題提起「日本が直面する農業と食の問題」
2	我が国農業の現状と課題～まずは現状を知る～	みどりの食料システム戦略～SDGsにつながる～
3	なぜ今、有機農業なのか	有機農業を知ろう
4	有機農業ボランティア活動	・おかやまオーガニック：岡山市北区御津・（有）吉備路オーガニックワーク：総社市
5	パネルディスカッション	複数の農業者によるキャリア教育としての人生観話
6	生産資材の役割を学ぶ	農業における肥料の役割を学ぶ
7	ワークショップ	有機農業と生産資材の関係性を考える
8	農福連携事業者の思いを聞く	（合）ど根性ファーム：笠岡市
9	農福連携事業ボランティア活動	（合）ど根性ファーム
10	ワークショップ	健康から農業と福祉を考える
11	ワークショップ	各グループでテーマ決定
12	プレゼンテーション準備（1）	グループによるプレゼンテーション準備
13	プレゼンテーション準備（2）	グループによるプレゼンテーション準備
14	プレゼンテーション（1）	グループプレゼンテーション
15	プレゼンテーション（2）	グループプレゼンテーション
16		

科目コード	10401			区分	教養科目				
授業科目名	英語IV			担当者名	Jason Witthaus				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

Students are expected to speak and write at advanced levels while imploring effective communication and understanding of English. Students will refine basic skills and learn advanced skills for speaking and writing in English to advance their communication ability. Students will work to create and understand meaning in areas like literature, culture, social awareness, and technology. Students are expected to interact at a high level with others and have multiple learning opportunities to express and comprehend language. Students are expected to complete TWO classes of ENGLISH I, ENGLISH II, ENGLISH III, TOEIC I, TOEIC II, TOEIC III, TOEIC IV OR have STUDIED ABROAD prior to taking this course.

<授業の到達目標>

The overall goal of this class is to give students opportunity to express themselves in both speaking and writing and achieve their own voice in their English communication.

<授業の方法>

Students will work on assignments both individually and in pairs and groups with the goal of communicating their own ideas and thoughts, while also understanding others. Student will use Google Classroom to turn in their assignments and are expected to ha

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students will need to prepare outside of class for 1 hour or more so as to be able to effectively communicate their own ideas and thoughts in class. Students will also have student-choice in many areas and are expected to research and bring their topics into the classroom.

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Assignment 30%Classwork 30%Presentation 40%

<教科書>

NONE

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	Guidance	Class guidelines and introduction
2	Opinions	Students will discuss various topics and learn to give and understand others' opinions.
3	Poetry	Students will build meaning of English poems.
4	Literature	Students will study themes and look for deeper meaning of English literature.
5	Literature (continued)	Students will continue to study themes and look for deeper meaning of English literature.
6	Essay Writing	Students will learn how to write an effective essay.
7	English Mid-term Project	Student choose a topic and create a Mid-term Project
8	Present Student English Mid-Term Project	Students present and discuss their Mid-Term Projects
9	Cultural Understanding	Students read and discuss issues related to their own and world cultures.
10	Technology	Students discuss the issues around technology and our changing society.
11	Global Issues	Student grow awareness of Global Issues and discuss them in English.
12	Debate	Student try to form an opinion on a topic and debate with others to form a consensus.
13	SDG's in English	Students establish understanding of SDG's in English
14	Final Project Preparation	Students prepare their Final Project.
15	Final Project Presentation	Student present their Final Project and reflect on areas their English has improved and/or perspective has changed.
16		

科目コード	14109				区 分	教養科目			
授業科目名	多文化共生のための異文化理解				担当者名	小川 正人／SACKO Salif			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

「多文化共生」は近年様々なところで主張され、また一方でその理念に対して批判もある。しかし、「多文化共生」とは何を意味し、この理念のもとでどのような社会のビジョンが生まれてきたのであろうか。移民・難民の存在が国際政治の問題となり、「分断」の時代と言われる現代において多文化共生について考えていくことは重要となっている。同時に、交流の方法やこれからの働き方など、身近な問題についても考える必要がでてくる。この授業では異なる状況・背景を持った人々どうしが「共に生きる」こととは何か、「理想の社会」とは何かを考えていく授業である。

<授業の到達目標>

本授業の到達目標は、「多文化共生」をキーワードにして、国内外の課題や問題を取り上げながら、将来の「理想の社会」の構築に向けて考えていくことである。多文化共生に関わる基本的な概念を実例から紹介するとともに、「多文化社会」である日本が直面している問題を、個人・グループで考え発表することで、対立・紛争などを調和・調整できる力をつけていく。また、ゲストスピーカーによる講演、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、批判的思考力、問題解決能力など今後の社会に必要な力をつけていく。

<授業の方法>

複数の教員によるオムニバス方式の対面授業で進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出する。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。コロナ感染が再拡大した場合、オンラインもしくはオンデマンド授業に変更となる可能性もある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業での討論や活動に備えて、決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では、国内外のニュースについて注視して欲しい。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・態度（40%）授業課題（60%）課題については1週間程度の期間を設ける。未提出や提出期限を過ぎた場合は、採点の対象とはならないので注意してほしい。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・イントロダクション	「多文化共生」とは何か
2	多文化共生と国籍	「移民」？「難民」？
3	多文化共生と宗教	宗教は対立の要因か？
4	多文化共生と言語	言語間の平等とは？
5	ゲストスピーカー（1）	多文化共生を考えよう（1）
6	多文化共生と人種差別	マジョリティー？マイノリティー？
7	多文化共生と性・ジェンダー	個人のアイデンティティとは？
8	ゲストスピーカー（2）	多文化共生を考えよう（2）
9	「多文化社会」日本（1）	在日コリアンの歴史を知ろう
10	「多文化社会」日本（2）	外国人労働者・技能実習生が直面している問題とは？
11	ゲストスピーカー（3）	多文化共生を考えよう（3）
12	「多文化社会」日本（3）	国際結婚・育児について考えよう
13	グループワーク（1）	それぞれの課題の現状
14	グループワーク（2）	多文化共生社会のために自分たちが出来ること
15	まとめ	グループ発表
16		

科目コード	10206				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅢ				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、新しい技術（AI、ビッグデータ、IoT など）や新しい手法（アジャイルなど）の概要に関する知識をはじめ、IT（セキュリティ、ネットワークなど）の知識など幅広い分野の総合的知識を問う科目である。講義は、よりITの高みを目指すため、ITパスポート試験単元の内「テクノロジ系」を中心に進める。履修条件として、「コンピュータリテラシーⅠ」「コンピュータリテラシーⅡ」を単位習得済みであること。

<授業の到達目標>

ITを正しく理解し、効果的にITを活用することのできる「IT力」を身に付けるため、以下のことを理解し、正しくPCを活用できることを目標とする。1. ハードウェアに関する知識 2. ソフトウェアに関する知識 3. コンピューターの動作原理 4. 情報数学 5. 表計算ソフトの仕組み 6. データベースの知識 7. ネットワークの仕組み

<授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習と講義形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、事前課題に関する小テストを行った後、教員がいくつかのポイントの解説をし、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ内容を用いた練習問題を行い、少人数のグループワークで学生同志相談しながら作業を進める。完成させたレポートや成果物を授業内課題として毎回提出する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前課題を予習することを必須とする。わからない箇所は、基本的には、自力で調べること。（どうしてもわからない場合、わかる人に聞いてでもできるようにしておくこと）PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題・受講態度 15%、毎回の講義内課題 45%、総合課題 40%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業ガイダンス	ガイダンス、PC環境の確認、GIGAスクール構想についての確認、ITパスポート試験の概要説明
2	コンピューター概論	最も身近なコンピューター、0と1の世界、最新技術
3	ハードウェアⅠ	コンピューターの種類、パソコンの種類、コンピューターの五大装置
4	ハードウェアⅡ	情報量を表す単位、進数
5	ハードウェアⅢ	入出力装置
6	ハードウェアⅣ	記憶素子、記憶装置、RAMとROM
7	ハードウェアⅤ	ハードディスクの記憶容量、ハードディスクのアクセス速度
8	ソフトウェアⅠ	OSとアプリケーションソフト
9	ソフトウェアⅡ	ジョブ管理、ファイル管理、タスク管理、記憶管理
10	総合課題	これまでのまとめ（中間試験）
11	コンピューターシステムⅠ	システム構成技術、コンピューターシステムの分類
12	コンピューターシステムⅡ	コンピューターシステムの性能を表す指標
13	コンピューターシステムⅢ	コンピューターシステムの信頼性、稼働率の計算
14	コンピューターシステムⅣ	コンピューターシステムの応用技術
15	総合課題	講義のまとめ（期末試験）
16		

科目コード	12204			区分	教養科目				
授業科目名	数学基礎Ⅱ			担当者名	木戸 和彦				
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

数学の楽しみとは、すでに持っている知識から新たな知識を探求していくことにある。どんなにすごいことに気付いても、その基礎となる計算ができなければ意味がない。本講義は、数学の基本を理解し、必要に応じて使いこなせるようにすること、さらに数学を通して論理的思考力を身に付けていくことを目的とする。また、グループワークを通して、理解したことを説明する能力を身に付ける。

<授業の到達目標>

前半では、数学の「図形」の分野について学ぶ。後半では、高校数学の内容の一部を紹介する。具体的には、三平方の定理とその応用、円と直線、平行四辺形、立方体の切断、表面積・体積、集合論、記数法、場合の数（順列、組合せ）、数列などを扱う。これらを通して、数学の幅広い知識を身に付けることを到達目標とする。

<授業の方法>

1. (個人) 問題を解く。 2. 解説を行う。 3. グループで、理解を深める。 4. (個人) 確認テストを行う。グループワークでは、その後に行う確認テストで「全員満点」となるよう、理解を共有する。授業で扱った資料は、復習に使えるよう、classroomに掲載する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 当該時間の内容の復習(1時間)、2. 前回の確認テストの直し(0.5時間)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義内確認テスト 70%、期末試験 30%とする。確認テストの採点により、フィードバックを行う。

<教科書>

指定しない

<参考書>

指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	基礎テスト
2	連比	連比
3	平方根	平方根
4	平面図形(1)	三平方の定理
5	平面図形(2)	円周角の定理
6	平面図形(3)	円と面積
7	空間図形(1)	表面積・体積
8	空間図形(2)	立方体の切断
9	記数法	記数法
10	場合の数(1)	順列
11	場合の数(2)	組合せ
12	確率(1)	確率の基礎問題
13	確率(2)	確率の応用問題
14	集合(1)	カルノー表
15	集合(2)	ベン図
16		

科目コード	14002				区分	教養			
授業科目名	キャリアデザイン I [企業]				担当者名	佐藤 典子/眞鍋 芳江/鈴木 真理子/大久保 諒			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインIは具体的な就活能力の向上につながる授業とする。

<授業の到達目標>

自己分析や学生時代の経験の棚卸ができるようになり、将来のキャリアをデザインをする力が付く。

<授業の方法>

アカデミックな内容に加え、実用的なノウハウも学ぶ。外部講師を招へいしての講義や、クイズや動画も使う。履修者は300名を超えることが想定されるが、毎回前半Aと後半Bに分けて、45分授業を2回実施する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキストを使う授業の前後では、予習・復習があり、毎回授業終了時には振り返りを書く。外部講師を招へいする際には、感想文の提出を課す。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度 60%、提出物 40%。フィードバックとして、振り返りのコメントの中から代表的なものを全体で共有することがある。

<教科書>

山崎京子、平林正樹 2019年 未来を拓くキャリアデザイン講座 中央経済社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	A. ガイダンス ① シラバス説明、キャリアセンター担当者紹介B. ガイダンス ② 就職活動を取りまく状況の理解	前期の授業内容の紹介、ならびにキャリア支援や就活基礎知識についてキャリアセンターから伝える。また現在の就職活動を取り巻く環境についても情報を提供して理解を促す。
2	A. キャリアとは ①B. キャリアとは ②	自分自身の過去を内省し、内的キャリアについて考える。卒業生のインタビューも参考にする。(テキスト第1章)
3	A. キャリアとは③B. 就職情報サイト登録	内的キャリアを探るためにライフラインチャートを作成する。就職サイトの活用方法を知る。(テキスト第1章)
4	A. 自己理解①B. マッチプラスの結果から読み解く	自己理解を高めるためにジョハリの窓のワークを実施する。マッチプラスの活用方法を学ぶ。(テキスト第2章)
5	A. 自己理解②B. 情報収集	自分のキャリアアンカーを探し未来を意識する。学内外での情報の取り方について学ぶ。(テキスト第2章)
6	A. 自己理解③B. インターン参加対策	卒業生の例を参考に仕事上の興味を知る。インターンシップ参加にあたってマナーを知る。(テキスト第2章)
7	A. 人間関係とコミュニケーションB. 筆記試験、適正検査対策	卒業生のパネルディスカッションを通してキャリアの成長を考える。筆記試験や適性検査について理解を深める。(テキスト第3章)
8	A. 組織と仕事①B. ガクチカ、自己PR作成	企業研究の手法などを学ぶ。ガクチカ、自己PRの作成方法を知る。(テキスト第4章)
9	企業の代表による講演	私企業の経営陣による講演を聞いて、企業で働くことについて認識を高める。
10	A. 組織と仕事②B. 人間関係とコミュニケーション	志望動機の構造を理解する。アサーティブネスについて理解を深め、スキルを学ぶ。(テキスト第3章と第4章)
11	A. 組織と仕事③B. これからのキャリア	グローバル化、技術革新、少子高齢化に伴う労働市場の変化を理解する。柔軟な働き方を理解する。(テキスト第4章と第5章)
12	A. 組織と仕事④B. キャリアの理論①	求人票の味方、福利厚生について知る。トランジションモデルをベースに初期キャリア形成、プロティアンキャリアをベースにキャリアの自走について考える。(テキスト第4章と第8章)
13	A. キャリアの理論②B. グループディスカッション対策	先輩から、社会に出ること、学生時代にやっておきたかったことや、今後のキャリアプランについて聞く。グループディスカッションの対策を学ぶ。(テキスト第8章)
14	A. キャリア理論③B. 面接対策(対面・WEB)	就職活動に役立つキャリア理論を知る。面接の基本について知る。(テキスト第8章)
15	A. SMART目標の作り方B. 前期キャリアデザイン総括	振り返りと夏休みの目標設定をする。提出物やインターンシップの申込などの確認、授業評価など。

科目コード	14002			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアデザイン I [教職]			担当者名	練苧 千之/坂根 清貴/奥山 優/安井 正郎 /千葉 照久/大崎 卓己/延原 まどか/岩田 清隆/中野 隆重				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

キャリアデザイン I は子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を志望する学生が対象である。教員としての働くことの意義や自己理解を深める中で、必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、必要な取組について指導を行う。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

- 1 教員を選択した意思を明確にし、その職に進むために必要な資質や能力を高めることができる。
- 2 自己理解を深め、将来の生き方について考えることができる。
- 3 教員採用試験合格を目指して、必要な取組を理解し、日常の実践に生かすことができる。

<授業の方法>

- ・講話を通して、課題の提示や説明を行う。
- ・課題についてグループディスカッションを行う。
- ・課題についての演習を行う。
- ・レポートの提出。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・学習予定表に沿った内容に対して、課題意識をもたせる。(予習) ・各回の講座の内容について、個人またはグループでの話し合いの中で、自分の考えを深めることができるようにする。 ・学んだことを通し自分の考えをレポートとしてまとめることができる。(復習: 30分程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、 受講態度 20%、 講義内での課題等 20%、 最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 学校支援ボランティア	本講座の目的・意義・概要 教員を志望する理由 学校支援ボランティアの意義
2	立ち居振る舞い 教員採用試験の概要 進路調査	社会人になるための五つの基本 教員になるための心構え 進路調査
3	学長講話	教員としてのやりがい
4	授業の基礎・基本	授業と板書 板書の文字(チョークを持って書く)
5	教育現場の課題①「学力の向上」	学力向上への方策 *講話・グループディスカッション
6	講話「生徒指導提要の理解」	現場の実態を踏まえた、児童生徒への接し方
7	教育現場の課題②「いじめ問題の解決」	いじめ問題の現状と課題 *講話・グループディスカッション
8	教育現場の課題③「不登校の解消」	不登校の現状と解消への方策 *講話・グループディスカッション
9	教育現場の課題④「特別支援教育の充実」	特別支援教育の現状と課題 *講話・グループディスカッション
10	教育現場の課題⑤「家庭・地域との連携」	家庭・地域との連携と必要性 *講話・グループディスカッション
11	講話「現場が求める人材」	学校現場の現状と期待される人材
12	キャリア演習「荘内中学校生徒との交流」	玉野市立荘内中学校生徒との交流 ・進路選択について経験談 ・どんな先生を求めているか
13	教員に求められる資質や能力①「信頼される教員」	信頼される教員としての資質 *講話・グループディスカッション
14	教員に求められる資質や能力②「授業力の向上」	授業力向上のための取組 *講話・グループディスカッション
15	教員になるための取組の成果と課題	教員になるために努力していること 後期に向けての課題 夏季休業中の過ごし方 レポート試験
16		

科目コード	14002				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザイン I [公務員]				担当者名	森 利治/大井 理緒			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザイン I (公務員) は体育学科、教育経営学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種の公務員があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることとなり、職種を絞っていきます。そのためには公務員試験とはどのようなものか、どんな試験内容で構成されているのか、教養試験、適性試験、論文試験、面接試験などについて解説していく。以上のことを学んでいく中で本当に公務員試験に取り組む姿勢を養い、後期から始まる試験勉強に向けて覚悟を決めさせていく。

<授業の到達目標>

1. 公務員就職について職種や試験の知識を学び、将来目指すべき職種を見つける。2. 自己理解を深め、将来の自分の方向性について考える。

<授業の方法>

講義、講演会、グループワーク（模擬面接、集団討論）等の形式で実施する。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：グループワークをする際に、事前に課題を与え個別に調べさせ配布用紙に記入する（1時間程度）。復習：グループワークや講演会の場合は振り返りレポートを提出させる（30分程度）。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元別レポート70%、授業に取り組む姿勢30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本科目の目的・意義・概要、スーツ着用にあたっての再確認事項、公務員を志望する理由、立志会の説明
2	公務員試験の概要 (1)	公務員試験の種類
3	公務員試験の概要 (2)	公務員の職種について① (公安職)
4	公務員試験の概要 (3)	公務員試験の職種について② (公安職)
5	公務員試験の概要 (4)	公務員試験の職種③ (行政職)
6	公務員試験の概要 (5)	公務員試験の募集要項の見方と、願書の作成体験
7	公務員試験の概要 (6)	各種公務員試験の出題内容と実際の問題を見てみよう
8	講話「現場が求める人材」	大都市圏の警察官の仕事について
9	公務員試験の概要 (7)	体力検査、各種適性検査について
10	公務員試験の概要 (8)	各種試験の論文課題について
11	公務員試験の概要 (9)	論文を実際に書いてみる
12	立志会の入会説明	全体のカリキュラムの概要、活動内容の説明、費用についての説明、4年生の先輩からの話
13	公務員試験の概要 (10)	面接試験について (自分についての棚卸)
14	公務員試験の概要 (11)	面接試験について (自己分析)
15	公務員試験の概要 (12)	面接試験について (自己PR)
16		

科目コード	14002			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアデザイン I [幼保]			担当者名	檜寄 日佳				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

キャリアデザイン I [幼保] は、こども発達学科に在籍している幼稚園・保育所・こども園・福祉施設等への就職を希望する学生対象である。保育職を選択し働くことの意味や自己理解を深める中で、保育職に進むために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考える機会とする。また、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導をする。

<授業の到達目標>

1. 保育職を選択した意思を明確にし、保育職に進むために必要な資質や能力を高める。2. 自己理解を深め、将来の生き方について考える。3. 保育職採用試験合格を目指し、論作文、面接、実技試験などの技術を高める。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。（30分）・復習：各回の講義の内容について、個人またはグループで復習をし、ワークシートの追加記入や復習をする。（60分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度20%、課題50%、試験30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	職業選択と就職活動の意思確認と見直し	授業の目的・意義・概要
2	採用試験の流れと概要	採用試験までの流れ、自治体・法人の探し方
3	社会人のマナー（1）	社会人の身だしなみ、挨拶、立居振舞
4	社会人のマナー（2）	言葉遣い
5	学長講話	働くことの意味と職業選択
6	面接（1）	面接試験の基礎知識、面接準備
7	面接（2）	学生相互の面接練習
8	面接（3）	先輩による面接練習
9	論作文（1）	構成メモと文章の作成（1）
10	論作文（2）	構成メモと文章の作成（2）
11	保育実技（1）	手遊び・集団遊び
12	保育実技（2）	絵本の読み聞かせ、紙芝居
13	保育実技（3）	わらべ歌・弾き歌い
14	前期のまとめ（1）	期末テスト
15	前期のまとめ（2）	期末テストの振り返り長期休業期間の就職活動について
16		

科目コード	55007			区分	教養科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	箕戸 崇史				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。また、自身が目指す進路の社会的情勢を把握し、今求められる人材について把握する。そして社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、相手に伝える能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとりグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即した内容の予習、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題評価 90%、授業態度10%、

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本学における取得可能な資格と進路の関わり
2	学びと将来の進路 1	目標とする資格や免許、希望進路について調査
3	学びと将来の進路 2	医療従事とは（柔道整復師業務と人の身体の仕組み）
4	学びと将来の進路 3	柔道整復師の業界を知る①
5	学びと将来の進路 4	健康・医療・スポーツと柔道整復師 1（柔道整復師業務と外傷について）
6	学びと将来の進路 5	健康・医療・スポーツと柔道整復師 2（柔道整復師業務と外傷について）
7	大学生活の振り返り 1	半期の振り返りと後期にむけての目標設定
8	学びと将来の進路 6	目標とする資格・免許、進路希望、学科での学びについて各種現場での活動例（接骨院、医療機関、救護活動、トレーナー活動）とは
9	学びと将来の進路 7	相手に思いを伝えるスピーチとは？
10	学びと将来の進路 8	柔道整復師の業界を知る②
11	学びと将来の進路 9	健康・医療・スポーツと柔道整復師 3（柔道整復師業務と応急処置について）
12	学びと将来の進路10	健康・医療・スポーツと柔道整復師 4（柔道整復師業務と外傷・障害予防について（テーピングとは））
13	学びと将来の進路11	健康・医療・スポーツと柔道整復師 5（柔道整復師業務と外傷・障害予防について（ストレッチとは））
14	学びと将来の進路12	健康・医療・スポーツと柔道整復師 6（まとめ）
15	1年間の振り返りを行うとともに、次年度の目標設定	1年間の振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。
16		

科目コード	12103			区 分	教養科目				
授業科目名	食育論			担当者名	保科 圭汰				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

昨今、食環境の現状は、飽食の時代で豊かさが先行し、命を紡ぐ大切な食べ物を得ることへの感謝の気持ちを実感する機会が少なくなっている。人間が心身ともに豊かな暮らしを営むためには、食生活のあり方が大きな役割を果たし、「食」が人間の健康に必須である。本講義では、食育基本法をベースに現代の食の問題を踏まえ、食生活に関する基本的な理解を深め、高い見識をもって健全な食生活を実践および指導できる力を身につける。

<授業の到達目標>

本講義では、食を様々な視点から見ると力を養い、健康増進・生活習慣病予防におけるQOL向上のための方策を栄養の観点から考察する。また、ライフステージ別の食育を学び、高い見識をもって健全な食生活を実践・指導できるようになる。

<授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて授業の内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内で配布した資料は必ず目を通し、課される課題を復習として行う。（2時間程度）

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題点（レポート課題、意見交換、小テスト） 60%、最終課題 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

山本茂・奥田豊子・濱口郁枝（2011） 食育・食生活論 社会・環境と健康（栄養科学シリーズNEXT） 講談社
 辻とみ子・堀田千津子（2017） 新版ヘルス21 栄養教育・栄養指導論 医歯薬出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	食育・食生活の概念	食行動、食生活、栄養素の機能および意義
2	食育基本法の概要	法令制定の経緯・理念と内容
3	消化と吸収の機構	5大栄養素・水分の消化吸收
4	食生活と健康①	食生活と健康増進、朝食欠食、コシヨク
5	食生活と健康②	身体活動量の定量法、ボディイメージとダイエット志向
6	食生活と生活習慣病①	肥満と糖代謝異常
7	食生活と生活習慣病②	高血圧と骨の健康
8	生体リズムと食事	食事アセスメント、時間栄養学とサーカディアンリズム
9	世界の食文化	世界の食習慣、食作法
10	日本の食文化	日本の食習慣、食作法
11	ライフステージ別の食育①	乳幼児期の栄養教育
12	ライフステージ別の食育②	学童・思春期の栄養教育
13	ライフステージ別の食育③	成人期・妊娠期の栄養教育
14	ライフステージ別の食育④	高齢期の栄養教育
15	運動と健康問題	健康づくりのための運動と食生活
16		

科目コード	10301			区分	教養科目				
授業科目名	統計学			担当者名	木戸 和彦				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

初めに、統計学の基礎となる平均・分散・標準偏差について学習する。これらの値は、与えられたデータの特徴を知るための簡単な手法としてよく知られている。ここでは、計算はもとより意味や内容を十分に理解しておくことが重要である。次に、偏差値・度数分布表・ヒストグラムなどの基本事項を確認する。更に、2つのデータ間の関係を知るために有効な、相関図・共分散・相関係数・回帰直線などを学習後、確率変数と分布について検討を行い、2項分布・ポアソン分布及び正規分布とその応用について学習する。最後に母数の推定及び検定の考え方やその方法を学び、実社会での活用法を検討する。

<授業の到達目標>

一般的によく利用される、平均値の算出から始まり、分散、標準偏差、共分散、相関係数、回帰直線、検定の内容を十分理解し、実際のデータに対して手計算で算出できることを目標とする。

<授業の方法>

教科書代わりのプリントを配付し、それに基づいて解説する(45分程度)。また講義の理解を助けるために、講義時間内に問題演習を行う(45分程度)。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスを参考に、当日の授業内容を確認し、テキスト用プリントを講義前までに熟読すること(予習60分)。また、毎回の講義時に、演習問題を出題するので、次回講義開始時までに自力で解答できるようにしておくこと(復習60分)。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 15%、講義内課題 45%、期末試験 40%

<教科書>

<参考書>

小林敬子 著(1996) 基礎統計学 学術図書出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	統計の基礎(統計的データ)	データの種類、 Σ (シグマ)の意味の説明と演習
2	統計の基礎(基本用語の解説)	平均、分散、標準偏差の説明と演習
3	データの処理(計算表の利用方法)	計算表の作成とその利用方法の説明と演習
4	データの処理(基本数値の算出手法)	仮平均を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
5	データの処理(他の基本数値の算出手法)	度数表を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
6	データの処理(応用)	仮平均と度数表の両方を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
7	確率変数と確率分布(統計用語)	度数分布表、ヒストグラムの解説と演習
8	確率変数と確率分布(基本的な分布)	正規分布の解説と演習
9	確率変数と確率分布(身近な統計的数値を算出するための準備)	標準化の解説と演習
10	確率変数と確率分布(偏差値の算出)	偏差値の解説と演習
11	回帰と相関(基本用語の解説と算出手法)	相関図、共分散、相関係数の解説と演習
12	回帰と相関(回帰直線の算出)	回帰直線の解説と演習
13	確率変数と確率分布(その他の分布)	確率、二項分布、ポアソン分布の解説と演習
14	検定(仮説検定の意味)	独立性の仮説検定、T検定、F検定の演習
15	まとめ	講義のまとめ
16		

科目コード	14002				区分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザイン I [健康科学科用]				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

<授業の到達目標>

柔道整復師に求められる職業倫理及び、社会保障制度について学び、柔道整復師の役割を理解し、自身の目指すべき方向性を明確にする。柔道整復師の職務と誇りを育むとともに、ビジネスマナー、自己分析力、業界に対する知識を身に付ける。

<授業の方法>

必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に連絡した内容を予習して授業に臨む（毎回1時間程度）復習：講話後はレポートを提出し、柔道整復師の理解を深める。（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業意欲・態度：30%授業中の意見交換：20%授業課題・レポート提出：50%

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の目的、進め方についての説明就職先に関するアンケート
2	職業倫理①	業界調査（地域医療に貢献する柔道整復師の実態）
3	職業倫理②	業界調査②（効果のある施術を探る）
4	職業倫理③	OB・OG講話 柔道整復師の業務とその実際
5	職業倫理④	企業講話 柔道整復師が果たすべき役割
6	自己分析①	自己PRの仕方① 自分の強みを考える
7	自己分析②	自己PRの仕方② 自分の強みを伝える
8	自己分析③	自己PRの仕方③ 名刺の役割および作成
9	自己分析④	志望動機を考える
10	就職活動の実践①	履歴書・エントリーシートの書き方
11	就職活動の実践②	履歴書・エントリーシートの相互指導（添削）
12	就職活動の実践③	面接（オンライン及び対面）の対応
13	就職セミナー①	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、複数の企業の説明を聞く。
14	就職セミナー②	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、複数の企業との面談を体験する。
15	前期まとめ	柔道整復術の短期的視点・長期的視点夏季休暇中の企業見学について
16		

科目コード	55007				区 分	教養科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	内田 仁志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	講義、ディスカッション、演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本講座は学生の方が将来、社会に出ても通用する実践的な能力を育てることを目標にします。具体的には将来教員になっても本講座で学ぶ国語科の「話す・聞く」と「書くこと」の領域については自信をもって授業ができるような能力を育てることを最終的な目的とします。そのためにプレゼンテーションを取り上げ、説得力のある話し方、資料の選択の仕方、わかりやすい文章構造などを演習を通して実際に学んでいきます。さらに教育現場とも連携を図り、適宜実際の教育現場や学会等にも触れたいと思います。また卒論・ゼミ論の指導、公開研への参加など4年生を見据えた指導も充実します。

<授業の到達目標>

①実際の学校現場を理解し、教員という仕事を理解すること②教育現場でのプレゼンテーションの重要性を理解し、研鑽する意欲を持つこと③効果的なプレゼンテーションの仕方を理解し、実践すること

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとります。ゼミという形式の特性を生かし、話し合いの機会を多くします。また適宜、実際の教育現場との連携を図ります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分のプレゼンテーション発表の前には資料の準備、発表原稿の整理などをする必要があります。発表当日は準備の時間を取らず、発表→話し合いの形式となるので準備はきちんとしておきましょう。また話し合い後に後日、修正したプレゼンテーションを行うこともあります。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（ミニテスト、ミニレポート等）20%、大課題（発表等）50%

<教科書>

※教科書、参考書とも指定しませんが、機会があれば実際の小中学校の国語の教科書を見て「話す・聞く」指導の教材は何か調べておくといでしょう。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・本講座の進め方・実際の学校現場について・現行の教科書の教材把握	・本講座の内容・方法の理解をします。・学校現場について知り、教員になる意欲をもちます。・現行の教科書を用いて「話す・聞く」領域が多いことを理解します。
2	話すことは好きか嫌い、その理由を探る。	自分の小中学生時代を想起し、話すことは好きだったか想起します。そしてもし嫌いだった場合、なぜ嫌いだったか原因を探り解決法を考えます。
3	実際に話してみよう	テーマを決めて即興でスピーチをします。ゼミ生全員でスピーチについて話し合います。そして何を観点に聞か、聞くポイントを明確にします。
4	聞くポイントに沿って話し方を考える	聞くポイントが明確になったのでそのポイントに沿うように2回目のスピーチをします。
5	分かりやすい文章構成を学ぶ	分かりやすい文章とは何か。実際に文章構成を考えてスピーチ原稿を考えます。
6	※実際の学校現場で求められる力（作文を指導する）	文章構成を学んだので実際の小学校現場での作文指導の実際を取り上げます。具体的には読書感想文を取り上げ、指導法を紹介します。
7	スピーチ大会をしよう	視覚的な資料を用いずにスピーチ大会をします。・読み手のポイント：分かりやすい話し方、聞くポイントに沿った文章構成の工夫・聞き手のポイント：聞く観点を決めて評価基準を作る
8	発表資料の選択	発表資料で多く使われる教材がパワーポイントです。ここでは具体的にパワーポイントの使い方をマスターします。
9	パワーポイントについて①	スライドについて、デザインについてなど基本的な捜査について学びます。
10	パワーポイントについて②	パワーポイントの動作など便利な機能を使って資料を使います。
11	パワーポイントについて③	パワーポイントを用いてテーマに沿った原稿を作ります。
12	プレゼン原稿を作ろう	パワーポイントや視覚資料を用いて発表原稿を作ります。
13	プレゼンテーション大会を開こう①	これまで作ってきたプレゼンテーションを発表します。具体的にはゼミ生の方を2班に分け2回で全員が発表するようにします。
14	プレゼンテーション大会を開こう②	前回同様、これまで作ってきたプレゼンテーションを発表します。後半のゼミ生の

15	学習の振り返り	方の発表です。
16		半年間の学習を振り返り実際の学校現場で生かせる能力が身についたかを検証します。

科目コード	14002			区 分	教養科目				
授業科目名	キャリアデザイン I [BC留学生用]			担当者名	大平 真紀子				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の人生を実りあるものにするためには、きちんとしたキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。本科目では、前期は進路別の就職活動の基本的スケジュールを理解するとともに、自己理解、職業・仕事の理解を通じ自身の目指すべき方向性を明確にする。後期は、就職活動に必要なビジネスマナー、自己分析、業界研究、面接対策等について実践的に学習していく。

<授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。

<授業の方法>

講義と演習を組み合わせる。業界・企業研究に関連する授業回で、グループワークを行う。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習(各回60分程度)：課題の指定された部分を通読したうえで、分からない言葉を調べる。復習(各回80分程度)：授業で学んだことを踏まえて、自身のキャリアについて考えたり、進路決定に向けた準備を進めたりする。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはGoogle Classroomで行う。

<教科書>

<参考書>

久保田学(2018) 「留学生のための就職内定ワークブック」 日本能率協会マネジメントセンター
グエン・テュアン・ズオン(2018) 「ベトナム人が日本企業に就職するための心得」 日本ベンチャー大学パブリッシング

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	多様な選択肢を知る	日本就職、母国就職、進学などの選択肢の概観
2	日本で就職すること(1)	日本の採用文化、就活スケジュール
3	日本で就職すること(2)	留学生に対する企業側の期待と不安
4	キャリアを考える(1)	内的キャリアと外的キャリア
5	キャリアを考える(2)	キャリア・アンカー
6	自分がどういう人かを考える(1)	人生曲線、自分史
7	自分がどういう人かを考える(2)	コンピテンシー
8	自分がどうしたいかを考える(1)	未来史
9	自分がどうしたいかを考える(2)	日本との関係(つながり)
10	インターンシップ	日本のインターンシップの特徴、参加する意義、参加方法
11	業界を知る(1)	業界研究の視点、基本的な方法
12	業界を知る(2)	業界研究の実践
13	企業を知る(1)	企業研究の視点、基本的な方法
14	企業を知る(2)	企業研究の実践
15	筆記試験の重要性	適性検査、一般常識試験、論作文
16		

科目コード	12103			区 分	教養科目				
授業科目名	食育論			担当者名	眞鍋 芳江				
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

昨今、食環境の現状は、飽食の時代で豊かさが先行し、命を紡ぐ大切な食べ物を得ることへの感謝の気持ちを実感する機会が少なくなっている。人間が心身ともに豊かな暮らしを営むためには、食生活のあり方が大きな役割を果たし、「食」が人間の健康に必須である。本講義では、食育基本法をベースに現代の食の問題を踏まえ、食生活に関する基本的な理解を深め、高い見識をもって健全な食生活を実践および指導できる力を身につける。

<授業の到達目標>

本講義では、食を様々な視点から見つめる力を養い、健康増進・生活習慣病予防におけるQOL向上のための方策を栄養の観点から考察する。また、ライフステージ別の食育を学び、高い見識をもって健全な食生活を実践・指導できるようになる。

<授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて授業の内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内で配布した資料は必ず目を通し、課される課題を復習として行う。（2時間程度）

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題点（レポート課題、意見交換、小テスト） 60%、最終課題 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

山本茂・奥田豊子・濱口郁枝（2011） 食育・食生活論 社会・環境と健康（栄養科学シリーズNEXT） 講談社
 辻とみ子・堀田千津子（2017） 新版ヘルス21 栄養教育・栄養指導論 医歯薬出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	食育・食生活の概念	食行動、食生活、栄養素の機能および意義
2	食育基本法の概要	法令制定の経緯・理念と内容
3	消化と吸収の機構	5大栄養素・水分の消化吸収
4	食生活と健康①	食生活と健康増進、朝食欠食、コシヨク
5	食生活と健康②	身体活動量の定量法、ボディイメージとダイエット志向
6	食生活と生活習慣病①	肥満と糖代謝異常
7	食生活と生活習慣病②	高血圧と骨の健康
8	生体リズムと食事	食事アセスメント、時間栄養学とサーカディアンリズム
9	世界の食文化	世界の食習慣、食作法
10	日本の食文化	日本の食習慣、食作法
11	ライフステージ別の食育①	乳幼児期の栄養教育
12	ライフステージ別の食育②	学童・思春期の栄養教育
13	ライフステージ別の食育③	成人期・妊娠期の栄養教育
14	ライフステージ別の食育④	高齢期の栄養教育
15	運動と健康問題	健康づくりのための運動と食生活
16		

科目コード	12104			区 分	教養科目				
授業科目名	生命科学基礎			担当者名	大塚 愛二				
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ヒトをはじめとする生物の体は、最小単位としての細胞からなっている。この授業では、生命活動を細胞レベルで学修する。「細胞がどのような構造と機能をもっていて、どのような生命活動を行っているのか」、「多種多様な細胞がどのように働いているのか」について高校生物を履修していない学生も理解できるように初歩的な段階からの学修を行う。

<授業の到達目標>

日常的に知ることのできる生命科学に関する情報の中で細胞生物学に関する事項を正しく理解する。細胞の一般的な構造と機能を説明できる。細胞内小器官を説明できる。遺伝子の情報からタンパク質が作られる過程を説明できる。細胞分裂を説明できる。多種多様な細胞を例示しその概略を説明できる。

<授業の方法>

一般向けに編集されたムックを教材として用い、その内容を理解できるよう講義する。小テスト(ワークシート)を毎回実施し、各回の授業内容のポイントを整理し、知識の定着を図る。※本授業はデジタルオンデマンド教材等使用し行うため、ノートPCまたはタブレット端末等を準備の上、受講すること。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【準備学習】Google Classroomに示された各授業のキーワードを事前に学ぶ(予習40分)。復習ワークシートを自ら解答する(復習40分)。【その他の授業時間外学習】課題提出(自己学習40分/週)。準備学習に必要な資料はClassroomに置く。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各回のワークシート(25%)、中間試験(25%)、期末試験(25%)、課題レポート(25%)により評価する。課題レポートのテーマ設定と提出方法については、別途指示する。

<教科書>

木村直之 編(2022.4) ニュートン別刷 ゼロからわかる人体と細胞 ニュートンプレス

<参考書>

Albertsほか著、中村桂子ほか監訳 Essential細胞生物学 南江堂(IPU図書館所蔵)

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業の進め方と生命科学の序論
2	生命の基本単位:細胞	生命とは何か、その基本単位としての細胞について
3	細胞核	細胞核の構造と機能について
4	遺伝子の発現	DNA上の遺伝情報をもとにタンパク質を合成するしくみ
5	小胞体とゴルジ装置	作られたタンパク質のその後
6	ミトコンドリア	ミトコンドリアとエネルギー生成について
7	細胞膜	細胞膜の構造と機能について
8	中間まとめ	第2~7回のまとめと中間試験
9	細胞骨格	細胞骨格をつくる分子とモーター分子
10	細胞分裂	細胞分裂のしくみと分化・成長
11	減数分裂と生殖	減数分裂のしくみと生殖
12	細胞の分化と多様性	細胞の分化と体内の多種多様な細胞
13	体を守る細胞たち	免疫系の細胞と生体防御のしくみ
14	細胞の科学と医療	幹細胞、再生医療、細胞の寿命
15	総括	第9~14回のまとめと期末試験
16		

科目コード	14003				区分	教養			
授業科目名	キャリアデザインII [企業]				担当者名	佐藤 典子/眞鍋 芳江/濱嶋 幸司/鈴木 真理子			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必須

<授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ、就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインIIでは働くことの意義や大学での学びが社会にどう関連するか考える。

<授業の到達目標>

業界分析や職種研究によって、将来の自分のキャリアを強くイメージできるようになる。また大学での学びが社会でどのように役に立つか自分の言葉で話せるようになる。

<授業の方法>

講義やグループディスカッションなど。AとBの45分授業を続けて実施する。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

企業研究や課題レポートの作成などで約30分から1時間

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度60% 提出物40% 提出物へのフィードバックについてはグーグルクラスルームを活用する。

<教科書>

随時印刷物を配布する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	A. 初回ガイダンス B. 自分を知る(自己分析)	キャリアデザインIIとなるので、改めて初回ガイダンスで授業のルールや心構えについてキャリアセンター職員からアドバイスを提供する。また自己分析でさらに自己理解を深める。
2	A. ビジネスマナー、身だしなみ講座 B. スタートアップセミナー	翌年3月1日の就活解禁までのスケジュールを把握し、どのようなスキルをいつまでに身に付けたいかについて知見を得る。ビジネスマナーも習得する。
3	A. インターンシップ報告会 B. 就活エージェントと上手につき合う	現役3年生がインターンシップの成果を報告する。またエージェントをどのように就活に活用するかを学ぶ。
4	A. OB・OGから学ぶ～転職する時に必要な力 B. 企業研究の方法	卒業生に登壇してもらい、講話を聴く。また企業研究の効果的なやり方を理解する。
5	A. 履歴書を書いてみよう B. 自己PRの書き方	書類選考を通過する履歴書とはどのようなものか。他者と差別化できる志望動機はどのようにして書くのかについて理解を十分に深めてもらい、異なる業界、職種へのエントリーに際しても学生自身がカスタマイズできるレベルにまでスキルが上がることを目指す。
6	A. OB・OGから学ぶ B. ガクチカの書き方(実践)	理解しているようで理解できていないベンチャー企業や大手企業について、そこで働く先輩達からリアルな体験を聞く。学生のうちに力を入れたことをどう効果的に書くかを演習する。
7	A. 一般常識・時事問題を知ろう B. 給与明細の見方、社会保険税金の考え方	時事問題についての関心を高める。また社会人にとって重要項目である「お金」「保険」「税金」にまつわる知識を身に付ける。
8	A. 学生の意向、志向から今の就活を読み解く B. 社会人の先輩から学ぶ大切なこと	履修学生の就活動向をアンケートでリアルタイムで集計し公表、学生の意欲を高める。また担当教員のキャリア形成のストーリーを知ることで長期的なビジョンを持つ。
9	ゲストスピーカーによる講話	社会で活躍する外部講師を呼び学生視野を広げる。
10	A. 企業研究① B. 企業研究②	各企業で活躍するビジネスパーソンから学ぶ。
11	A. 学長講話 B. 志望動機の書き方	大橋節子学長より「社会に出るにあたって」また「企業就職」について講話頂き、人生において大切なことを学ぶ。
12	A. 人生設計をしよう B. 企業研究おさらい + 自己PRブラッシュアップ	長期的な人生設計を学生のうちから試みる。また企業研究や自己PRを更に進める。
13	A. 海外志向を持つ B. 外資系企業で働く	青年海外協力隊の体験を聞き、グローバルな視野を持つ。また本学からは就職実績がまだ少ない外資系企業で働くことについて理解を深める。
14	A. 就活直前モチベーションアップ講座 B. 学内合同企業研究会参加企業の説明	就活を目前に控え、各自のモチベーションを上げる。合同企業研究会に参加して成果を上げるコツを習得する。
15	A. 合同企業説明会の周り方、就活バスターについて B. 4年生になっても覚えておくこと	キャリアデザインIIの最終回にあたり、4年生になって覚えておくべき大学での手続きについて学ぶ。あと1か月に迫った解禁日を前に事務的連絡なども含む。

科目コード	14003			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアデザインⅡ [教職]			担当者名	練苧 千之/坂根 清貴/奥山 優/安井 正郎 /千葉 照久/大崎 卓己/延原 まどか/岩田 清隆/中野 隆重				
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインⅡは、子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を希望する学生対象である。このクラスでは、教員を選択し、働くことの意義や自己理解を深める中で、教員になるために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、より実践的な取組について指導を行う。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

1 教員を選択した意思を明確にし、その職に進むために必要な資質や能力を高めることができる。2 自己理解を深め、将来の生き方について考えることができる。3 教員採用試験合格を目指して、必要な取組を理解し、日常の実践に生かすことができる。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明を行う。 ・課題についてグループディスカッションを行う。 ・課題についての演習を行う。 ・レポートの提出。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・学習予定表に沿った内容に対して、課題意識をもたせる。(予習) ・各回の講座の内容について、個人またはグループでの話し合いの中で、自分の考えを深めることができるようにする。 ・学んだことを通し自分の考えをレポートとしてまとめることができる。(復習：30分程度)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・学習意欲 20% ・受講態度 20% ・講義内での課題等 20% ・最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教員採用試験合格への取組 キャリアデザインの後期の予定 個別面談・学習進行表	合格に向けての心構え～これからの努力 *対策講座について *個別面談・学習進行表について
2	教師に求められる資質や能力③「保護者対応」	保護者に対応するために必要な心構えと力 *講話・グループディスカッション
3	教育課題への対応① 「時事問題への対応」 ～情報モラル教育～	情報モラル教育の理解とその対応 *講話・グループディスカッション
4	出前講座 「学校現場が必要としている教員像 ～授業づくり～」	主体的・対話的で深い学びの実現 ・広島県教委「ワークショップ」
5	教育課題への対応② 「人権尊重の教育」 ～いじめ・児童虐待・LGBT～	人権尊重の教育の基本的な考え方と取組 *講話
6	合格の秘訣を探る① 「教採合格者の体験」	教員採用試験合格者の体験発表 * 「私はこうして合格した」
7	合格の秘訣を探る② 「個人面接・場面指導」	教採における個人・集団面接の概要と留意点 *先輩の個人面接・場面指導
8	合格の秘訣を探る③ 「模擬授業」	教採における模擬授業の概要と留意点 *先輩の模擬授業
9	合格の秘訣を探る④ 「集団面接・集団討論」	教採における集団討論等の概要と留意点 *先輩の集団面接・集団討論
10	教育課題への対応③ 「令和の日本型教育について」 ～個別最適な学び、協働的な学びの実現～	個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けた取組 *講話
11	講話① 「生徒指導への対応」	生徒指導についての基本的な考え方と実践事例 *中学校長の講話
12	講話② 「学級集団の育て方」	学級集団づくりについての基本的な考え方と実践事例 *小学校長の講話
13	教育課題への対応④ 「家庭・地域・専門機関等との連携」 ～チーム学校～	チーム学校の体制づくりの必要性 *講話・グループディスカッション
14	教育課題への対応⑤ 「学校安全」	学校安全の取組の必要性 *講話・グループディスカッション
15	教採に向けた取組の成果と課題	教員採用試験に向けた取組の振り返り来年度に向けての方策春季休業期間の学習レポート試験

科目コード	14003			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアデザインⅡ [公務員]			担当者名	森 利治/大井 理緒				
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインⅡ（公務員）は体育学科、教育経営学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種の公務員があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることとなりたい職種を前期で絞ったうえで、警察官、消防士、自衛官、市役所、県庁職員など実際現場で活躍されている方などをお招きして実際の業務を生講義していただき、学生が調べてきたことと実際との相違を学び、4年生から始まる本試験に向けて仕事の意味を理解した上で試験に臨んでいくことを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 公務員採用試験に合格するために、キャリアデザインⅠで取り組んだ自己分析をもとに集団面接形式での実践演習を行い、実際の面接試験に向けての動機付けになるようにする。2. 各職種で活躍されている外部講師の方からの講話、合格を勝ち取った先輩方の体験談を聴いて、自分の進みたい道に対しての覚悟を決め受験に対するモチベーションを高める。

<授業の方法>

講義、講演会、論文対策、模擬面接などの形式で実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：模擬面接や論文課題をする際に、事前に課題を与え個別に調べさせ所定用紙に準備させる（1時間程度）。復習：講演会の場合は振り返りレポートを提出させる（30分程度）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験70%、単元別レポート15%、授業に取り組む姿勢15%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	後期の目標を設定する	志望先を考える。勉強と部活動、アルバイトなどとのバランスについてスケジュールを立てる。
2	実践演習（1）	面接試験について（集団面接①）
3	講話「現場が求める人材」（1）	消防士の仕事内容（1）
4	実践演習（2）	面接試験について（集団面接②）
5	講話「現場が求める人材」（2）	地方の警察官の仕事内容について
6	合格の秘訣を探る（1）	公務員試験合格者の体験談（1）
7	実践演習（3）	面接試験について（集団面接③）
8	講話「現場が求める人材」（3）	刑務官の仕事内容について
9	合格の秘訣を探る（2）	公務員試験合格者の体験談（2）
10	講話「現場が求める人材」（4）	県職員の仕事内容について
11	合格の秘訣を探る（3）	公務員試験合格者の体験談（3）
12	講話「現場が求める人材」（5）	自衛官の仕事内容について
13	講話「学長講話」	本試験まであと三か月、追い込み時期を乗り切るために学長先生から学生にメッセージをいただく。
14	講話「現場が求める人材」（6）	市職員の仕事内容について
15	講話「現場が求める人材」（7）	消防士の仕事内容について（2）
16		

科目コード	14003				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ [幼保]				担当者名	檜 日佳			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

キャリアデザインⅠ [幼保] は、こども発達学科に在籍している幼稚園・保育所・こども園・福祉施設等への就職を希望する学生対象である。保育職を選択し、働くことの意味や自己理解を深める中で、保育職に進むために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考える機会とする。また、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導をする。

<授業の到達目標>

1. 保育職を選択した意思を明確にし、保育職に進むために必要な資質や能力を高める。2. 自己理解を深め、将来の生き方について考える。3. 保育職採用試験合格を目指し、論作文、面接、実技試験などの技術を高める。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する資料関連や課題を読み、授業の準備をする。(30分) ・復習：各回の講義の内容について、個人またはグループで復習をし、ワークシートの追加記入や復習をする。(60分)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習態度20%、課題50%、小テスト30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	職業選択と就職活動の意思確認と合格までの見通し	授業の目的・意義・概要
2	論作文(1)	原稿用紙の使い方と表記
3	論作文(2)	自己分析シートを活用した自分の強みと課題
4	論作文(3)	保育内容に関する論作文
5	論作文(4)	保育の時事問題にかんする論作文
6	採用情報の探し方	採用情報の探し方、求人票の見方
7	就職説明会、インターンシップへの参加準備	就職説明会・インターンシップの申込、参加準備、マナー、情報の整理
8	合同就職説明会の参加	保育職合同説明会及び保育ICT見本市への参加
9	保育職の仕事とやりがい(1)	公立保育園で働く先輩の講話
10	保育職の仕事とやりがい(2)	私立保育園で働く先輩の講話
11	保育職の仕事とやりがい(3)	児童福祉施設で働く先輩の講話
12	保育職の仕事とやりがい(4)	学童保育で働く先輩の講話
13	採用試験の準備(1)	受験計画の作成
14	採用試験の準備(2)	合格に向けての対策と準備
15	後期のまとめ	最終テスト及び振り返り
16		

科目コード	13303			区 分	教養科目				
授業科目名	地理・地政学			担当者名	小川 正人				
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

世界は理想だけで動くものではない。表舞台で理想が語られていても、その裏では政治的策謀と外交的駆け引きが繰り広げられている。この授業では、近年注目を集めている地政学について、地政学とは何かについて基礎的な理解をもとにして、国家間の関係をより現実的にとらえていくとともに、世界地図を通して世界各国の接続性を視覚的に把握できるようにする。

<授業の到達目標>

冷戦後、グローバル化の進展によって、ヒト・モノ・カネ・サービスが国境を越えて自由に行き来するようになった。インターネットで世界中の人々がつながっている現在、地理的な「接続性」が改めて注目を集めている。たとえば日本が目指す「自由で開かれたインド・太平洋」構想は、どのような世界を目指しているのか。それは、中国の「一帯一路」構想と対立するのか、協調的なのか。世界地図を前に考えていく。

<授業の方法>

対面授業で進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出していく。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。事情や状況によって、オンラインもしくはオンデマンド授業に変更となる可能性もある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業での討論や活動に備えて、決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では、ニュース、特に国際問題について注視して欲しい。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・態度（40％） 授業課題（60％） 課題については1週間程度の期間を設ける。提出期限を過ぎた場合は、採点の対象とはならないので注意してほしい

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	地政学とは何か
2	大国による世界覇権の争い (1)	アメリカ (1)
3	大国による世界覇権の争い (2)	アメリカ (2)
4	大国による世界覇権の争い (3)	アメリカ (3)
5	大国による世界覇権の争い (4)	ヨーロッパ (1)
6	大国による世界覇権の争い (5)	ヨーロッパ (2)
7	世界覇権を狙う2つの大国 (1)	中国 (1)
8	世界覇権を狙う2つの大国 (2)	中国 (2)
9	世界覇権を狙う2つの大国 (3)	ロシア
10	欧米による世界覇権を揺るがす国々 (1)	インド・パキスタン・バングラデシュ・アフガニスタン
11	欧米による世界覇権を揺るがす国々 (2)	トルコ・中東・イスラエル
12	欧米支配からの脱却を図る国々 (1)	朝鮮半島
13	欧米支配からの脱却を図る国々 (2)	アフリカ・中南米
14	欧米支配からの脱却を図る国々 (3)	アジア (1)
15	欧米支配からの脱却を図る国々 (4)	アジア (2)
16		

科目コード	14003				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ [健康科学科用]				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

<授業の到達目標>

柔道整復師に求められる職業倫理及び、社会保障制度について学び、柔道整復師の役割を理解し、自身の目指すべき方向性を明確にする。柔道整復師の職務と誇りを育むとともに、ビジネスマナー、自己分析力、業界に対する知識を身に付ける。

<授業の方法>

必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に連絡した内容を予習して授業に臨む（毎回1時間程度）復習：講話後はレポートを提出し、柔道整復師の理解を深める。（毎回1時間程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業意欲・態度：30%授業中の意見交換：20%授業課題・レポート提出：50%

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	キャリアプランの設計①	前期授業および夏季休暇の省察就職活動に向けたキャリアプランの設計
2	職業倫理及び関係法規①	健康保険制度の概要および不正請求について
3	職業倫理及び関係法規②	業務におけるリスクマネジメント
4	社会保障制度①	関連企業講話「社会保障費から読み解く本邦の社会保障制度」
5	社会保険制度②	関連企業講話「少子高齢化が進む日本で接骨院が果たすべき役割」
6	社会保障制度③	関連企業講話「老齢年金を始めとした各種年金制度の概要」
7	社会保障制度④	関連企業講話「障がい者への福祉サービスを始めた社会福祉」
8	社会保障制度⑤	企業関連講話⑤「公的扶助（生活保護）制度」
9	グループ討議①	競技スポーツ分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
10	グループ討議②	医療分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
11	グループ討議③	介護・福祉分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
12	就職セミナー①	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業の説明を聞く。
13	就職セミナー②	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業の方と面談する。
14	キャリアプランの設計②	春季休暇ならびに来年度の就職活動に向けたプランを設計する
15	キャリアプランの設計③	自分自身のキャリアプランを他者と共有する
16		

科目コード	14003				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ [BC留学生用]				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の人生を実りあるものにするためには、きちんとしたキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。本科目では、前期は進路別の就職活動の基本的スケジュールを理解するとともに、自己理解、職業・仕事の理解を通じ自身の目指すべき方向性を明確にする。後期は、就職活動に必要なビジネスマナー、自己分析、業界研究、面接対策等について実践的に学習していく。

<授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。

<授業の方法>

講義と演習を組み合わせて実施する。業界・企業研究に関連する授業回で、グループワークを行う。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（各回60分程度）：課題の指定された部分を通読したうえで、分からない言葉を調べる。復習（各回80分程度）：授業で学んだことを踏まえて、自身のキャリアについて考えたり、進路決定に向けた準備を進めたりする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはGoogle Classroomで行う。

<教科書>

<参考書>

久保田学（2018） 「留学生のための就職内定ワークブック」 日本能率協会マネジメントセンター
グエン・テュアン・ズオン（2018） 「ベトナム人が日本企業に就職するための心得」 日本ベンチャー大書パブリッシング

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	前期振り返り	前期の振り返りと後期の授業概要インターンシップや業界・企業研究などの成果の共有
2	就職活動におけるマナー (1)	基本的な身だしなみ
3	就職活動におけるマナー (2)	敬語、電話・メールの日本語表現
4	インターネットを活用した就職活動の展開	就活サイトの活用法、各種データベースの利用方法
5	企業を知る (3)	個別企業の事例に基づく企業理解 (外部講師予定)
6	業界・企業を選ぶ	業界・企業選びの方向性
7	履歴書とエントリーシート	書類提出の意味、基本的な書き方・注意点
8	日本の税制と福利厚生	給与と福利厚生、所得税
9	自己分析	自分の「これまで」と「これから」を改めて見つめ直す
10	自分のことを他人に伝える	自己PRのための日本語表現
11	面接対策 (1)	基本的な手順、よく聞かれる質問
12	面接対策 (2)	面接のロールプレイング [基本編]
13	面接対策 (3)	面接のロールプレイング [応用編]
14	在留資格について	「特定活動」資格の説明
15	まとめ	全体の総括と補足説明
16		

科目コード	11300				区分	教養科目			
授業科目名	コミュニケーションの心理学				担当者名	赤松 久美子			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

日常生活や社会生活における人間関係、コミュニケーション、集団行動、社会現象や社会的問題などについて、人間の行動や心理的側面から捉えた概念や考え方を学ぶ。そのうえで、自分と他者との関係や自分らしさについて、毎回の授業で取り組むワークシート課題を通して自ら考える。

<授業の到達目標>

1. 人間関係やコミュニケーションに関係する心理についての基礎的な知識を習得する。2. 他者の思いに耳を傾け相手を尊重する態度を身に付け、自身の意見や考えをまとめ他者に適切に伝えることができる。3. 他者と自分の同異に気づき、自身の内面についてより深く考えることができる。

<授業の方法>

・事前に指定された教科書の範囲を読んでいることを前提として、教科書に基づいて講義を進める。・講義中や講義後にレポートを作成し提出することを、適宜課題として課す。・授業形態は、課題に対するディスカッションや、ロールプレイ等を含み、その取り組み姿勢を評価対象とする。・レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・フォームなども活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、次回の内容に目を通しておくこと。（1時間程度）・授業後はレポート課題に取り組むことで、授業内容の整理を行うこと。（1時間程度）・章末「心理学の話」から、適宜小テストを実施するので、復習をしっかり行っておくこと。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（意欲・発言など）20% 課題レポート2回 60% 小テスト20%課題については、模範となるレポートを示し共有する。提出期限を過ぎた課題は受け付けない。毎回教科書を使用するので、購入が履修条件の一つとなる。

<教科書>

水國照光ほか（2018） 楽しく学んで実践できる対人コミュニケーションの心理学 培風館

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の目的・概要・進め方、成績評価方法について説明する。
2	自己理解①	自分を知ろう～内面的特徴とコミュニケーション・スキルの理解～
3	自己理解②	・自己紹介をとおした自己開示・互恵性の原理、自己効力感について学ぶ
4	他者理解	お互いのことをもっと知り合おう・グループ作り、グループ課題に取り組む
5	傾聴訓練①	聴き上手になろう・応答、質問訓練。非言語メッセージへの理解
6	傾聴訓練②	傾聴のスキルを使って信頼関係を築こう・受容と共感
7	前半のまとめと振り返り	・課題レポート作成
8	対人コミュニケーション①	・話し上手になろう・対人葛藤場面への対処・アサーション(アサーティブな自己表現)
9	ノンバーバル・コミュニケーション	ノンバーバル・コミュニケーションを学ぼう・印象形成、表情、パーソナルスペース
10	認知の違い	自分と他者の「認知」の違いを知ろう・認知の違いを知って、ミスコミュニケーションを防ぐ
11	対人コミュニケーション②	対人コミュニケーションをゲームで学ぼう・ゲーム課題「ザ・サバイバル」「人狼ゲーム」
12	自己理解③	より良いコミュニケーションのために・自己分析
13	自己理解・他者理解	より良いコミュニケーションのために・分析心理学より
14	他者理解②	より良いコミュニケーションのために・ジェノグラムの活用
15	後半のまとめと振り返り	課題レポート作成
16		

科目コード	13107			区 分	教養科目				
授業科目名	近現代史			担当者名	小川 正人				
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、本授業では戦後復興のシンボルの一つである1970年に開催された大阪万博を通して戦後、昭和期、特に1970年代の歴史を考えていく。

<授業の到達目標>

大阪万博に関する多様な記録を教員と共に選択し、解説することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、講義や議論を通じて、1970年に開催された大阪万博が、現在の社会や生活にどのような影響を与えているかを理解し、2025年に開催予定の関西万博についても考える能力とアイデアを発信する能力も身に付けていきたい。

<授業の方法>

対面授業で進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出していく。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。会議や出張の場合、オンラインもしくはオンデマンド授業に変更となる可能性もある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業での討論や活動に備えて、決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では歴史だけでなく、歴史を起因とした国内外のニュースについても注視して欲しい。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・態度（40%）授業課題（60%）課題については1週間程度の期間を設ける。提出期限を過ぎた場合は、採点・成績の対象とはならないので注意してほしい。課題提出をもって出席とし、課題未提出や期限後の提出は欠席となるので十分に気をつけて欲しい。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業・シラバス説明
2	歴史とは？	歴史を学ぶ意味とは？
3	大阪万博とは何だったのか（1）	万博とは何か
4	大阪万博とは何だったのか（2）	国内外パビリオン
5	大阪万博とは何だったのか（3）	万博から生まれたもの：携帯電話
6	大阪万博とは何だったのか（4）	万博から生まれたもの：明治ブルガリアヨーグルト
7	大阪万博とは何だったのか（5）	万博人物伝（丹下健三、岡本太郎）
8	1970年代とはどんな時代だったのか（1）	学生運動・学生闘争
9	1970年代とはどんな時代だったのか（2）	三島由紀夫について
10	1970年代とはどんな時代だったのか（3）	1970年代の流行
11	1970年代とはどんな時代だったのか（4）	1970年代の音楽
12	1970年代とはどんな時代だったのか（5）	あさま山荘事件とカップヌードル
13	1970年代とはどんな時代だったのか（6）	クリスマスとケンタッキー・フライド・チキン
14	1970年代とはどんな時代だったのか（7）	1970年代のヒット商品
15	まとめ	50年後の2073年を予想しよう
16		

科目コード	10207				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅣ				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、学校現場、公務員、企業等の職場で必要とされるIT利活用力に対応した内容である。コンピュータリテラシーの高度な技術の解説とコーディング実習を行い、社会人として必要となるICTスキルを身に付ける。具体的には、Excelの関数機能だけではなくマクロ（VBA）が使えること、データの種類や特性を知ることによってデータを正しく収集・処理・分析をし、PowerPointやExcelのグラフ機能、また、Googleのスプレッドシート等のクラウドを使用して外部へ正しく発信する方法などを学習する。さらに、プログラミングの基礎を理解し、簡単なソフトウェアを使用したプログラミング授業の組み立てができるようになる。

<授業の到達目標>

社会人として必要となる以下のICTスキルを身に付けることを目標とする。1. Excel VBAによるデータ処理技術、2. Scratchによるプログラミング授業の指導力、3. 正しいデータの処理手法（収集・処理・分析・発信）、4. 情報セキュリティの知識とその指導力

<授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、教員がいくつかのポイントの解説をし、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ内容を用いた練習問題を行い、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業を進める。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストは、教員がデジタルにて配信するか、または、授業中に指示するWebサイトから入手する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前課題を予習することを必須とする。わからない箇所は、基本的には、自力で調べること。（どうしてもわからない場合、わかる人に聞いてでもできるようにしておくこと）PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題・受講態度 15%、毎回の講義内課題 45%、総合課題 40%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業ガイダンス	ガイダンス、PC環境の確認、GIGAスクール構想についての確認、企業が求めるITスキルの確認
2	情報セキュリティ	SNS、メール、ネット利用における情報セキュリティに関する問題を考える
3	プログラミング（1）	プログラミングについての解説、デジタル教材やデジタル教科書の導入についての課題について考える
4	プログラミング（2）	AI（人工知能）についての解説、教育現場におけるAI導入の課題について考える
5	プログラミング演習（1）	Excelの関数機能の復習、VBAによるデータ処理についての解説と演習
6	プログラミング演習（2）	VBAによるデータ処理の演習
7	クラウド処理について（1）	Google Classroom、Google Formsを使用した授業の組み立てとアンケートの取り方
8	クラウド処理について（2）	Google Suiteの利用についての解説と演習
9	データサイエンス（1）	データ収集（データの質と種類）
10	データサイエンス（2）	データ分析とデータの読み方
11	データサイエンス（3）	PowerPointとExcel、Google スライドとスプレッドシートを使用したデータの発信方法について
12	プログラミング演習（3）	プログラミング体験（Scratch）①
13	プログラミング演習（4）	プログラミング体験（Scratch）②
14	総合課題（1）	グループ発表会①
15	総合課題（2）	グループ発表会②
16		

科目コード	14001			区 分	教養				
授業科目名	キャリアサポート [企業]			担当者名	佐藤 典子／濱嶋 幸司				
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業は体育学科、教育経営学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している企業就職を希望する学生対象の講義である。就職活動だけではなく、社会に出てすぐに役立つスキルを習得する。履修者各自の進路に合わせて授業内容を選択できるように設定しており、履修者が社会に出るにあたって感じる課題をタイムリーに解決できるように構成されている。この授業は進路決定届を出した時点でオンデマンドに切り替えることが可能である。また、学内で随時実施されている企業説明会に参加することで、出席代替えにすることもできる。

<授業の到達目標>

1) 納得した進路決定をする。2) 実践に役立つプレゼンのスキル、ビジネスマナーの知識を身につける。

<授業の方法>

グループ・ワーク、オンデマンド、学内企業説明会への出席など。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

基本的に授業内で完結できるように時間配分をするが、各自の学びの進行具合によっては自宅学習もある。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲・態度 60%、内容理解 40%

<教科書>

随時配布物を配る。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の目的、意義、システムを理解する。
2	自己概念①	自己概念として「強み・弱み・志向」を棚卸する。
3	自己概念②	第2回の内容を受けた、自己紹介スライドを作成する。
4	自己概念③	各自己紹介をグループで共有して改善する。
5	キャリアビジョン①	5年後、10年後のキャリアビジョンを描く。
6	キャリアビジョン②	第5回の内容を受け、自己キャリアビジョンのスライドを作成する。
7	キャリアビジョン③	各自のキャリアビジョンをグループで共有して改善する。
8	入社希望企業について	入社希望企業についてスライドを作成する。
9	各自のキャリアビジョン	入社希望企業についてスライドを作成する。
10	ビジネスマナー①	ビジネスマナー検定3級について講座形式で学ぶ。
11	ビジネスマナー②	電話実務について講座形式で学ぶ。
12	ビジネスマナー③	書類関連について講座形式で学ぶ。
13	ビジネスマナー④	組織の機能について講座形式で学ぶ。
14	ビジネスマナー テスト	(公社)実務技能検定協会認定「ビジネス実務マナー検定」の模擬試験を受験する。
15	総論	これまでの振り返りをして学びの総括をする。
16		

科目コード	14001				区分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート [教職]				担当者名	千葉 照久/坂根 清貴/奥山 優/安井 正郎 /練苧 千之/大崎 卓己/延原 まどか/岩田 清隆/中野 隆重			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業の目的は、キャリアデザイン等で学んだ教師としての基礎知識をもとに、教員採用試験合格に向け、より実践的な資質・能力を身につけることである。その目的を達成するために、教員採用試験に向けた心構えや具体的な攻略法についての講義・演習を中心に、より実践に即した形で指導する。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

・教師としての基礎知識や学校現場の課題を理解することができる。・教員採用試験の傾向と対策を理解し、志望する自治体に応じた面接、論作文、模擬授業等の実践力を高めることができる。・教師のやりがい、心構え等を理解し、自らの理想とする教師像を明確にすることができる。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明 ・課題についてのグループ協議・課題についての演習 ・レポートの提出

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・学習予定表に沿った内容に対して、課題意識をもたせる。(予習) ・各回の講座の内容について、個人またはグループでの話し合いの中で、自分の考えを深めることができるようにする。・学んだ事を通し自分の考えをレポートとしてまとめることができる。(復習：30分程度)

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 20% 受講態度 20% 講義内での課題等 20% 最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教員採用試験合格に向けて教員採用試験の事務手続きキャリアサポートの概要	採用試験合格に向けた取り組みについて提出願書の記入方法や注意事項調査票の記入・提出等
2	社会人のマナー自己PR作成について	立ち振る舞い、服装とあいさつ 自己PR作成のこつ自己PR作成
3	自己アピールの仕方学習進行表	自己アピールの仕方 グループで自己アピール演習学習進行表を基にした情報交換
4	個人・集団面接の攻略法	個人・集団面接の回答の仕方自分の考えをわかりやすく伝える手立て
5	学長講話	進路に向けてのメッセージ
6	集団討論等の攻略法	集団討論・グループ活動の実施形態複数の受験者との討論の進め方課されるテーマの過去問の分析※形態によって自治体別に分かれる
7	教育現場の課題 1「いじめ・不登校への対応」	グループに分かれて集団討論
8	実践に即した場面指導演習	場面指導の実際現場で起こりうる場面での対処法
9	教育現場の課題 2「インクルーシブ教育」	グループに分かれて集団討論
10	受験に際しての心構え個人面接の攻略法	一次試験(二次試験)に臨む心構え聞き手を意識した回答の仕方IPUに関する質問への回答の仕方
11	模擬授業の攻略法	模擬授業の概要先輩の模擬授業(VTR視聴)学習指導案の書き方と模擬授業の実際
12	教育現場の課題 3「主体的・対話的で深い学び」	グループに分かれて集団討論
13	実践に即した面接演習(1)	授業に関する面接対策を中心に
14	実践に即した面接演習(2)	夏期対策講座について 面接の評価の観点を意識した面接の仕方上手な展開の仕方 面接講座の仕上げ
15	レポート	900字 60分課題「学んだことをどのように教職に役立てるか」
16		

科目コード	14001			区 分	教養科目				
授業科目名	キャリアサポート [公務員]			担当者名	横内 浩平				
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな出題科目について十分理解しておく必要がある。この講義では、今年度の公務員試験に必要な知識のうち、次の内容を身に付けることを目的とする。1. 直前期に必要な「問題演習」2. 二次試験対策のうち主に「集団討論」「集団面接」

<授業の到達目標>

1. 公務員への理解を深め、公務員として働くことの意義を認識することができるようになる。2. 採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。3. 今年度の公務員試験に必要な知識を養成し、採用に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリントを使用し授業、問題演習を進める）2. 振り返り（授業の内容に関するまとめ）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（30分程度）復習：次回講義までに、該当する問題を解けるようにしておく（90分以上）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト35%、授業態度 15%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	問題演習 (1)	政治
3	問題演習 (2)	経済
4	問題演習 (3)	日本史
5	問題演習 (4)	世界史
6	問題演習 (5)	地理
7	問題演習 (6)	生物・地学
8	二次試験対策(1)	集団討論・集団面接等(1)
9	二次試験対策(2)	集団討論・集団面接等(2)
10	二次試験対策(3)	集団討論・集団面接等(3)
11	二次試験対策(4)	集団討論・集団面接等(4)
12	二次試験対策(5)	集団討論・集団面接等(5)
13	二次試験対策(6)	集団討論・集団面接等(6)
14	二次試験対策(7)	集団討論・集団面接等(7)
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など
16		

科目コード	14001				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート [幼保]				担当者名	檜 日佳			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園・保育所・認定こども園・福祉施設等において保育職を志望する学生を対象とした選択科目である。保育者としての基礎知識と採用試験合格に向けた具体的な指導をする。

<授業の到達目標>

1. 保育者としての資質や能力を高めることで、保育者として働くことへの意思を明確にする。2. 保育職に進むために必要な論作文、面接、保育実技などの技術を高め、志望する自治体や法人の採用試験に合格する。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。（30分）
・復習：各回の講義の内容について、個人またはグループで復習をし、ワークシートの追加記入や復習をする。（60分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度20%、課題50%、小テスト30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	職業選択と就職活動の意思確認と合格までの見通し	授業の目的と概要
2	合格までの計画	採用情報と求人票の整理将来を見通した長期計画と短期計画
3	願書の作成	自分の強みを生かした願書の作成
4	願書の郵送	封筒の書き方と願書送付のマナー
5	面接（1）	面接ノートの整理希望自治体、法人の試験傾向と対策
6	面接（2）	集団面接攻略のポイント学生相互の集団面接演習
7	面接（3）	学科教員による集団面接演習
8	面接（4）	個人面接攻略のポイント学生相互の個人面接演習
9	面接（5）	学科教員による個人面接
10	面接（6）	集団討論攻略のポイント学生相互の集団討論演習（1）
11	面接（7）	集団討論演習（2）
12	論作文（1）	保育の時事問題に関する論作文（1）
13	論作文（2）	保育の時事問題に関する論作文（2）
14	学びのまとめ（1）	学びのまとめと振り返り
15	学びのまとめ（2）	合格までの就職活動保育職のキャリア形成
16		

科目コード	14001				区 分	教養			
授業科目名	キャリアサポート [健康科学科用]				担当者名	河野 儀久			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

このクラスは健康科学科に在籍する学生が対象である。接骨院、整形外科クリニックをはじめとした医療機関、フィットネスクラブ、介護事業所などへの就職を目指す学生の就職活動における指導を実施する。

<授業の到達目標>

日本で就職を希望する留学生にエントリーシート記入の方法、面接対策、採用試験対策についてのサポートと指導をおこない、学生の希望に応じた企業・団体への内定を獲得できることを目標とする。また出身国に戻り就職を希望する留学生に対しては、より多くの情報を集め学生と個別に相談しながら、希望に沿った企業や団体への就職獲得を目指す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、演習、面談の形で実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回講義で学習した内容を見直して復習し、授業終了時に示す内容等を予習する。予習復習にはHPで集めた情報の中より有用なものを抽出し、レポートはword、excel、powerpointを用いDropboxを用いて提出する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内の討論参加度合 30%、講義内での課題遂行度合 30%、最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的とその概要について
2	自己分析	就職先となる医療・福祉業界の特徴を知る。
3	就職するには(1)	自分のアピール方法を知る
4	就職するには(2)	就職活動の流れと準備
5	就職するには(3)	企業・業界を知る
6	就職するには(4)	情報収集の方法
7	就職するには(5)	希望企業・業界の決定
8	就職活動サポート(1)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(1)
9	就職活動サポート(2)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(2)
10	就職活動サポート(3)	筆記試験・適性検査対策(1)
11	就職活動サポート(4)	筆記試験・適性検査対策(2)
12	就職活動サポート(5)	個人面接・集団面接対策
13	就職活動サポート(6)	個人面接・集団面接練習(1)
14	就職活動サポート(7)	個人面接・集団面接練習(2)
15	まとめ	就職活動を振り返って
16		

科目コード	14001			区 分	教養科目				
授業科目名	キャリアサポート [BC留学生用]			担当者名	大平 真紀子				
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、キャリアデザインで取り組んだ内容をもとに、日本の会社で働くために必要な資質、知識やマナーをさらに向上させることを目指す。日本で就労するためには日本人の考え方、国との働き方の違い、法規に関する問題などを知り、日本社会の中で共生していく必要がある。そのための知識の養成や心構えについて学ぶ。

<授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。 ※留学生が卒業後に「特定活動」の在留資格を得るためには、本科目の単位を修得する必要があるので留意すること。

<授業の方法>

講義と演習を組み合わせる。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出することもある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回講義で学習した内容を見直して復習し、授業終了時に示す内容等を予習する。（予習・復習とも30分程度）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはGoogle Classroomで行う。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明
2	就職活動の中間報告	各自の就職活動の「これまで」と「これから」
3	キャリアについて考える	内的キャリアと外的キャリア、キャリア・アンカー
4	自己分析 (1)	人生曲線、自分史
5	自己分析 (2)	自己PRのための日本語表現
6	業界・企業研究 (1)	業界・企業を捉える多様な視点、情報収集の方法
7	業界・企業研究 (2)	選択肢を広げるための業界・企業研究
8	自己分析 (3)	業界・企業選択に向けた価値観の模索
9	業界・企業研究 (3)	価値観にもとづく業界・企業選択
10	書類の作成	読み手に伝わる日本語表現とは
11	就職活動におけるマナー	身だしなみ、電話・メール・対面での日本語表現
12	面接対策 (1)	基本的な手順、聞かれる質問
13	面接対策 (2)	個人面接のロールプレイング
14	面接対策 (3)	集団面接のロールプレイング
15	まとめ	就職活動の総括とこれからの学びに向けて
16		

科目コード	11304			区分	教養科目				
授業科目名	コーチング基礎			担当者名	稲垣 友仁				
配当年次	1年	配当学期	前期集中	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、対人支援に役立つコーチングの基礎スキルを学ぶことを目的とする。特に、相手の自律性を基軸に置きながらコーチとクライアントとの共創的な対話を創り出す部分にフォーカスをしていく。具体的には、国際コーチング連盟(ICF)のコアコンピテンシーに定められた下記の3つの分野にフォーカスし、演習を通して体験的に学んでいく。・1日目テーマ：「効果的なコミュニケーション/Co-creative coaching Basic「Communication」」相手の自律性を大切にしながら、対話を行うコミュニケーション（聞く、質問、承認、フィードバック、提案）の技術を学ぶ。・2日目テーマ：「関係性を共に築く/Co-creative coaching Basic「Relationship」」目の前の人と信頼と親密性を築いていく方法を学び、人と人との関係をシステムとして見る力を養う。・3日目テーマ：「学習と成長を育む/Co-creative coaching Basic「Lead to goal」」コーチングフローを使って相手が自発的に目標に向かうことで、相手の学習や成長を促せるようサポートする方法を学ぶ。この授業で学んだことを現在の実生活の場面及び将来の職業人として、相手と共創関係をつくりだす場面に活かすことを目的とする。*この授業は、国際コーチング連盟(ICF)からLevel1,Level2認定されている共創コーチ養成スクール(Co-Creative Coach Training School)の「Communication」「Relationship」「Lead to goal」に該当するプログラムである。

<授業の到達目標>

相手の目標達成を支援するために、共創的な対話が進められるよう以下のスキルについての知識を獲得すると同時に、体験を行うことで理解を深める。・傾聴、承認、質問などのコーチングスキルの必要性を理解できる。・相手と関係性を築くスキルの必要性を理解し、関係性をシステムとして捉える思考を身につける。・目標達成に向けての進め方を理解し、具体的なデザインを行うことができる。

<授業の方法>

この授業は実習、演習、講義形式で行われる。本授業はアクティブラーニング80%程度で進められる。※授業に関する連絡事項は、すべてGoogle Classroomで行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各日の授業後、授業時に実施したワーク等のふりかえりや日常生活との関連について考えるなど、授業内容と自分自身とのつながりについてレポートを提出。また指定された資料を読むなどの課題を求める場合もある。1日あたり、3時間程度の授業外学習時間が必要。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成績評価の配分は、実習・演習・講義への取り組み60%、レポート・課題40%とし、全体で60%以上を合格とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要、コーチングとは
2	聞く	講義・演習を通して傾聴スキルを学ぶ
3	質問	講義・演習を通して質問スキルを学ぶ
4	承認	講義・演習を通して承認スキルを学ぶ
5	フィードバック・提案 コーチングロールプレー	講義・演習を通してフィードバック・提案スキルを学び、これまで学んだすべてのスキルを使ってコーチングを体験する
6	関係づくり	人間関係における目には見えない力学的部分に意識を向け、相手と関係を作る方法を探る
7	相手に応じた関わり	相手の特徴に応じた関わり方を行う
8	関係性の力学を見抜く	人間関係に起こるシステムについて理解し、相手との関係に起こる力学的作用を感じる
9	集団への力学の応用	集団に対して関係性の力学をどのように使うか理解する
10	関係性を活かしたコーチングスキル	関係性に必要なコーチングスキルを演習を通して学ぶ
11	コーチのポジショニング	コーチングを使って相手と関わる際のポジショニングを演習を通して体感する
12	コーチングフロー	目標達成に向けて相手の導き方を演習を通して学ぶ
13	目標設定	自律的に取り組むための目標設定の方法について学ぶ
14	行動計画	決めたことをやり抜くための行動計画の立て方について学ぶ
15	コーチングロールプレー	3人1組で観察者も入れながらコーチングロールプレーを行う
16		

科目コード	14210				区 分	教養科目			
授業科目名	ボランティア活動				担当者名	小川 正人			
配当年次	1年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、ボランティア活動に対する関心が高まっており、その分野は福祉、教育、まちづくり、文化・芸術、スポーツ、環境、災害、国際協力など多岐に渡っている。これからの社会を考えると、一人ひとりが地域における課題を察知・認識し、課題解決に向け主体的に行動・活動することが求められる。本授業では実際のボランティア活動を通して、社会が直面する問題を理解していく。

<授業の到達目標>

ボランティア活動をおこなう地域、施設、団体などの沿革・事業を理解するとともに、社会貢献としてのボランティア活動の意義を体得する。

<授業の方法>

自分が選んだ地域・施設・団体において最低20時間のボランティア活動をおこなう。事前指導、事後指導（レポート作成等）、レポートによる報告をおこなう。直島スタディツアー（現代経営学科のみ・定員10名）農業体験（全学科）などのプログラムも用意している。詳細は別途指示する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学修：事前指導などにとともなう諸活動に参加する事。事後学修：事後指導（レポート作成）、報告会などの諸活動に参加する事。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ボランティア活動先からの評価 50%、活動レポート 30%、活動発表 20%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ボランティアとは何か
2	ボランティアマナーについて	ボランティアだけでなく就職活動にも使えるマナー学習
3	ボランティア事前指導（1）	どのようなボランティア活動をしたいか考える
4	ボランティア事前指導（2）	ボランティア活動先を探す（1）
5	ボランティア事前指導（3）	ボランティア活動先を探す（2）
6	ボランティア活動（1）	地域・施設・団体でのボランティア活動（1）
7	ボランティア活動（2）	地域・施設・団体でのボランティア活動（2）
8	ボランティア活動（3）	地域・施設・団体でのボランティア活動（3）
9	ボランティア活動（4）	地域・施設・団体でのボランティア活動（4）
10	ボランティア活動（5）	地域・施設・団体でのボランティア活動（5）
11	ボランティア活動（6）	地域・施設・団体でのボランティア活動（6）
12	ボランティア事後指導（1）	レポート作成指導
13	ボランティア活動事後指導（2）	発表指導
14	私が変わる、社会は変わる～21世紀の市民社会とボランティア活動	ボランティア活動とは何かを発表する
15	ボランティアに学生はどう関わるべきか	学生のボランティア参加の現状と課題について発表する
16		